

宮古市
男女共同参画に関する市民意識調査

—調査結果報告書—

令和6年12月

宮古市 市民生活部 生活課

<目 次>

I	調査概要	1
II	調査結果	2
1	回答者について	2
1-1	性別	2
1-2	年齢	2
1-3	居住地区	3
1-4	職業	3
1-5	1週間あたりの労働時間	4
1-6	世帯構成	4
1-7	婚姻状況	5
1-8	自身と配偶者・パートナーの働き方	5
2	男女平等に関する意識について	6
2-1	次の「ことば」を知っているか	6
2-2	男女平等や、性別にとらわれた役割意識の解消について	16
2-3	「男は仕事、女は家庭」という考え方をどう思うか	18
2-4	男女の地位は平等になっていると思うか	20
2-5	男女があらゆる分野でもっと平等になるために重要なこと	28
3	家庭生活について	31
3-1	家庭生活の中での家事や育児等の役割分担について	31
3-2	自身の家庭では、次にあげる仕事等は、男女どちらの役割になっているか	34
4	仕事について	46
4-1	女性が働くことについてどのように考えているか	46
4-2	男性と比較して、女性にとって働き続けることが難しい社会だと思うか	49
4-3	働きにくい状況になる理由	51
4-4	女性が働きやすくなるために必要なこと	54
5	人権の尊重について	57
5-1	女性の人権が尊重されていないと感じるとき	57
5-2	配偶者や交際相手の間で次のようなことが行われた場合、暴力だと思うか	60
5-3	これまで身の回りでDVを経験したり、見聞きしたことがあるか	73
5-4	配偶者や交際相手から暴力を受けた場合、誰かに打ち明けたり、相談したりするか	75
5-5	配偶者や交際相手からの暴力に対する取組として必要なこと	78
5-6	性的マイノリティの方にとって生活しづらい社会だと思うか	81
5-7	性的マイノリティの方が日常生活を営む上で、どのような課題に直面していると思うか	83
5-8	性的マイノリティの方が安心・安全な生活を送るための必要な取組	86

6	地域防災について.....	88
6-1	防災分野で男女共同参画の視点を活かすための必要な取組.....	88
7	男女共同参画に関する施策について.....	90
7-1	男女共同参画社会を実現していくために、国や自治体が特に力を入れて取り組むべきこと	90
7-2	宮古市が男女共同参画社会をすすめるうえでの意見・要望.....	92
	資料編.....	95
1	使用した調査票.....	95

I 調査概要

1 調査の目的

本調査は、令和7年度策定予定の第6次宮古市男女共同参画基本計画の基礎資料とするため、市民の男女共同参画に関する意識を把握することを目的として実施した。

2 調査期間

令和6年9月28日（土）～令和6年10月15日（火）
※集計には、10月18日までの返送票を含めた

3 調査対象

18歳以上の市民 1,400人

4 調査方法

郵送配布・回収（Web調査併用）

5 回答状況

	配布数①	総回答数	有効回答数②	有効回答率 ②/①
合計	1,400	483	483	34.5%
紙		393	393	28.1%
WEB		90	90	6.4%

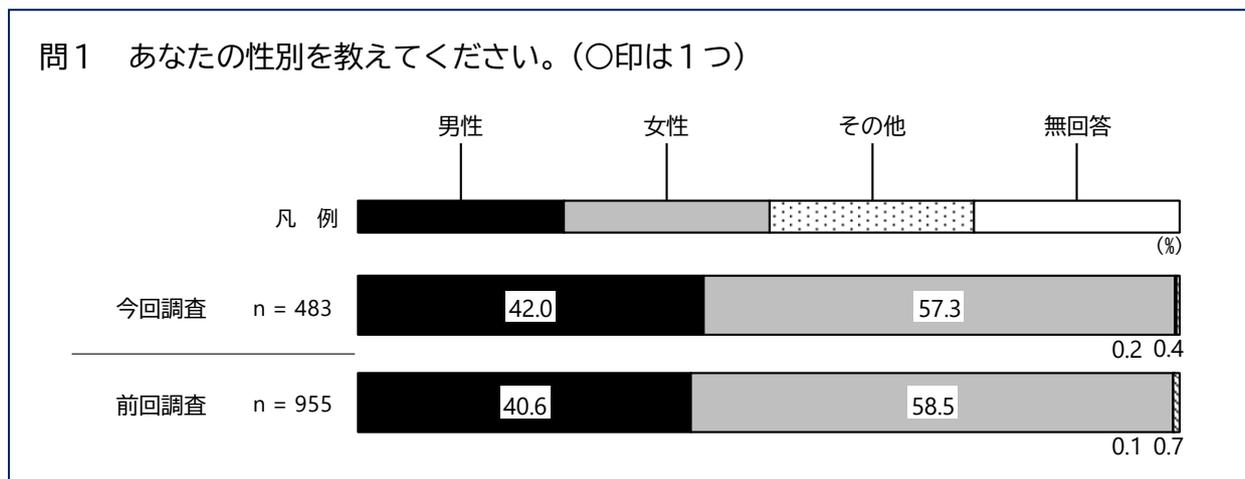
6 調査結果の見方

- n (number of cases) は回答割合算出における基数であり、100.0%が何人の回答に相当するかを表している
- 回答割合は百分率で表し、小数点第2位を四捨五入して算出している。したがって、単一回答式の質問においては、回答割合を合計しても100.0%にならない場合がある
また、複数回答式の質問においては、各設問の調査数を基数として算出するため、全ての選択肢の割合を合計すると100.0%を超える場合がある
- 回答が皆無（0件）であった選択肢の回答割合は、図表の見やすさに考慮してグラフ内に非表示としている
- 調査数(n)が少ない場合、一部のクロス軸の掲載を省略している場合がある
- 調査数(n)が少数のものは、回答割合の信頼性が低いため、コメントを省略している場合がある
- 図表及びコメントで、選択肢の語句等を一部簡略化等している場合がある
- 前回調査との比較が可能な設問では、前回調査（令和2年度実施）の調査結果も掲載している

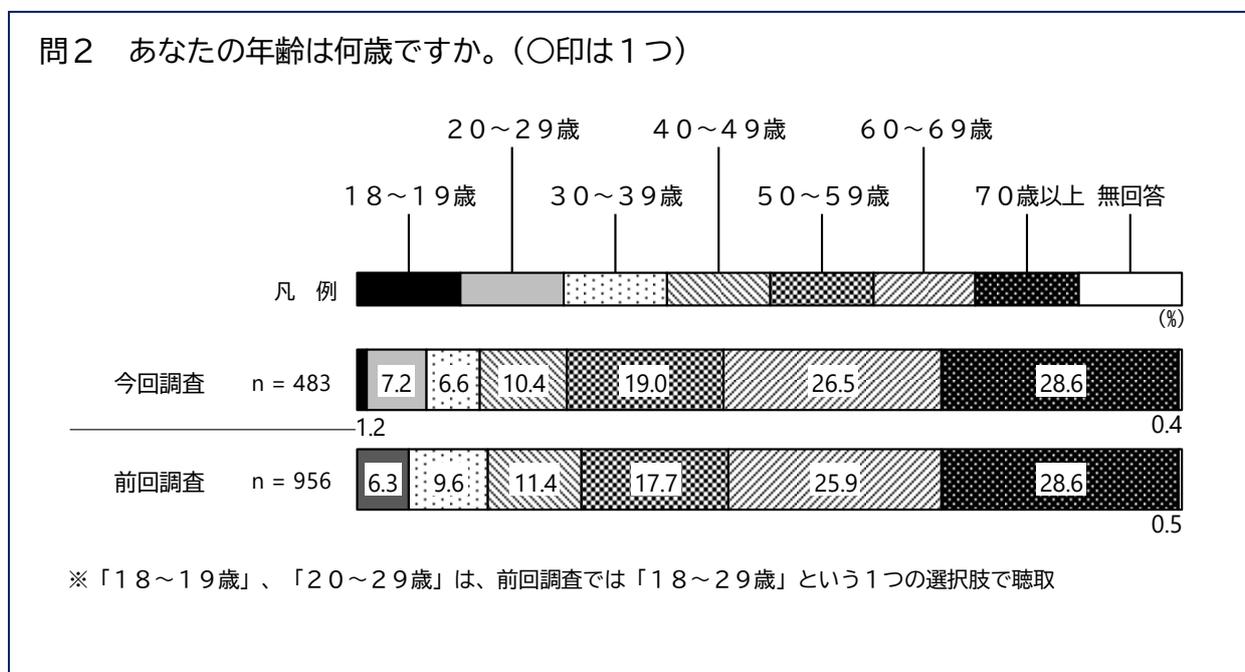
II 調査結果

1 回答者について

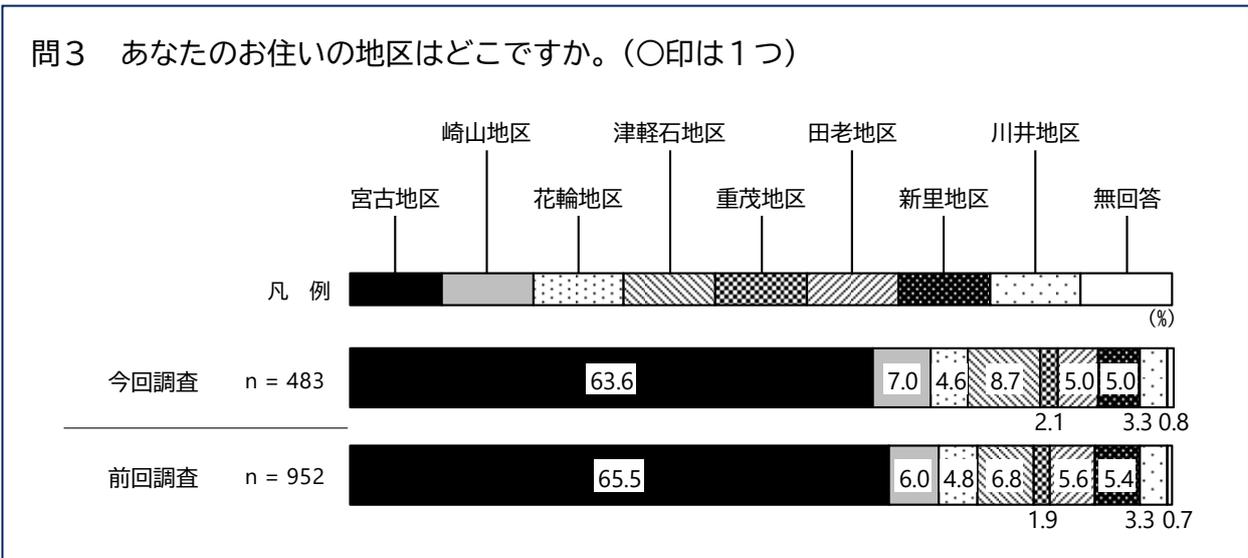
1-1 性別



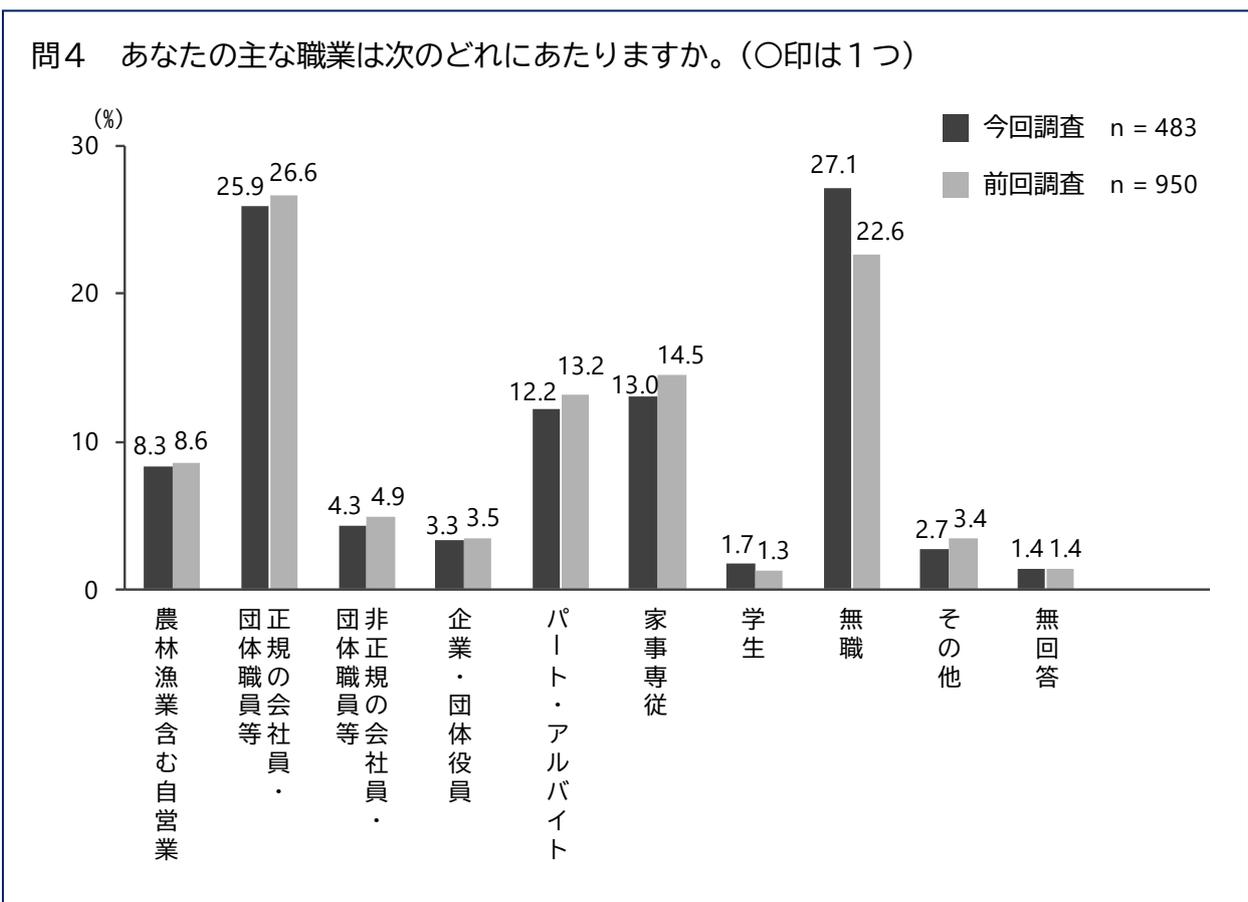
1-2 年齢



1-3 居住地区



1-4 職業



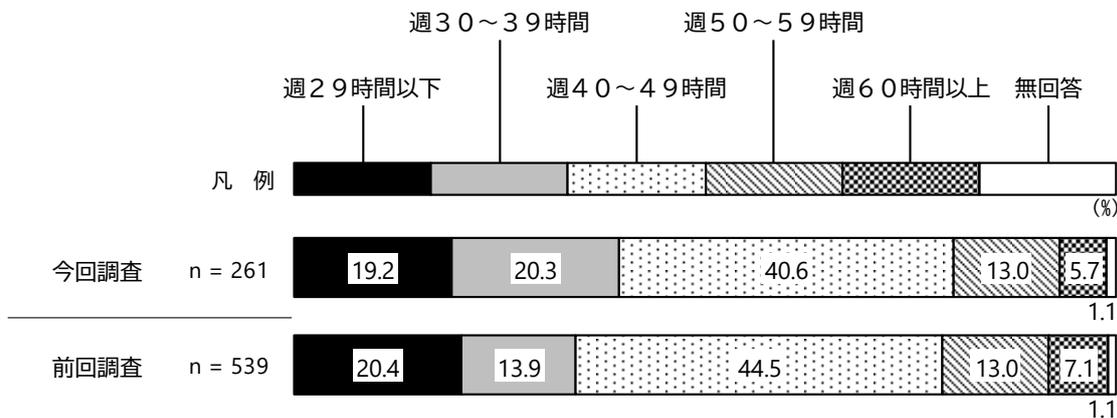
II 調査結果

1-5 1週間あたりの労働時間

【問4で、「農林漁業含む自営業」「正規の会社員・団体職員等」「非正規の会社員・団体職員等」「パート・アルバイト」と答えた方にお聞きします】

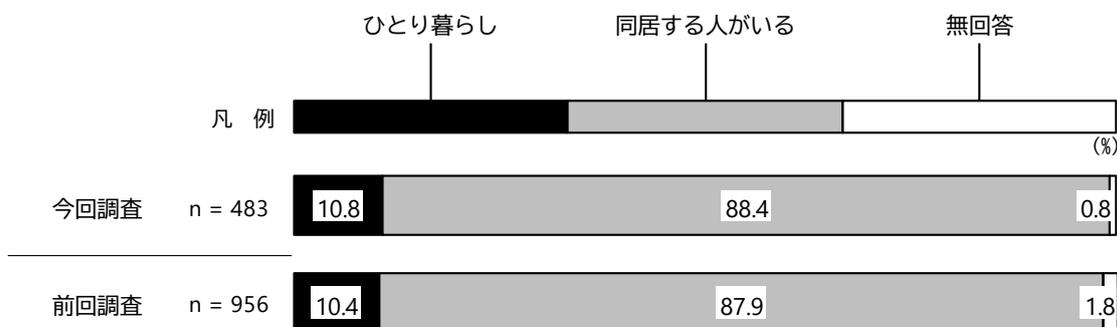
問5 1週間あたりの労働時間（残業時間も含む）は、だいたいどれくらいですか。

（○印は1つ）



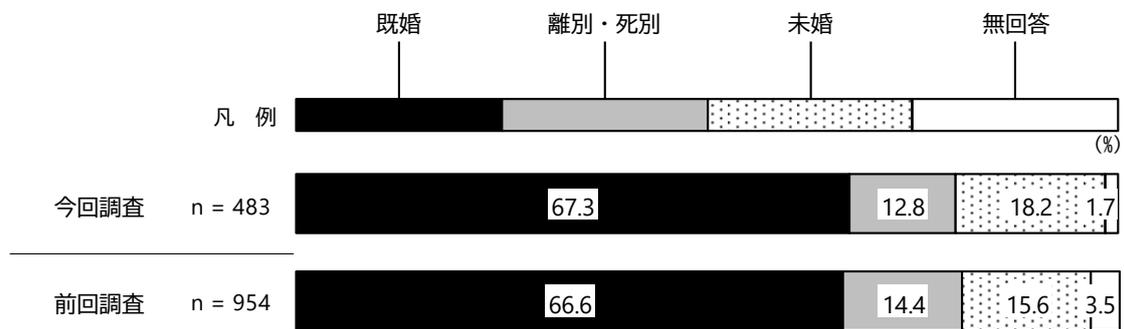
1-6 世帯構成

問6 あなたの世帯構成は次のどれにあたりますか。（○印は1つ）



1-7 婚姻状況

問7 あなたは現在、結婚（事実婚や別居中も含む）していますか。（○印は1つ）

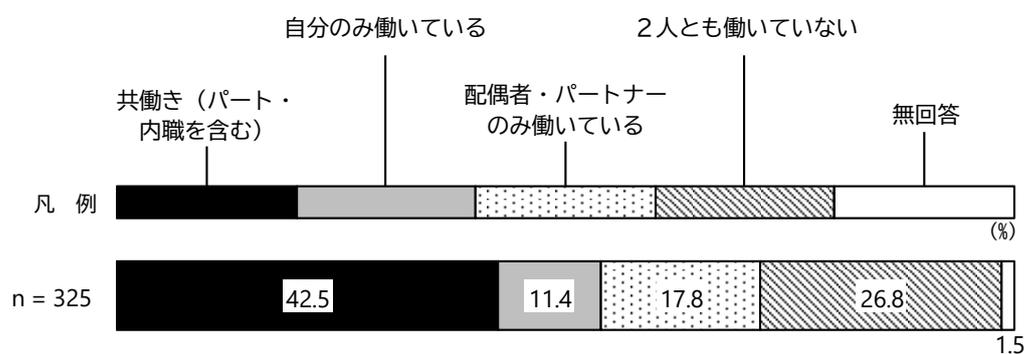


1-8 自身と配偶者・パートナーの働き方

【問7で、「既婚」とお答えになった方にお聞きします】

問8 あなたとあなたの配偶者・パートナーの働き方は、どれにあたりますか。

（○印は1つ）



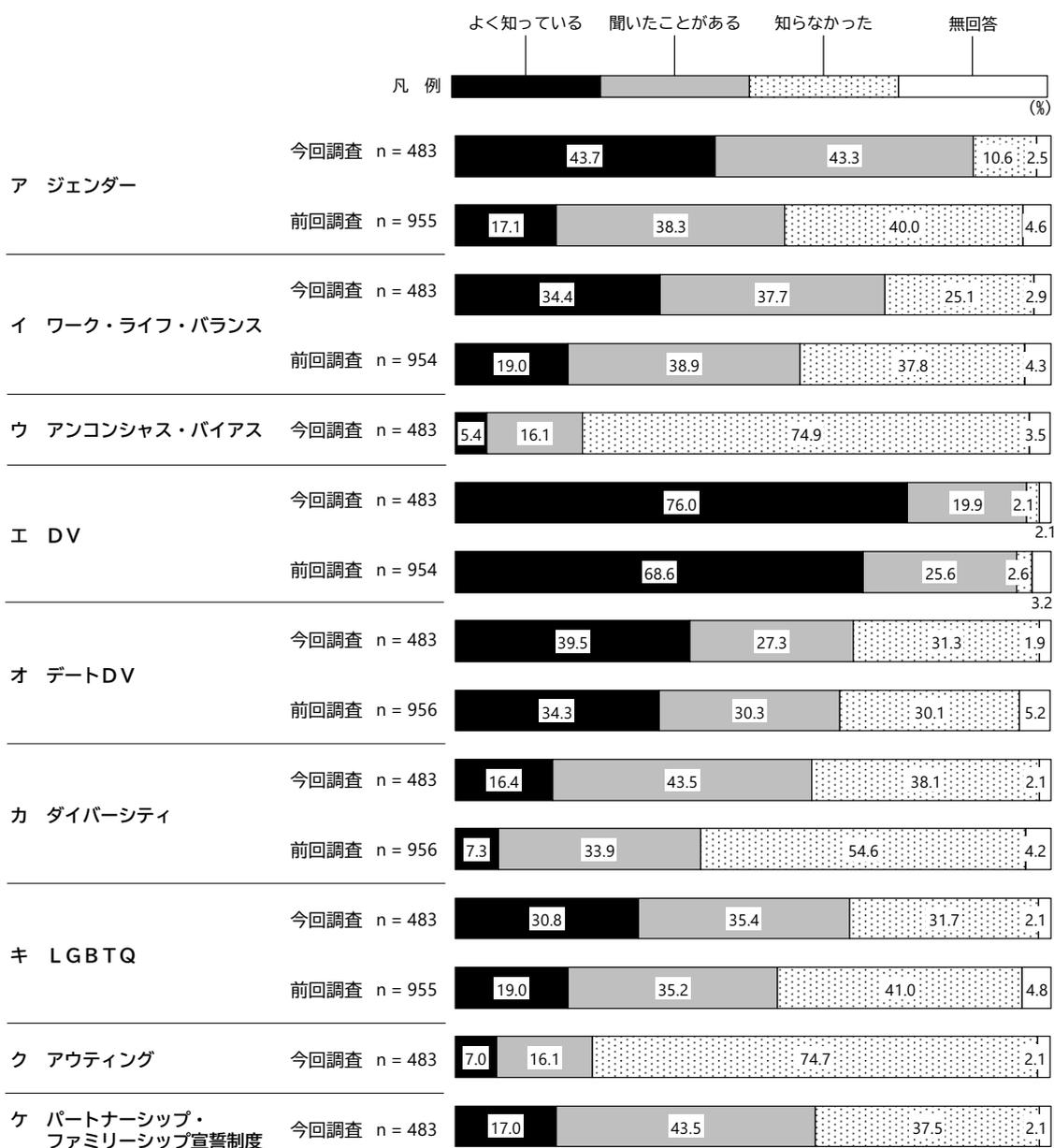
2 男女平等に関する意識について

2-1 次の「ことば」を知っているか

- ▶ 「よく知っている」について、『エ DV』が76.0%と最も高く、次いで、『ア ジェンダー』(43.7%)、『オ デートDV』(39.5%)となっている。一方、「知らなかった」について、『ウ アンコンシャス・バイアス』が74.9%と最も高く、次いで、『ク アウティング』(74.7%)、『カ ダイバーシティ』(38.1%)となっている
- ▶ 前回調査と比較すると、『ア ジェンダー』を「知らなかった」が29.4ポイント、『カ ダイバーシティ』を「知らなかった」が16.5ポイント下降している

問9 あなたは次の「ことば」を知っていますか。

(ア～ケそれぞれについてあてはまるもの1つに○印)

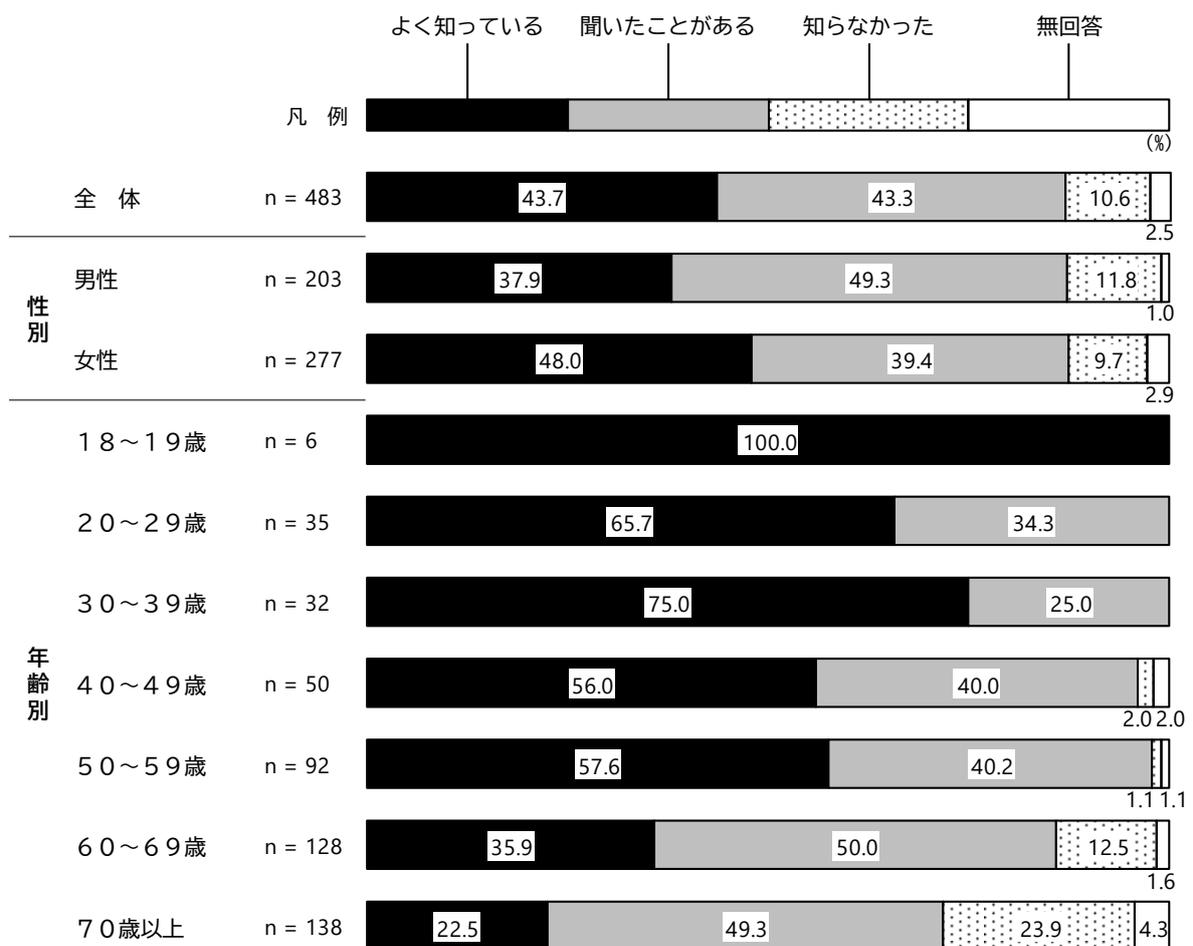


※「LGBTQ」は、前回調査の「LGBT」と比較した

【性別・年齢別／次の「ことば」を知っているか】

ア ジェンダー

- ▶ 性別にみると、女性では「よく知っている」が48.0%と、男性に比べて10.1ポイント高くなっている
- ▶ 年齢別にみると、「よく知っている」について、20～39歳では6割台～7割台、40～59歳では5割台、60歳以上では4割以下と、年齢が上がるにつれて、概ね低くなる傾向がある。「知らなかった」について、60歳以上では1割台～2割台と、他の年齢に比べて高くなっている

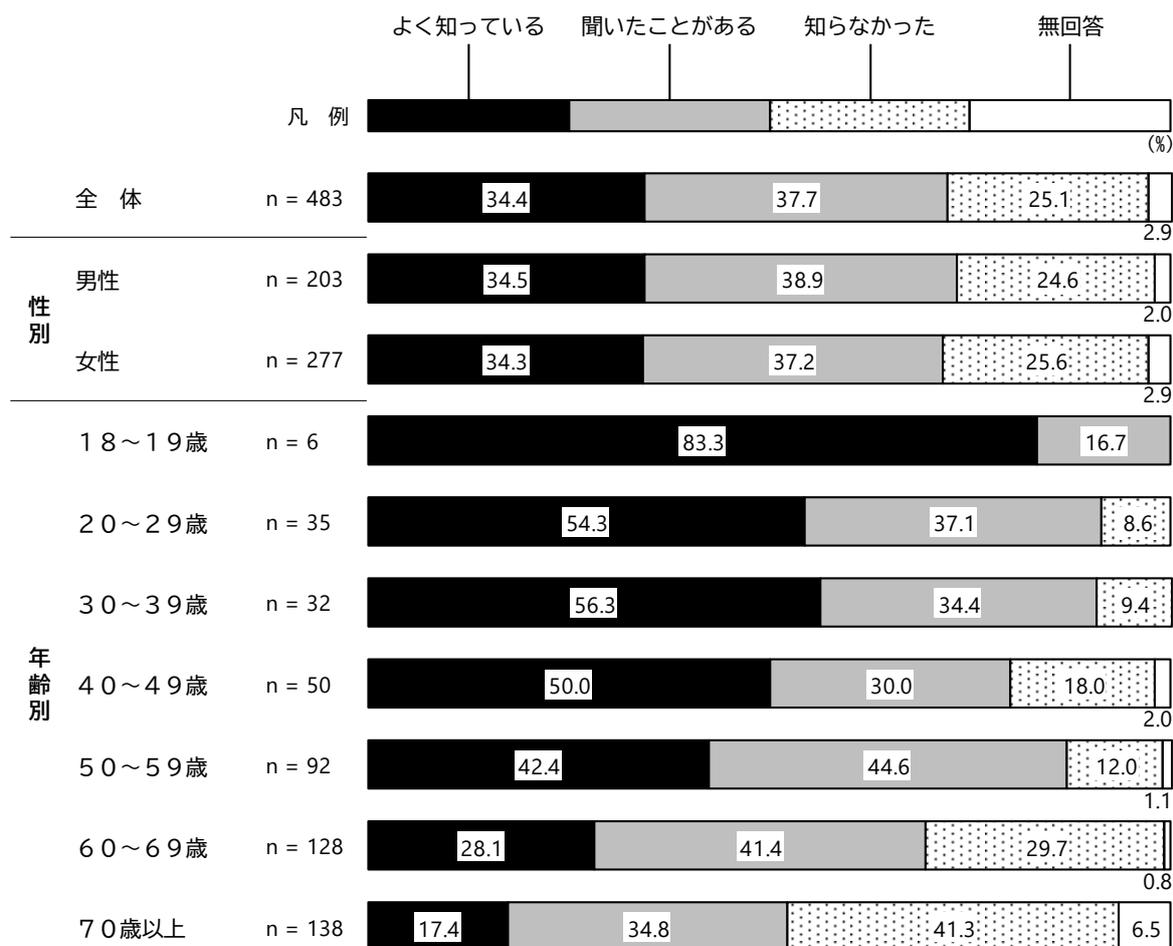


II 調査結果

【性別・年齢別／次の「ことば」を知っているか】

イ ワーク・ライフ・バランス

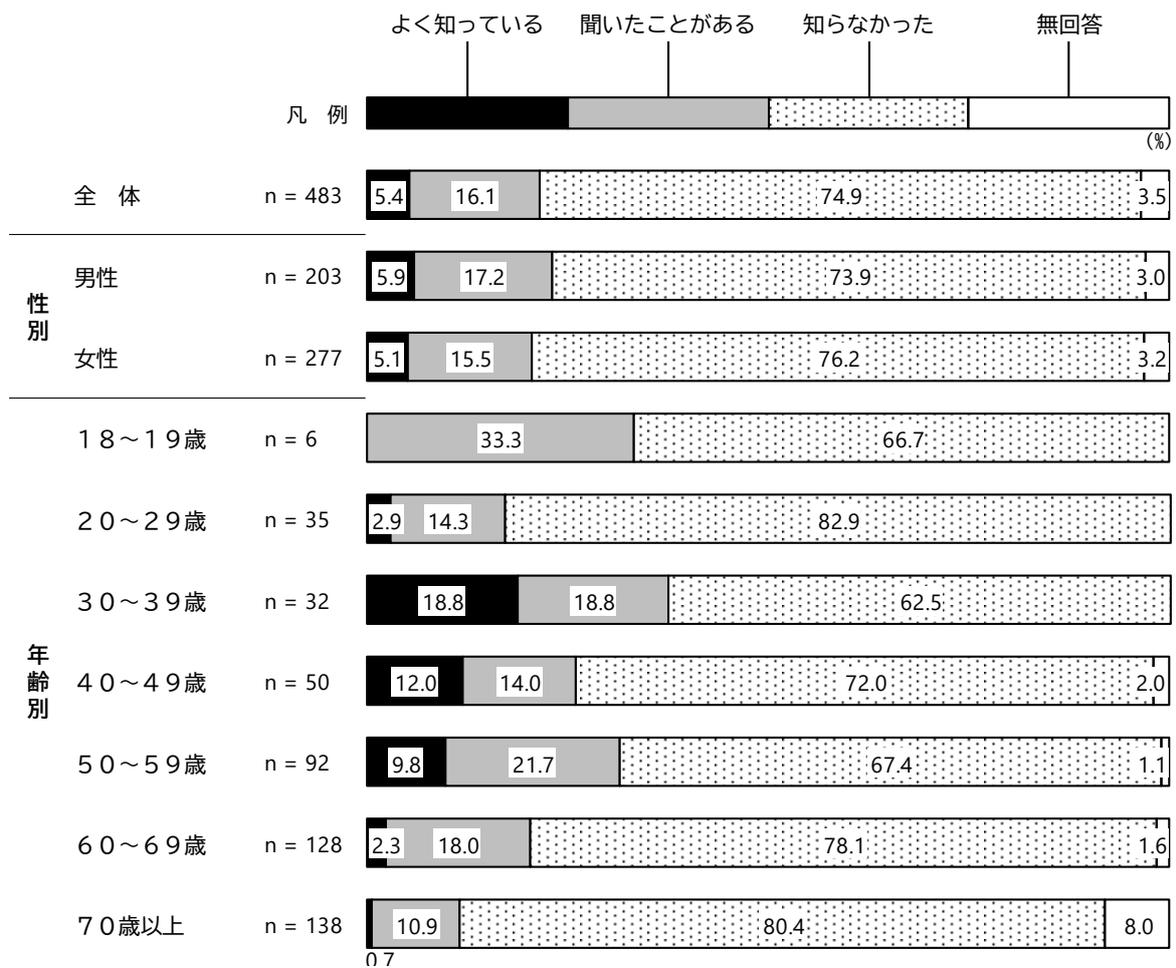
- ▶ 性別にみると、男女で概ね同様の傾向である
- ▶ 年齢別にみると、「よく知っている」について、年齢が上がるにつれて、概ね低くなる傾向がある。「知らなかった」について、年齢が上がるにつれて、概ね高くなる傾向がある



【性別・年齢別／次の「ことば」を知っているか】

ウ アンコンシャス・バイアス

- ▶ 性別にみると、男女で概ね同様の傾向である
- ▶ 年齢別にみると、「よく知っている」について、年齢が上がるにつれて、概ね低くなる傾向がある

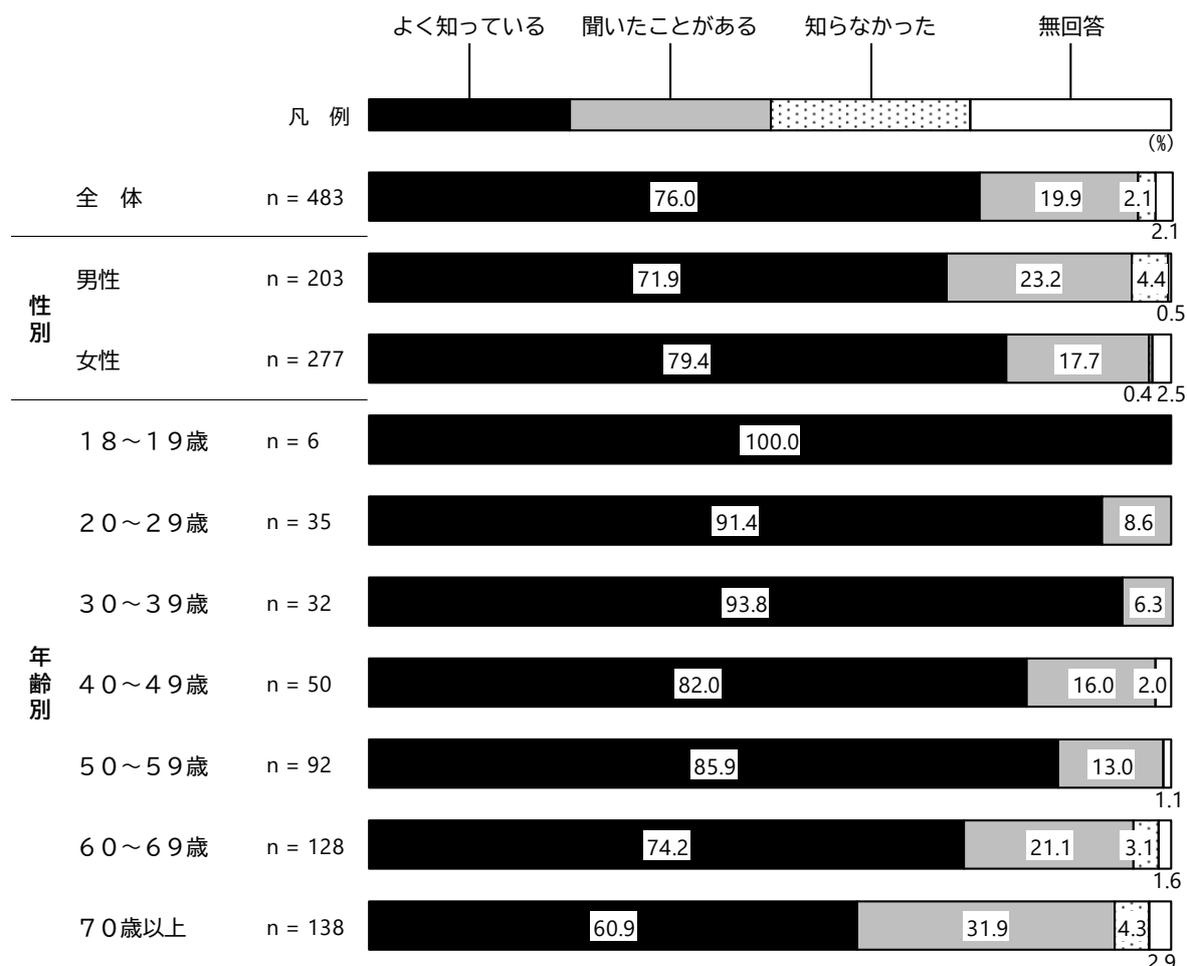


II 調査結果

【性別・年齢別／次の「ことば」を知っているか】

エ DV

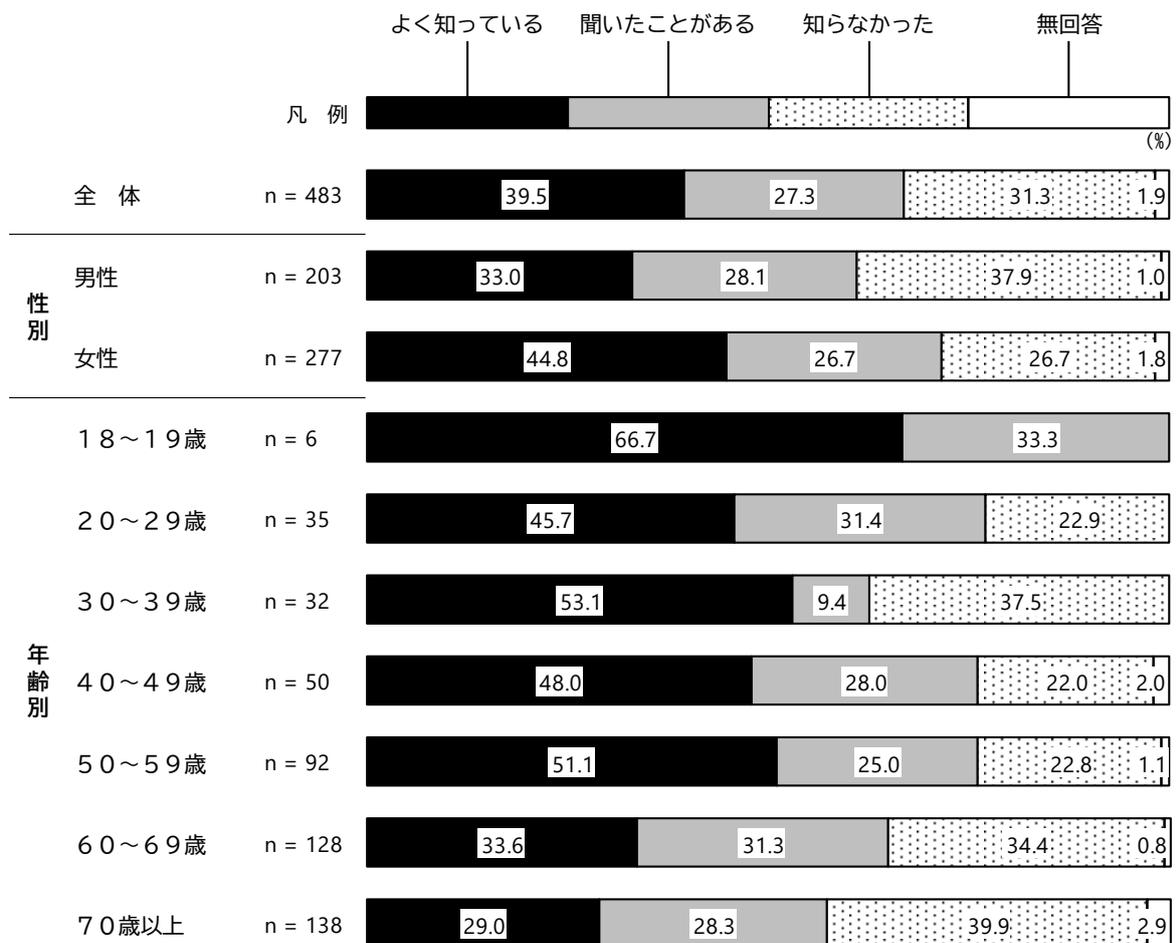
- ▶ 性別にみると、女性では「よく知っている」が79.4%と、男性に比べてやや高くなっている
- ▶ 年齢別にみると、「よく知っている」について、20～39歳では9割台、40～59歳では8割台、60歳以上では約6割～7割台半ばとなっており、年齢が上がるにつれて、概ね低くなる傾向がある



【性別・年齢別／次の「ことば」を知っているか】

オ デートDV

- ▶ 性別にみると、女性では「よく知っている」が44.8%と、男性に比べて11.8ポイント高くなっており、男性では「知らなかった」が37.9%と、女性に比べて11.2ポイント高くなっている
- ▶ 年齢別にみると、60歳以上では「よく知っている」が約3割～3割台半ばと、他の年齢に比べて低くなっている。「知らなかった」について、年齢が上がるにつれて、概ね高くなる傾向がある

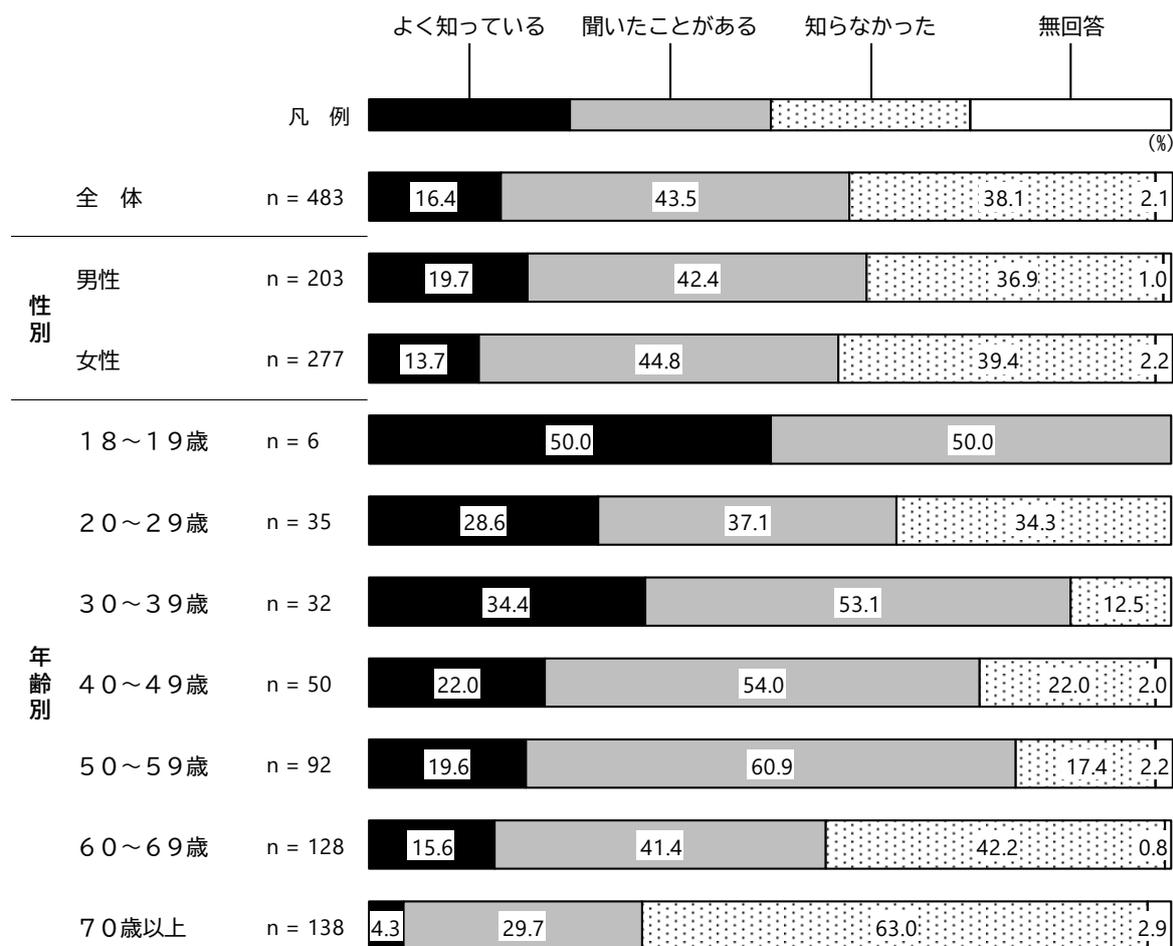


II 調査結果

【性別・年齢別／次の「ことば」を知っているか】

カ ダイバーシティ

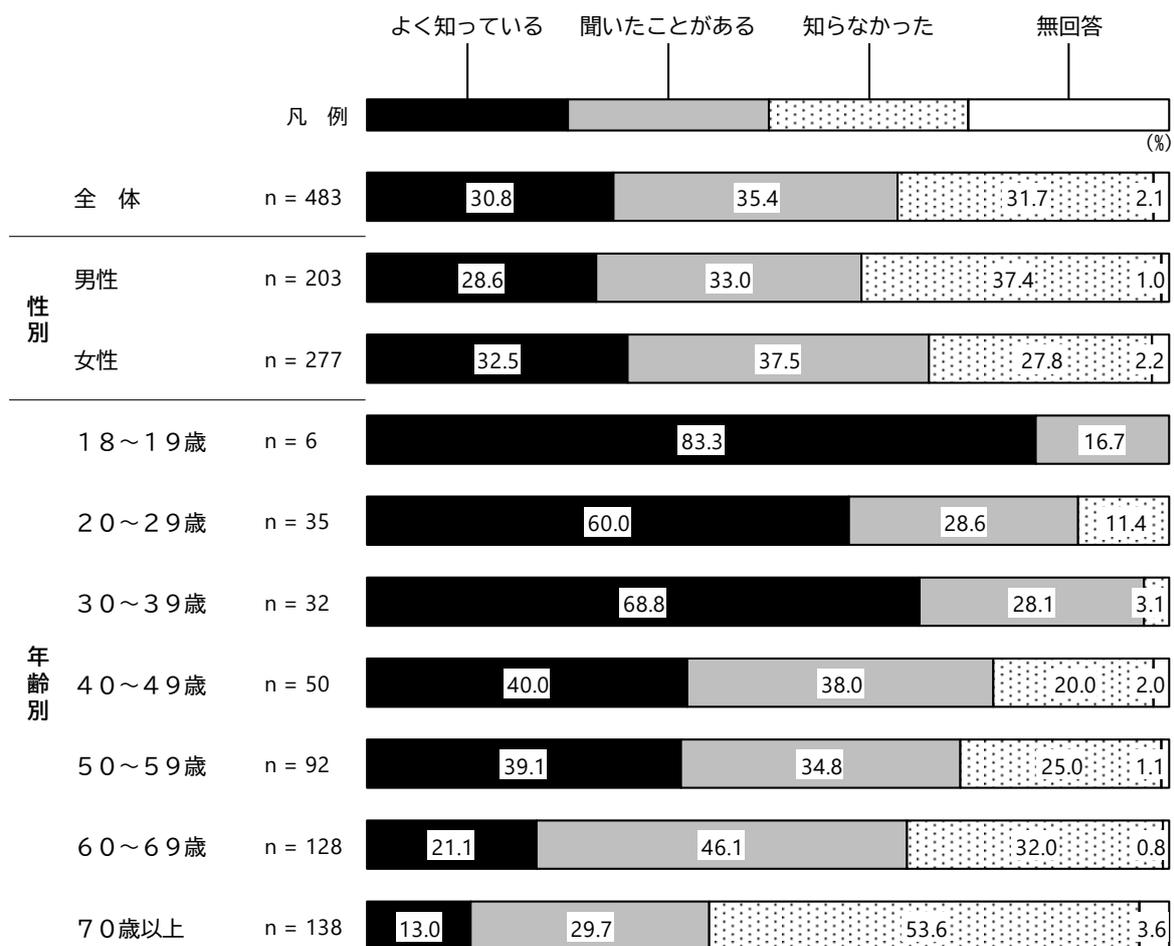
- ▶ 性別にみると、男女で概ね同様の傾向である
- ▶ 年齢別にみると、「よく知っている」について、年齢が上がるにつれて、概ね低くなる傾向がある。「知らなかった」について、60歳以上では4割以上と、他の年齢に比べて高くなっている



【性別・年齢別／次の「ことば」を知っているか】

キ LGBTQ

- ▶ 性別にみると、男性では「知らなかった」が37.4%と、女性に比べてやや高くなっている
- ▶ 年齢別にみると、「よく知っている」について、20～39歳では6割台、40～59歳では約4割、60歳以上では1割台～約2割となっており、年齢が上がるにつれて、概ね低くなる傾向がある。「知らなかった」について、年齢が上がるにつれて、概ね高くなる傾向がある

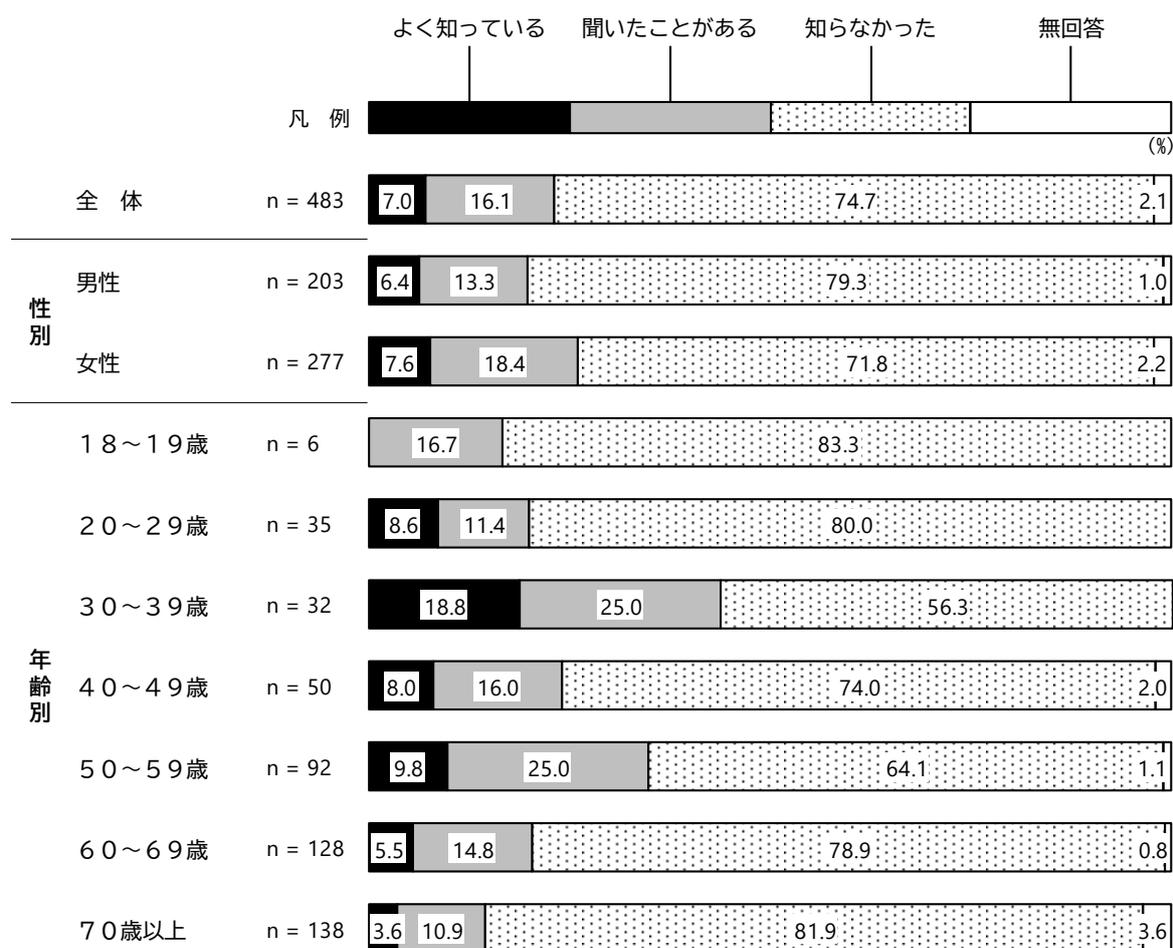


II 調査結果

【性別・年齢別／次の「ことば」を知っているか】

ク アウティング

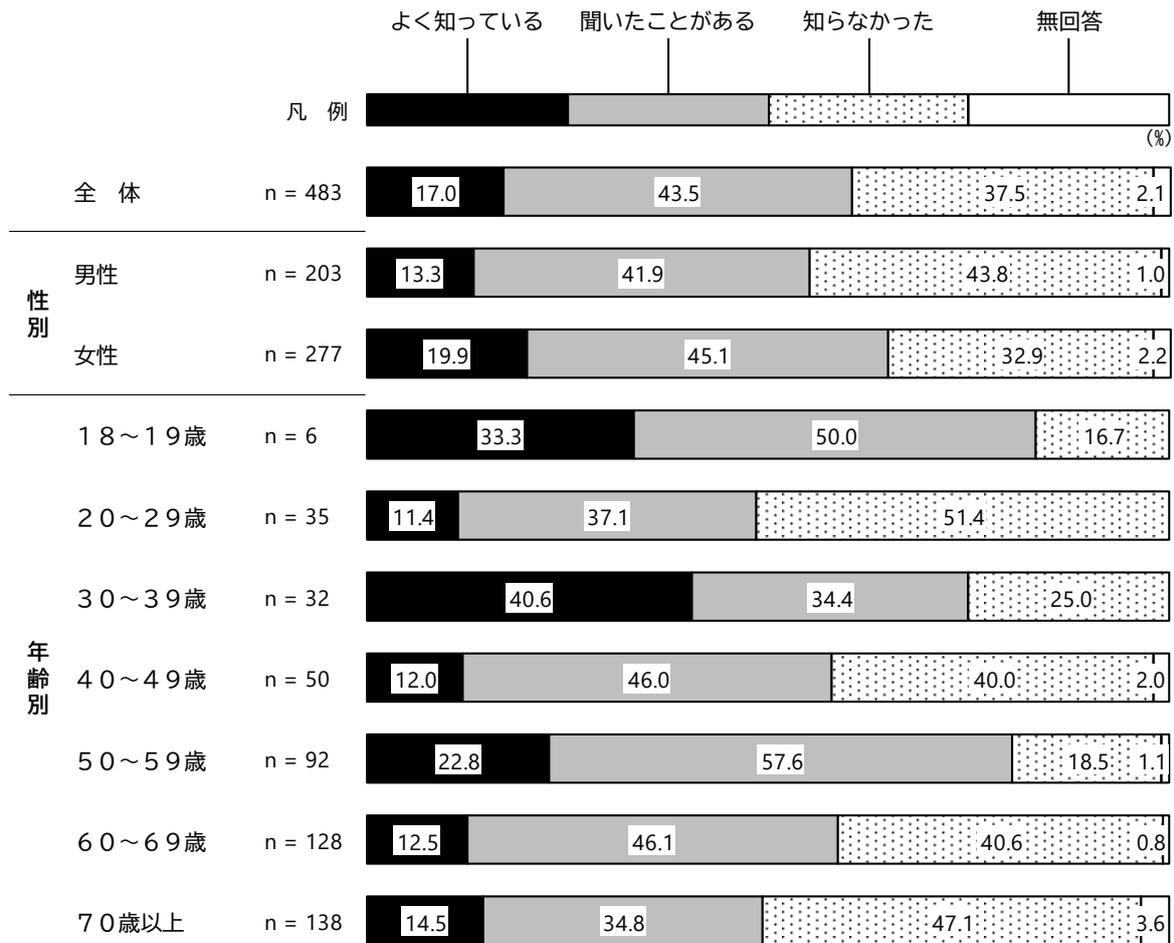
- ▶ 性別にみると、男性では「知らなかった」が79.3%と、女性に比べてやや高くなっている
- ▶ 年齢別にみると、「よく知っている」について、30～39歳では18.8%と最も高く、以降、年齢が上がるにつれて、概ね低くなる傾向がある



【性別・年齢別／次の「ことば」を知っているか】

ケ パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度

- ▶ 性別にみると、男性では「知らなかった」が43.8%と、女性に比べて10.9ポイント高くなっている
- ▶ 年齢別にみると、概ね同様の傾向であるが、30～39歳では「よく知っている」が40.6%と、他の年齢に比べて高くなっている

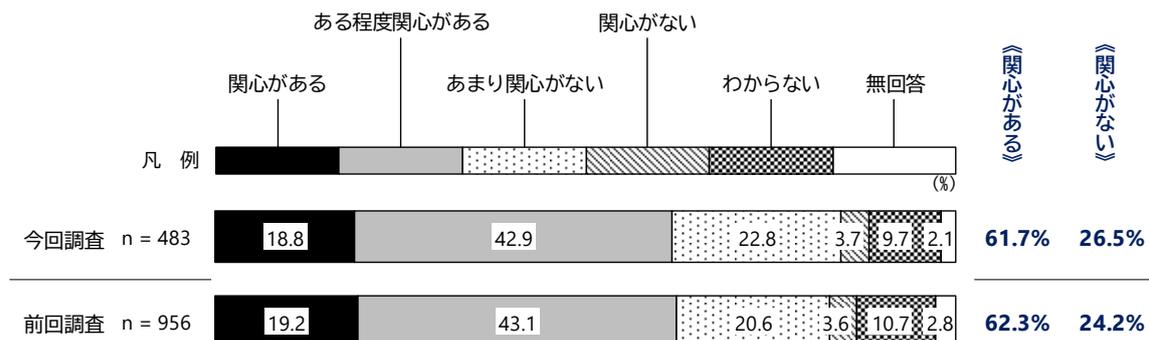


II 調査結果

2-2 男女平等や、性別にとらわれた役割意識の解消について

- ▶ 「関心がある」と「ある程度関心がある」を合算した《関心がある》が61.7%と、「関心がない」と「あまり関心がない」を合算した《関心がない》を大きく上回っている
- ▶ 前回調査と比較すると、概ね同様の傾向である

問10 あなたは男女平等や、性別にとらわれた役割意識の解消について、どの程度関心がありますか。(○印は1つ)



※グラフ右の割合は、以下のとおり二つの選択肢の回答割合を合算したものの

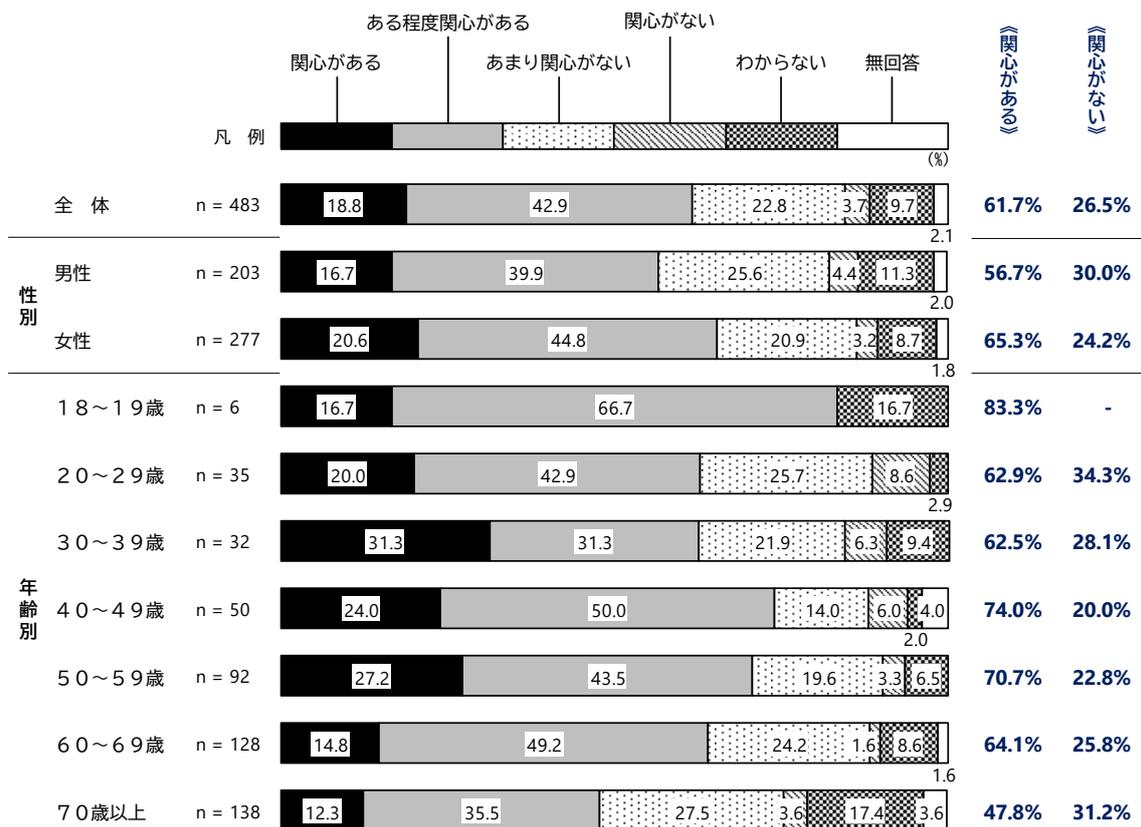
《関心がある》 = 「関心がある」 + 「ある程度関心がある」

《関心がない》 = 「関心がない」 + 「あまり関心がない」

なお、これ以降の回答割合の合算値を掲載している箇所では、四捨五入の関係で、合算値と個別の割合の単純な足上げ値に誤差が生じている場合がある

【性別・年齢別／男女平等や、性別にとらわれた役割意識の解消について】

- ▶ 性別にみると、女性では《関心がある》が 65.3%と、男性に比べてやや高くなっている
- ▶ 年齢別にみると、《関心がある》について、40～59 歳では 7 割台と、18～19 歳を除き、他の年齢に比べて高くなっている。一方、70 歳以上では《関心がある》が 47.8%と低くなっている

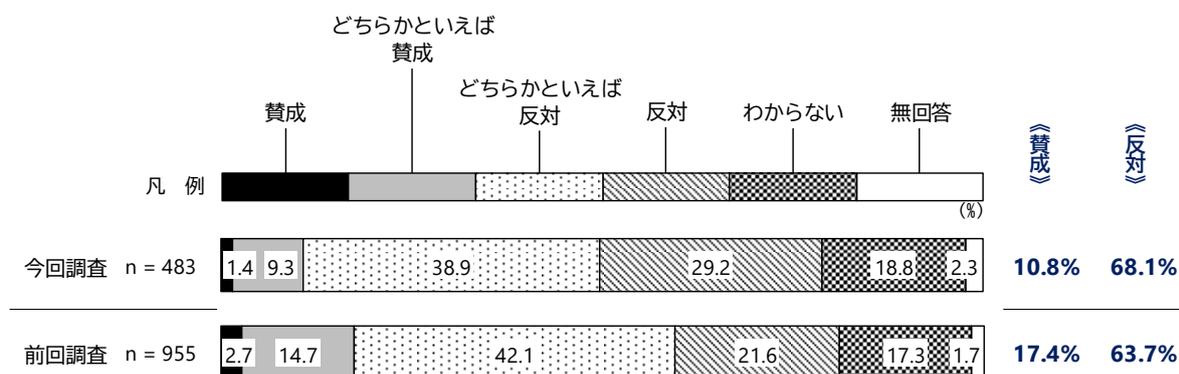


II 調査結果

2-3 「男は仕事、女は家庭」という考え方をどう思うか

- ▶ 「反対」と「どちらかといえば反対」を合算した《反対》が68.1%と、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合算した《賛成》を大きく上回っている
- ▶ 前回調査と比較すると、《賛成》がやや下降し、《反対》がやや上昇している

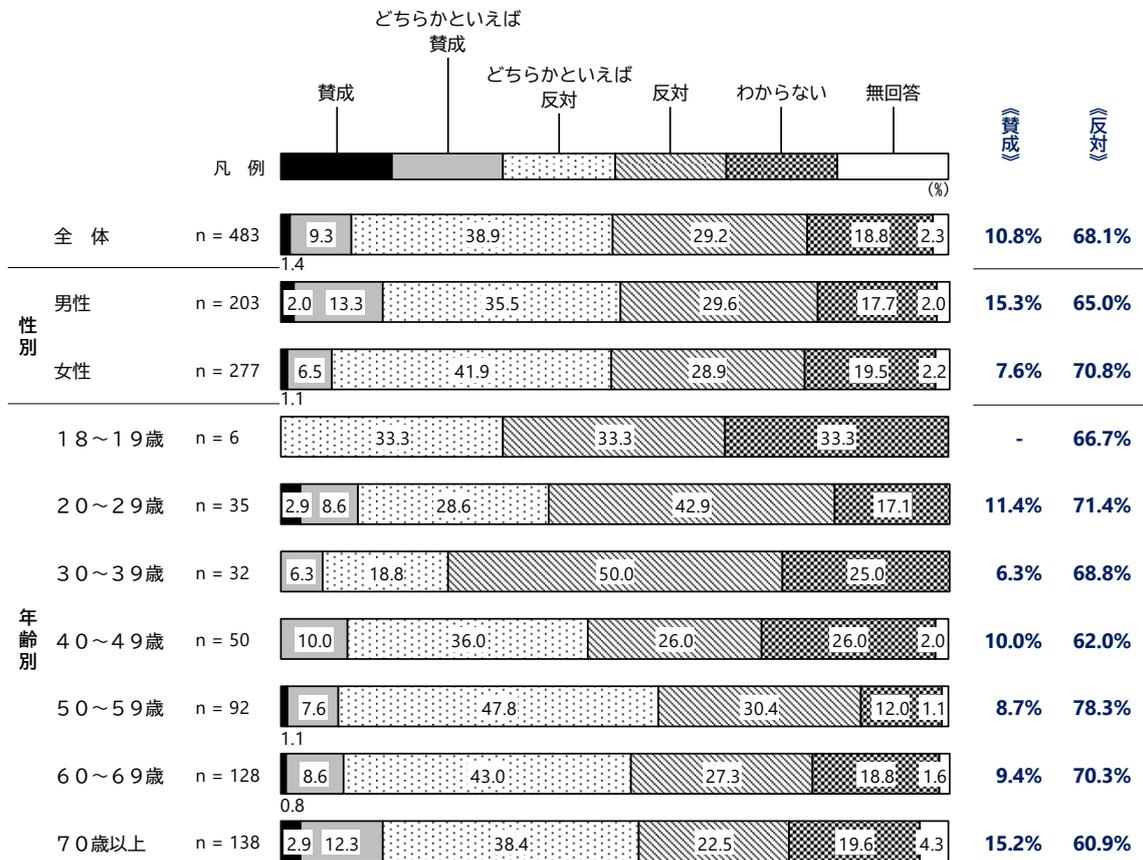
問11 「男は仕事、女は家庭」という考え方を、あなたはどのように思いますか。(○印は1つ)



※グラフ右の割合は、以下のとおり二つの選択肢の回答割合を合算したもの
 《賛成》 = 「賛成」 + 「どちらかといえば賛成」
 《反対》 = 「反対」 + 「どちらかといえば反対」

【性別・年齢別／「男は仕事、女は家庭」という考え方をどう思うか】

- ▶ 性別にみると、男性では《賛成》が15.3%と、女性に比べてやや高くなっている
- ▶ 年齢別にみると、概ね同様の傾向であるが、「わからない」について、30～49歳では2割台半ばと他の年齢と比べてやや高い傾向となっており、50歳以上では2割以下とやや低い傾向となっている



II 調査結果

2-4 男女の地位は平等になっていると思うか

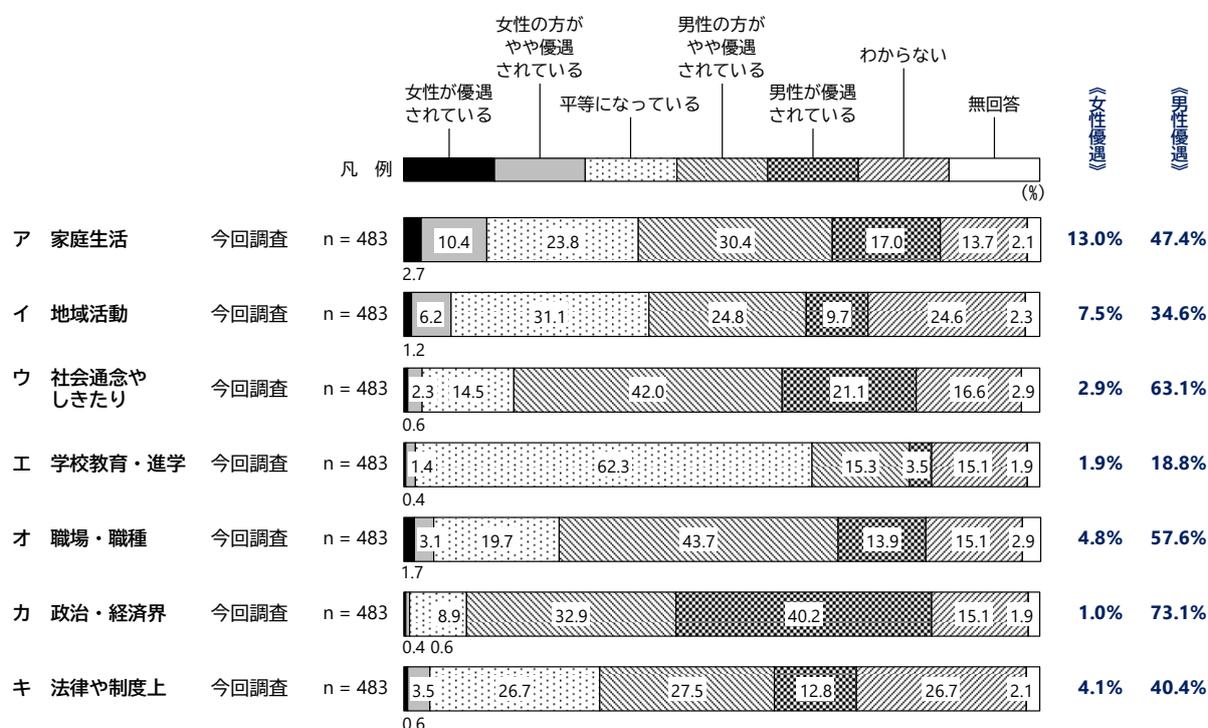
▶ 「女性が優遇されている」と「女性の方がやや優遇されている」を合算した《女性優遇》について、『ア 家庭生活』が13%と1割以上であるものの、それ以外の分野では1割を下回っている

一方、「男性が優遇されている」と「男性の方がやや優遇されている」を合算した《男性優遇》について、いずれの分野でも《女性優遇》を大きく上回り、特に『カ 政治・経済界』(73.1%)、『ウ 社会通念やしきたり』(63.1%)、『オ 職場・職種』(57.6%)などで高くなっている

なお、「平等になっている」について、『エ 学校教育・進学』で62.3%と、他の項目に比べて高くなっている

問12 あなたは次の各分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

(ア～キそれぞれについてあてはまるもの1つに○印)

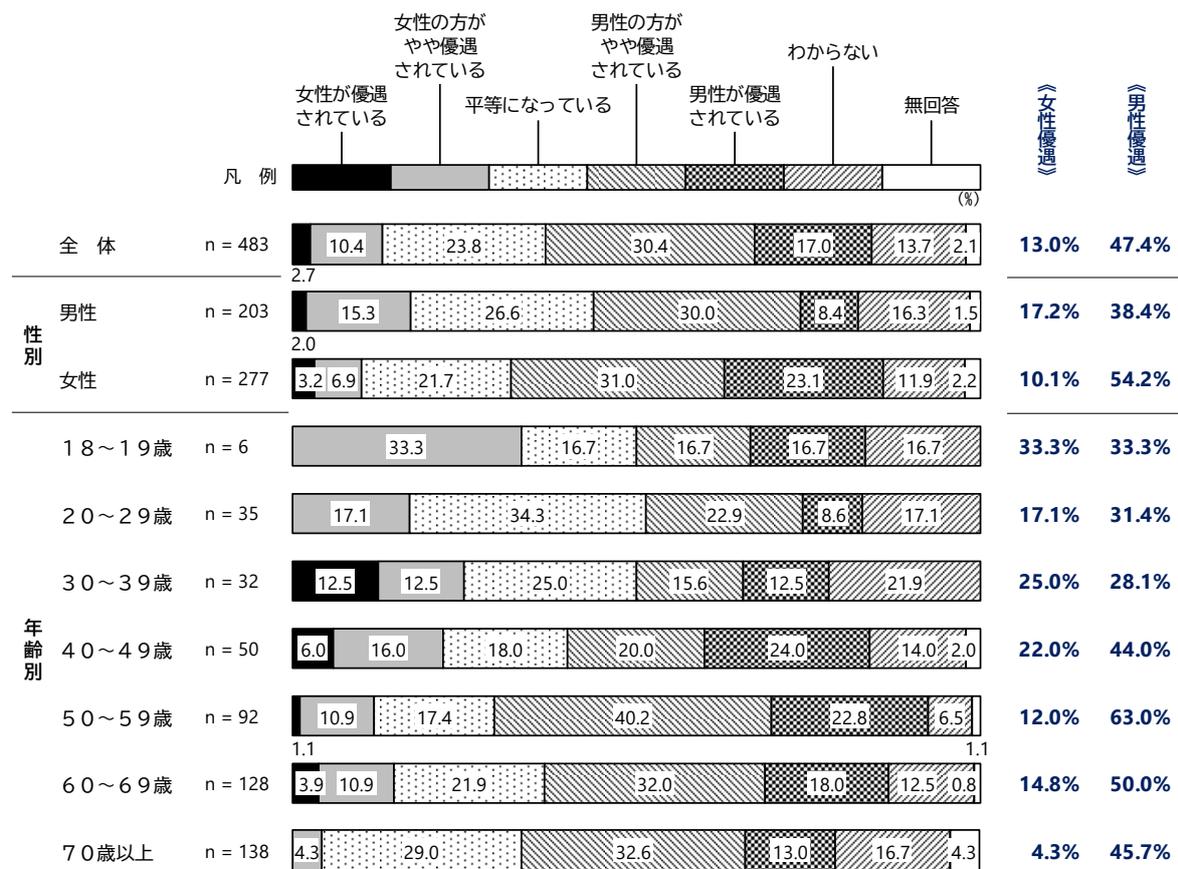


※グラフ右の割合は、以下のとおり二つの選択肢の回答割合を合算したものの
 《女性優遇》 = 「女性が優遇されている」 + 「女性の方がやや優遇されている」
 《男性優遇》 = 「男性が優遇されている」 + 「男性の方がやや優遇されている」

【性別・年齢別／男女の地位は平等になっていると思うか】

ア 家庭生活

- ▶ 性別にみると、女性では《男性優遇》が54.2%と、男性に比べて15.8ポイント高くなっている
- ▶ 年齢別にみると、40歳以上では《男性優遇》が4割台半ば～6割台と、他の年齢に比べて高くなっている

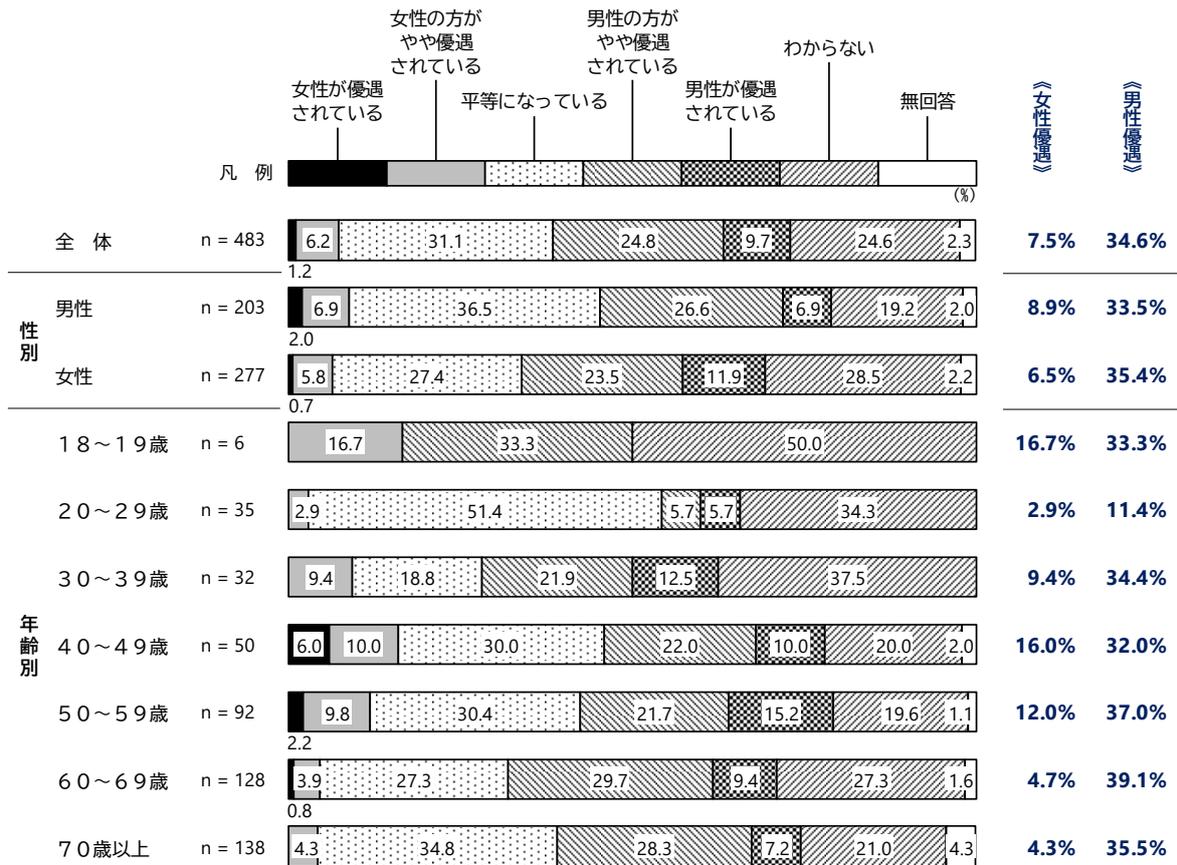


II 調査結果

【性別・年齢別／男女の地位は平等になっていると思うか】

イ 地域活動

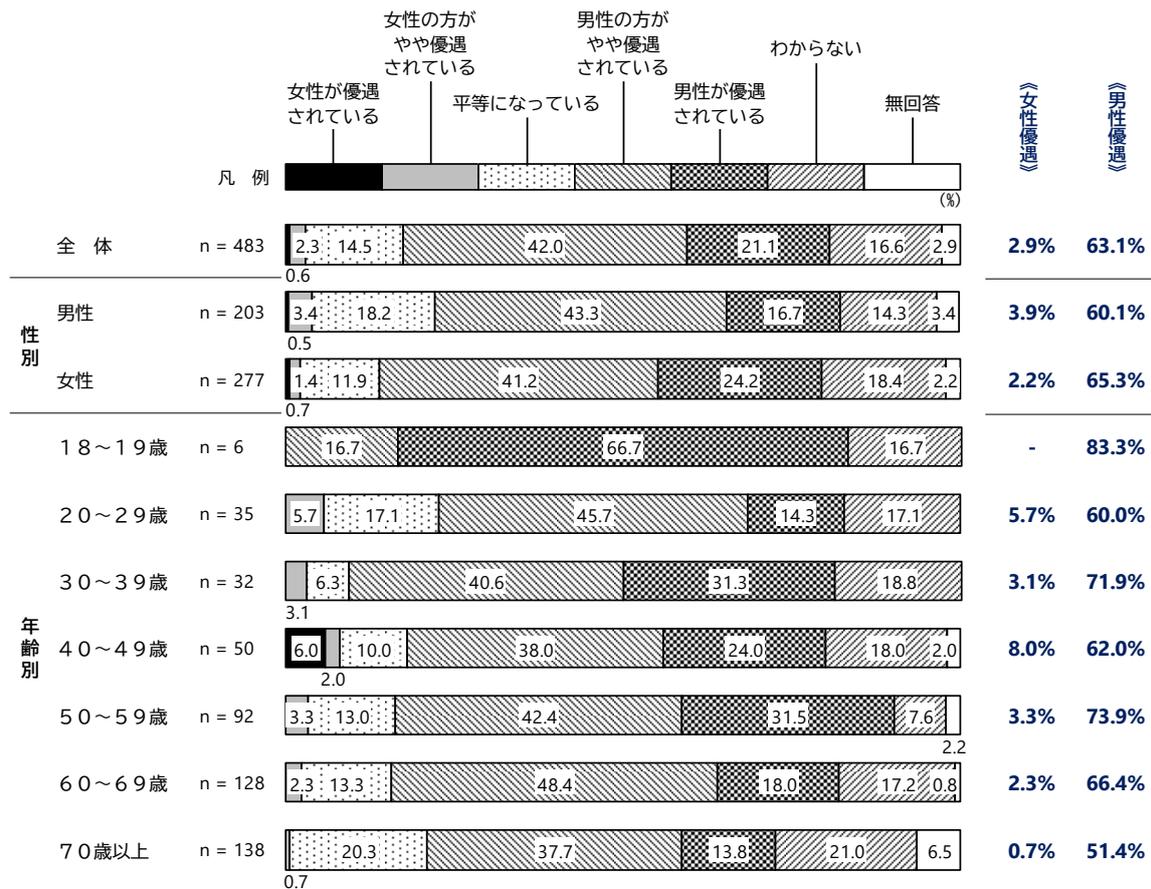
- ▶ 性別にみると、男性では「平等になっている」が36.5%と、女性に比べてやや高くなっている
- ▶ 年齢別にみると、20～29歳では《女性優遇》《男性優遇》ともに他の年齢に比べて低く、「平等になっている」が51.4%と高くなっている



【性別・年齢別／男女の地位は平等になっていると思うか】

ウ 社会通念やしきたり

- ▶ 性別にみると、女性では「男性が優遇されている」が24.2%と、男性に比べてやや高くなっている
- ▶ 年齢別にみると、70歳以上では《男性優遇》が51.4%と、他の年齢に比べて低くなっている

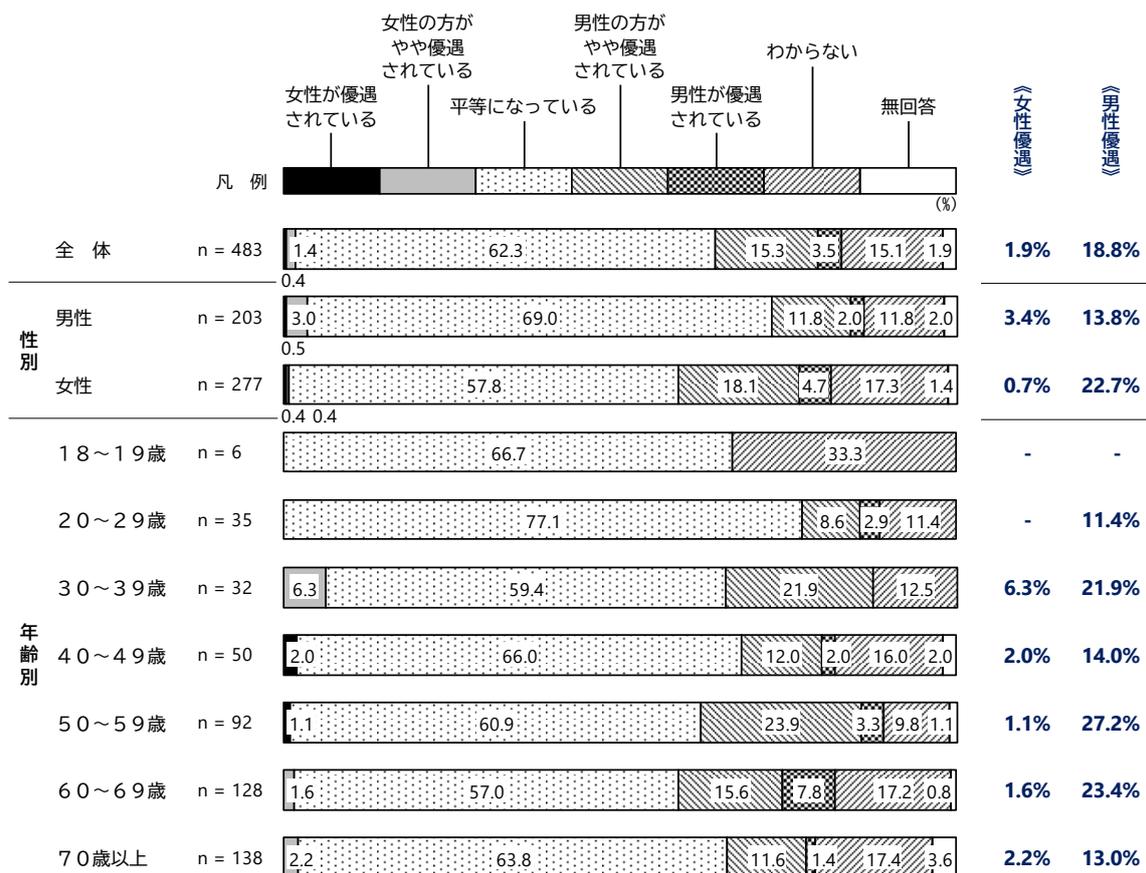


II 調査結果

【性別・年齢別／男女の地位は平等になっていると思うか】

エ 学校教育・進学

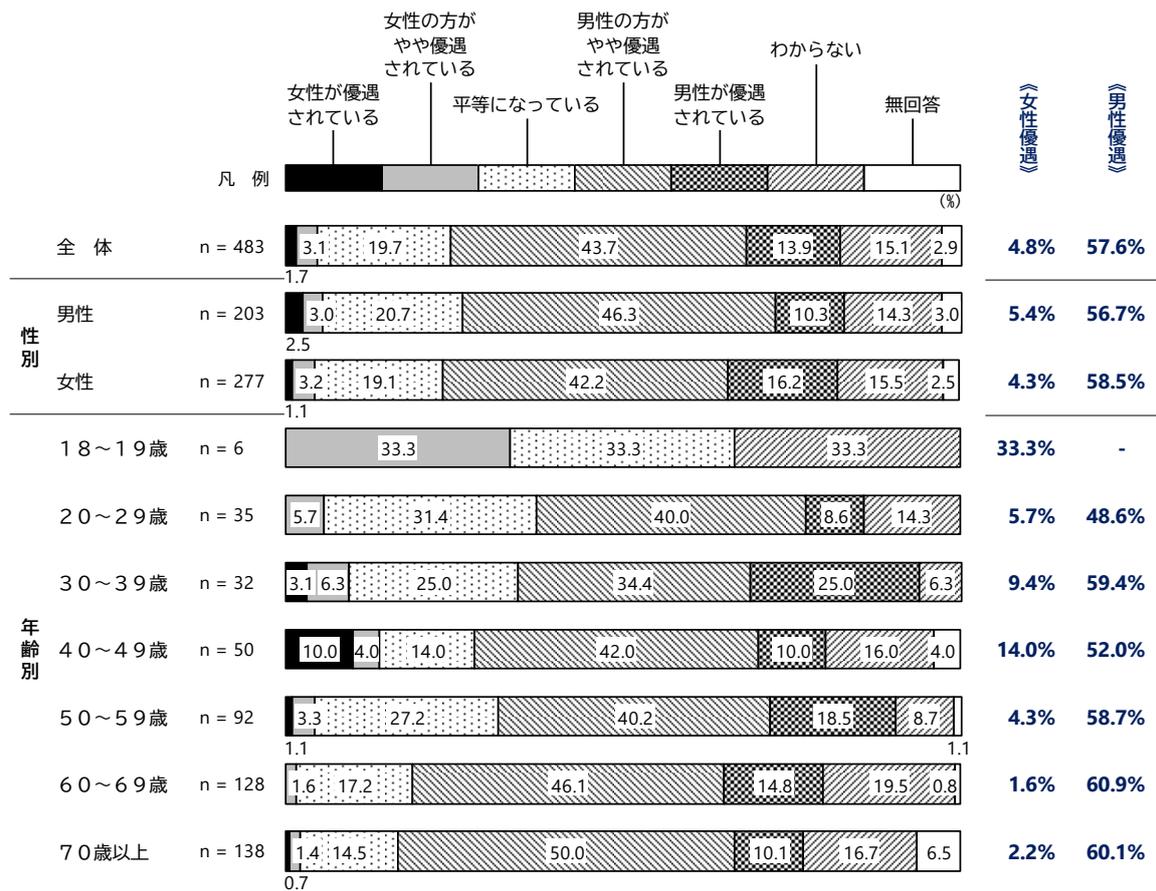
- ▶ 性別にみると、男性では「平等になっている」が69.0%と、女性に比べて11.2ポイント高くなっている
- ▶ 年齢別にみると、20～29歳では「平等になっている」が77.1%と、他の年齢に比べて高くなっている



【性別・年齢別／男女の地位は平等になっていると思うか】

オ 職場・職種

- ▶ 性別にみると、男女で概ね同様の傾向である
- ▶ 年齢別にみても、概ね同様の傾向であるが、39歳以下では「平等になっている」が2割台半ば～3割台と、他の年齢に比べてやや高い傾向がある

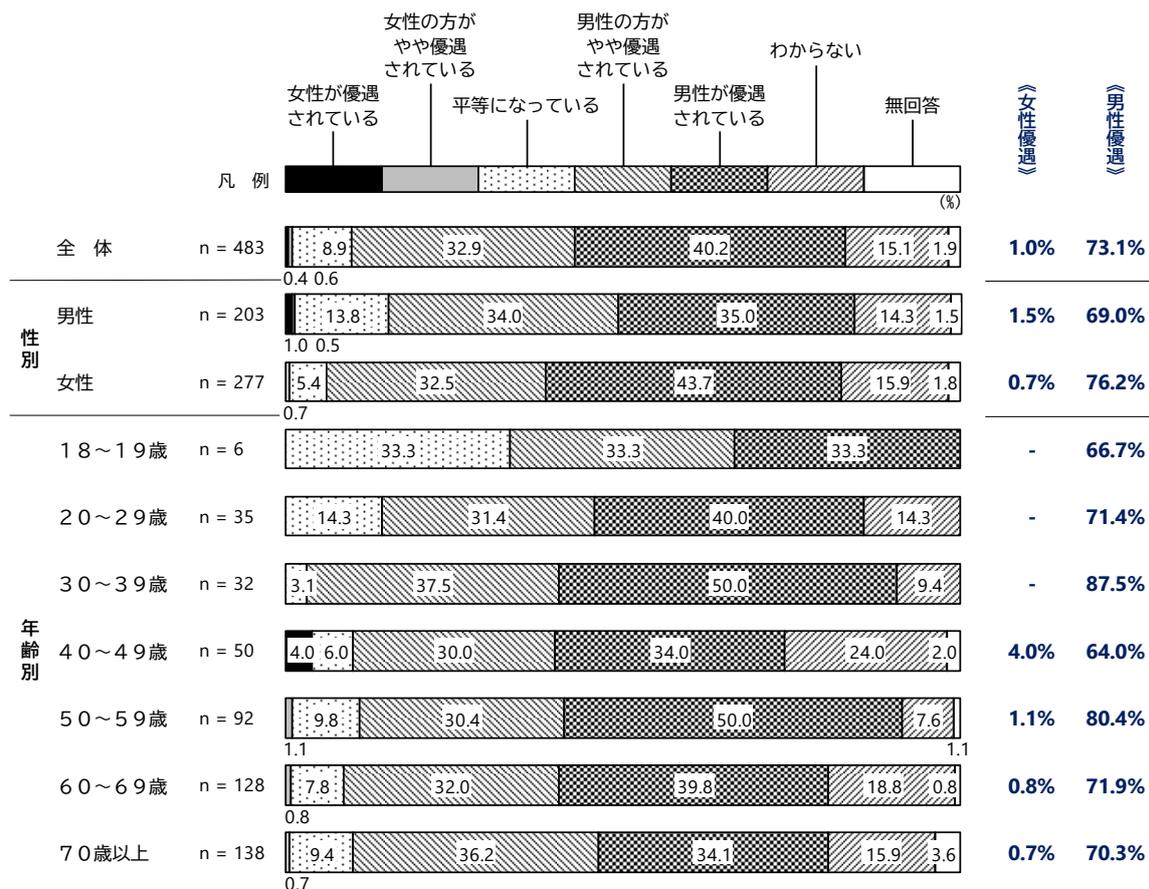


II 調査結果

【性別・年齢別／男女の地位は平等になっていると思うか】

カ 政治・経済界

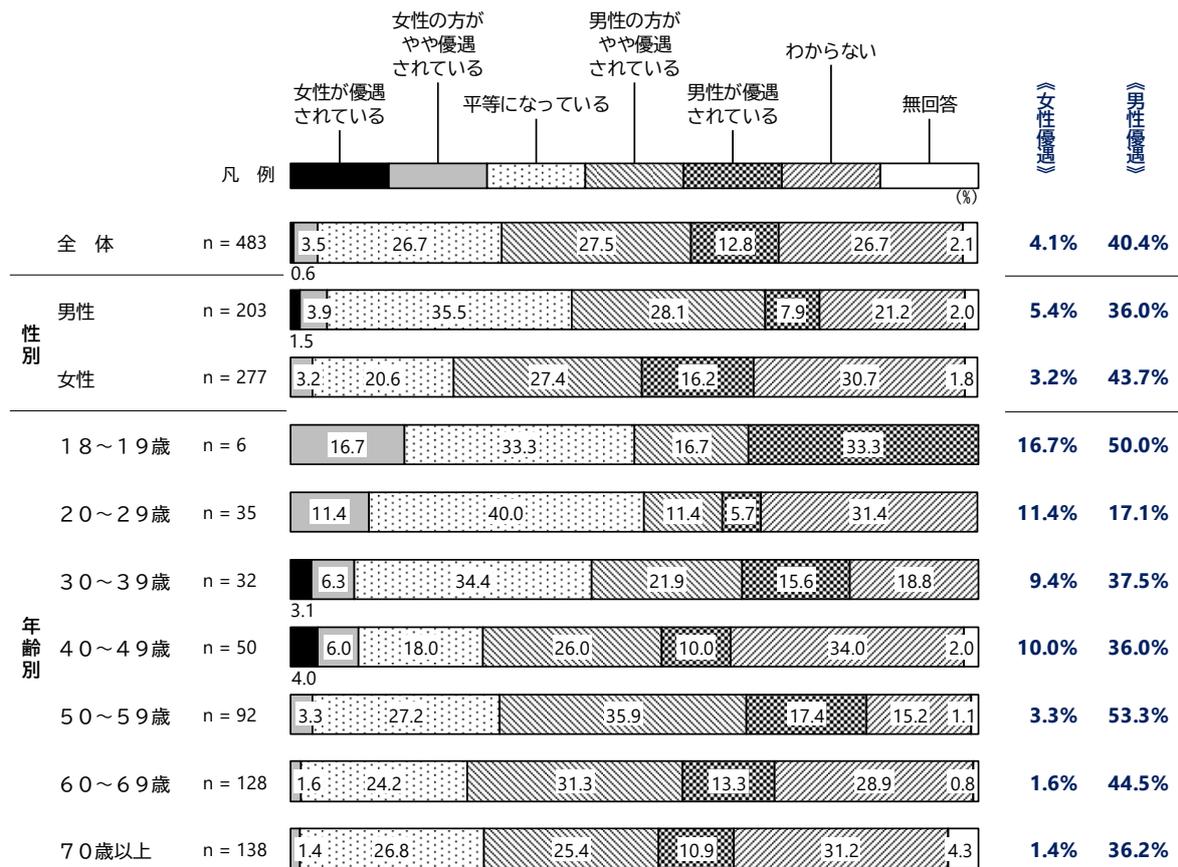
- ▶ 性別にみると、男性では「平等になっている」が 13.8%と、女性に比べてやや高くなっており、女性では「男性が優遇されている」が 43.7%と、男性に比べてやや高くなっている
- ▶ 年齢別にみると、30～39 歳では《男性優遇》が 87.5%と、他の年齢に比べて高くなっている



【性別・年齢別／男女の地位は平等になっていると思うか】

キ 法律や制度上

- ▶ 性別にみると、女性では《男性優遇》が43.7%と、男性に比べてやや高くなっている
- ▶ 年齢別にみると、39歳以下では「平等になっている」が3割以上と、他の年齢に比べて高くなっている。50歳以上では《女性優遇》が極めて少なくなっている

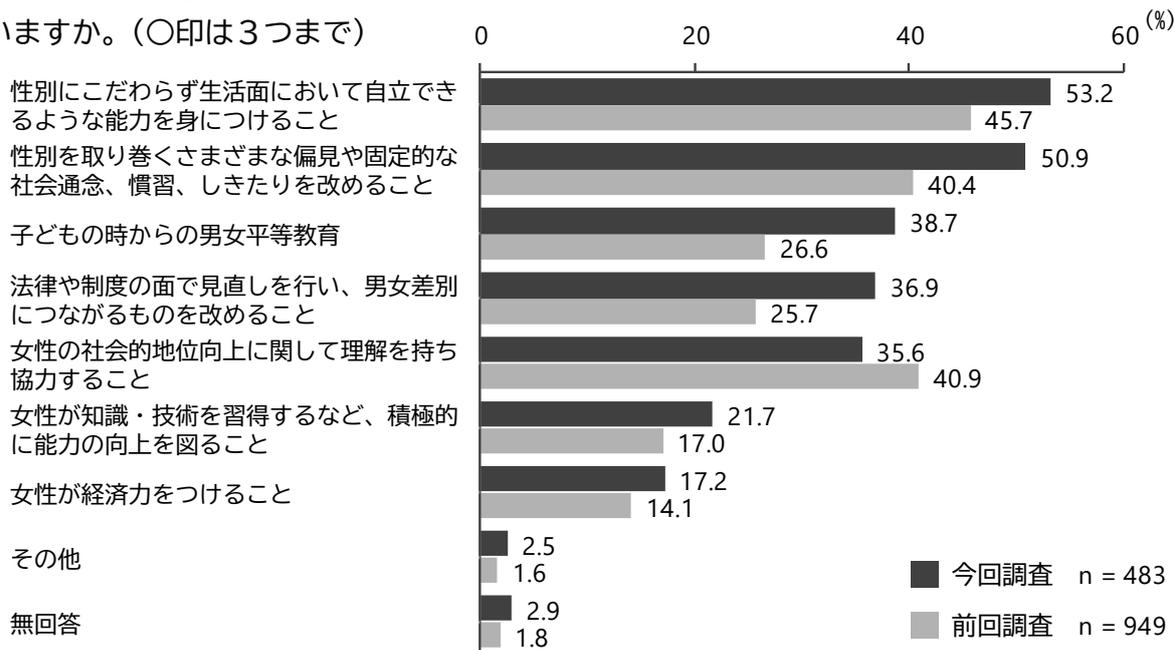


II 調査結果

2-5 男女があらゆる分野でもっと平等になるために重要なこと

- ▶ 「性別にこだわらず生活面において自立できるような能力を身につけること」が 53.2% と最も高く、次いで、「性別を取り巻くさまざまな偏見や固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること」(50.9%)、「子どもの時からの男女平等教育」(38.7%) となっている
- ▶ 前回調査と比較すると、「性別を取り巻くさまざまな偏見や固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること」、「子どもの時からの男女平等教育」、「法律や制度の面で見直しを行い、男女差別につながるものを改めること」が 10 ポイント以上上昇している

問 13 今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために、何が重要であると思いますか。(○印は3つまで)



※前回調査で聴取していた「男性が女性の社会的地位向上に関して理解を持ち協力すること」、「男性が家事・育児・介護をすることに対する抵抗感をなくすこと」は、今回調査では未聴取

※「女性の社会的地位向上に関して理解を持ち協力すること」は、前回調査の「男性が女性の社会的地位向上に関して理解を持ち協力すること」と比較した

【性別・年齢別／男女があらゆる分野でもっと平等になるために重要なこと】

- ▶ 性別にみると、男性では「女性の社会的地位向上に関して理解を持ち協力すること」が44.3%と、女性に比べて14.7ポイント高くなっており、女性では「性別にこだわらず生活面において自立できるような能力を身につけること」(57.8%)、「女性が経済力をつけること」(21.7%)が男性に比べて10ポイント以上高くなっている
- ▶ 年齢別にみると、50歳以上では「女性の社会的地位向上に関して理解を持ち協力すること」が3割台半ば～4割台と、他の年齢に比べて高くなっている。40歳以上では「女性が経済力をつけること」が1割台半ば～2割台半ばと高くなっている

		n	性別にこだわらず生活面において自立できるような能力を身につけること	性別を取り巻くさまざまな偏見や固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること	子どもの時からの男女平等教育	法律や制度の面で見直しを行い、男女差別につながるものを改めること	女性の社会的地位向上に関して理解を持ち協力すること	女性が知識・技術を習得するなど、積極的に能力の向上を図ること	女性が経済力をつけること	その他	無回答
全体		483	53.2	50.9	38.7	36.9	35.6	21.7	17.2	2.5	2.9
性別	男性	203	47.3	53.7	33.5	39.4	44.3	19.7	11.3	3.0	3.9
	女性	277	57.8	48.7	42.6	35.0	29.6	23.5	21.7	1.8	1.8
年齢別	18～19歳	6	83.3	66.7	50.0	66.7	16.7	-	-	16.7	-
	20～29歳	35	54.3	57.1	48.6	25.7	25.7	14.3	8.6	5.7	-
	30～39歳	32	59.4	53.1	34.4	37.5	25.0	15.6	3.1	15.6	-
	40～49歳	50	46.0	48.0	30.0	30.0	28.0	22.0	24.0	4.0	2.0
	50～59歳	92	45.7	64.1	39.1	45.7	43.5	8.7	20.7	1.1	1.1
	60～69歳	128	55.5	50.8	36.7	38.3	35.2	25.8	21.1	0.8	1.6
	70歳以上	138	55.8	40.6	41.3	34.1	39.9	31.2	15.2	-	6.5

II 調査結果

【その他（抜粋）】

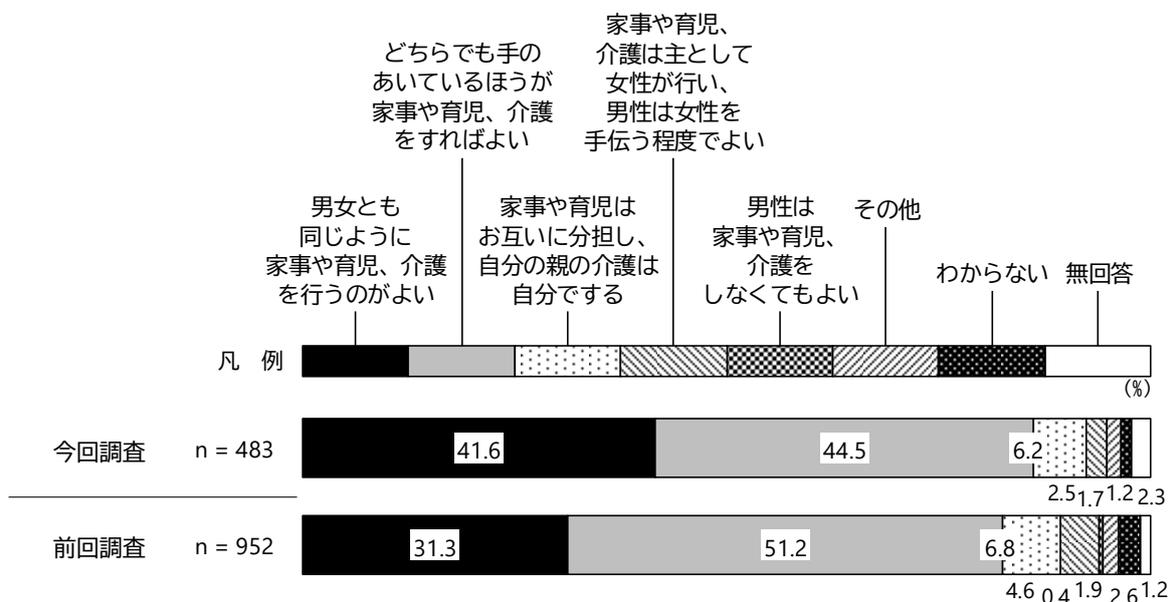
- 子供への教育よりも大人への教育。（その他 10 代）
- それぞれの異性に対して尊重の気持ちをもつ。（女性 20 代）
- 真の平等は不可能、それぞれの特性等を理解することの方が大切。そもそもにしてこのアンケートが男女差別。（女性 20 代）
- 子供の出産や育児後に伴う休業後に、仕事に復帰できるようにすること。そのためには、制度や法律面だけでなく、社会的な余裕(ゆとり)を持つことが大事だと思います。（男性 30 代）
- 平等だけが全てではない。（男性 30 代）
- 男・女共通の服装、都市部と地方の格差是正。（男性 30 代）
- 平等にする必要がない。（男性 30 代）
- 今のままで良いと思う。充分平等だと思う。（女性 40 代）
- 男女ともに制約されることなく自由に人生を選ぶことができればそれでいいと思います。賛成派反対派でいがみ合っているのを見るととても残念に思います。（男性 40 代）
- ただ、“あらゆる分野で平等”である必要はあるのだろうか？（男性 50 代）

3 家庭生活について

3-1 家庭生活の中での家事や育児等の役割分担について

- ▶ 「どちらでも手のあいているほうが家事や育児、介護をすればよい」が44.5%と最も高く、次いで、「男女とも同じように家事や育児、介護を行うのがよい」(41.6%)、「家事や育児はお互いに分担し、自分の親の介護は自分でする」(6.2%)となっている
- ▶ 前回調査と比較すると、「男女とも同じように家事や育児、介護を行うのがよい」が10.3ポイント上昇している。また、「どちらでも手のあいているほうが家事や育児、介護をすればよい」がやや下降している

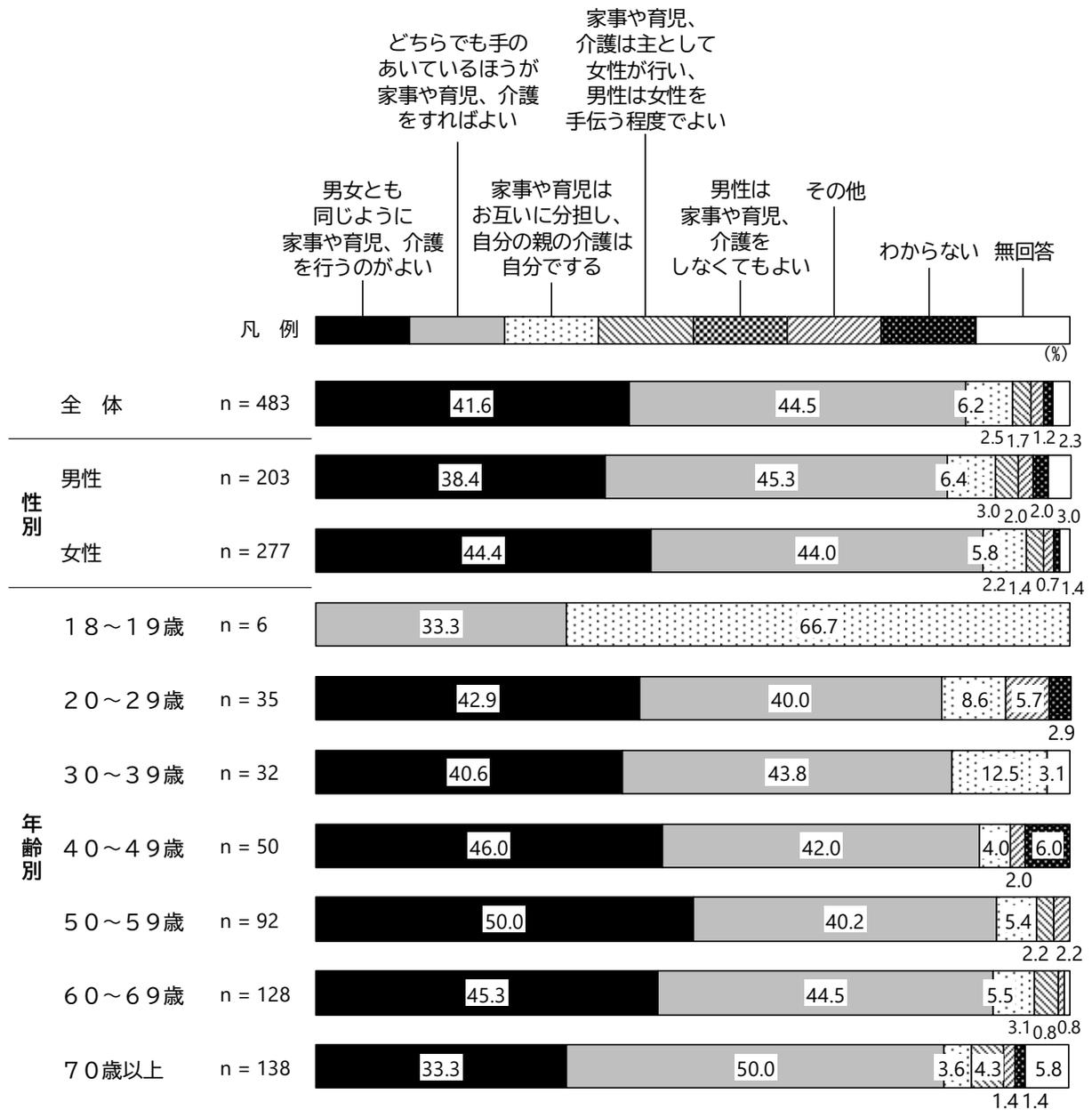
問14 あなたは家庭生活の中で家事や育児等の役割分担について、どのように考えますか。
(○印は1つ)



II 調査結果

【性別・年齢別／家庭生活の中での家事や育児等の役割分担について】

- ▶ 性別にみると、男女で概ね同様の傾向である
- ▶ 年齢別にみても、各年齢で概ね同様の傾向である



【その他（抜粋）】

「家庭や個人の状況に合わせて行うのが良い」（4件）

- 自分自身は一人で介護と仕事を両立しているが、各家庭で事情が異なると思うので一人だけに負担がかからぬよう、その都度話し合っ決めてれば良いのではないかと考える。（女性 20 代）
- それぞれの家庭ごと状況が異なるため一概に言えない。（男性 40 代）
- 共働きかどうかにもよる。（男性 50 代）
- 各々の家庭（夫婦）＝話し合い、が理想！（女性 70 代以上）

「よく話し合い、お互いに協力することが大事」（3件）

- ウェルビーイング同様ライフステージや互いの状況により変動することだと思えます。各々でしっかり尊重し合いながらコミュニケーションし決めれば良いと思えます。（男性 40 代）
- 家事・育児・介護全てお互いに分担するほうが良いと思う。（女性 20 代）
- 家事、育児、介護はお互いに分担する。（男性 50 代）

「その他」（1件）

- 手のあいているほうが、口実を作って責任逃れになります。（男性 70 代以上）

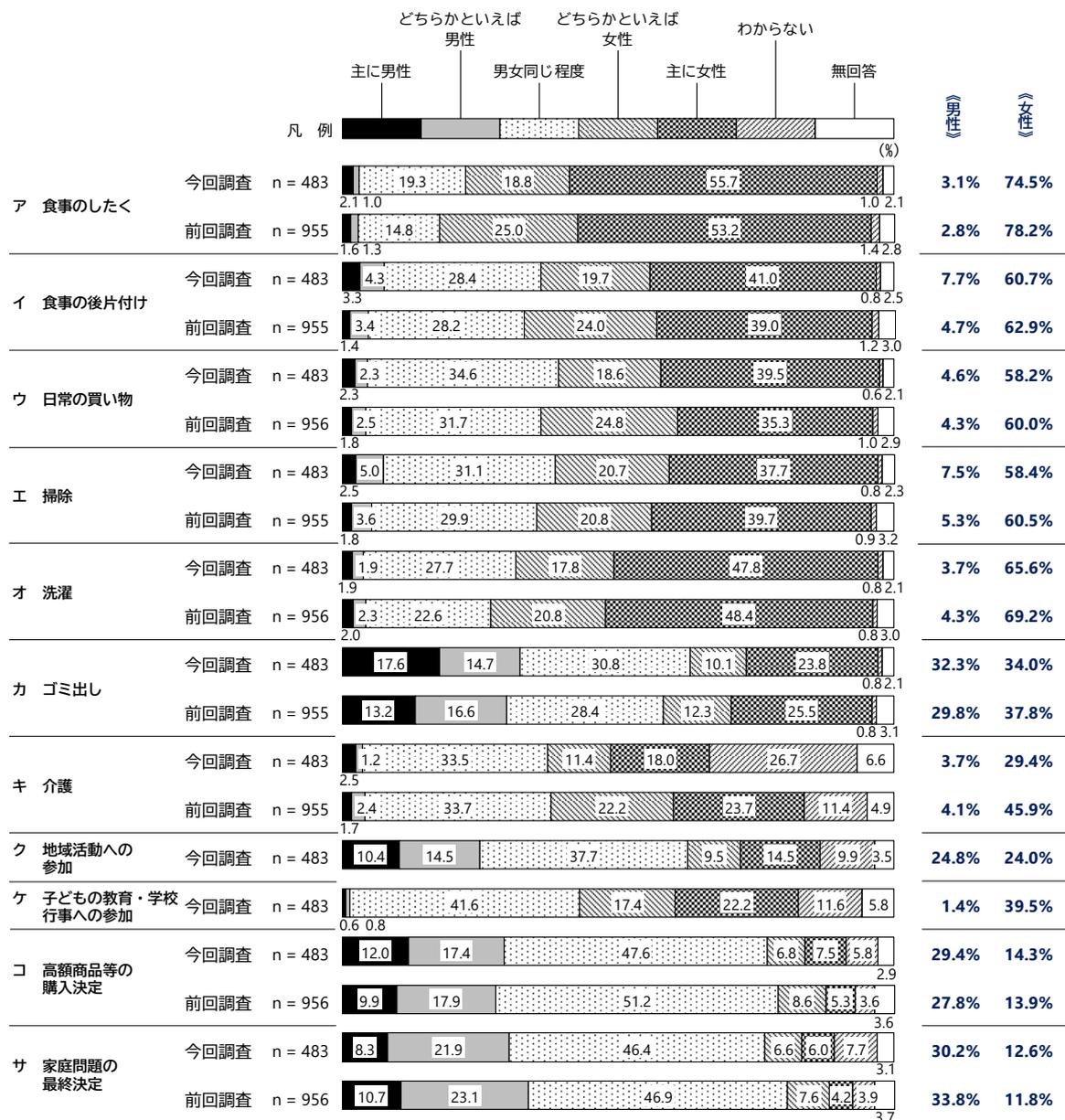
II 調査結果

3-2 自身の家庭では、次にあげる仕事等は、男女どちらの役割になっているか

- ▶ 『コ 高額商品等の購入決定』および『サ 家庭問題の最終決定』などでは《男性》との回答が《女性》との回答を上回っているものの、多くの項目では《女性》との回答が《男性》との回答を上回っている。特に『ア 食事のしたく』から『オ 洗濯』では《女性》との回答が約6割～7割台半ばを占めている
- ▶ 前回調査と比較すると、『キ 介護』では《女性》との回答が16.5ポイント下降しているものの、「わからない」との回答が15.3ポイント上昇している

問15 あなたの家庭では、次にあげる仕事等は、男女どちらの役割になっていますか。
一人暮らしの方は、どちらの役割がふさわしいと思いますか。

(ア～サそれぞれについてあてはまるもの1つに○印)

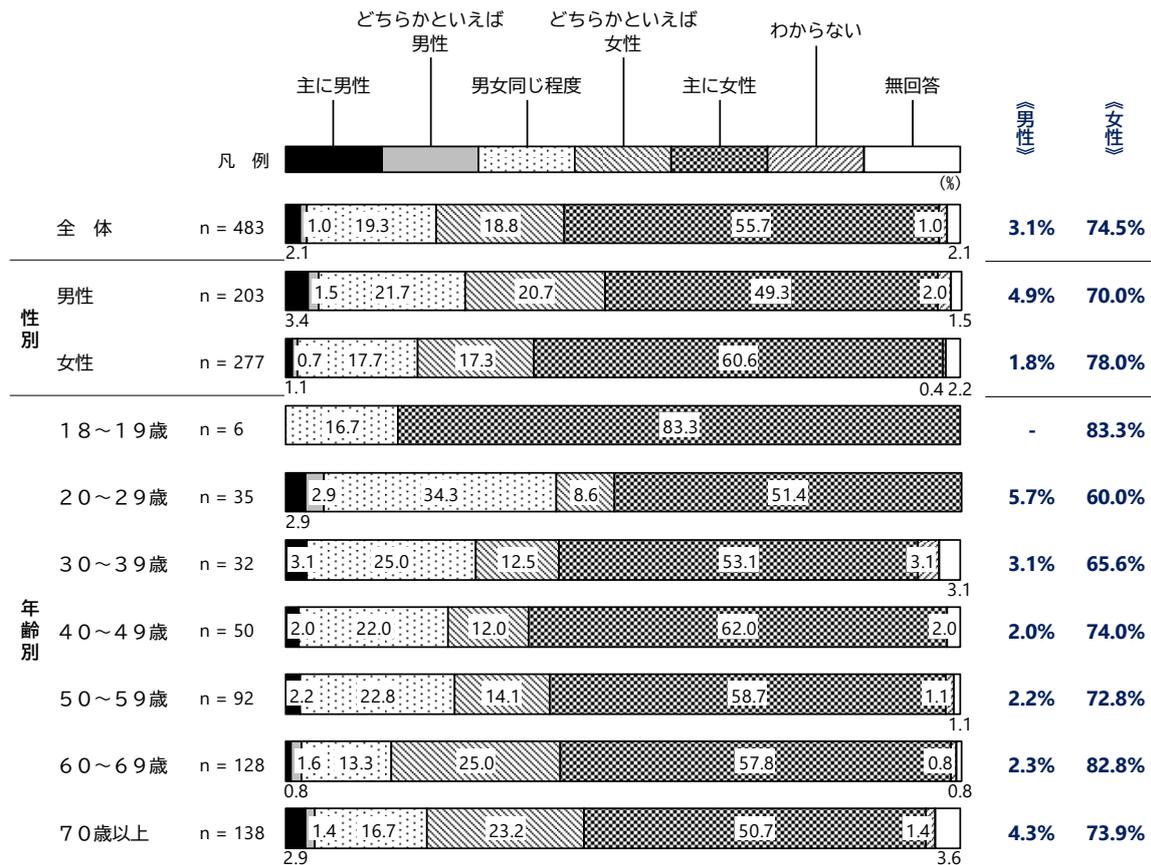


※グラフ右の割合は、以下のとおり二つの選択肢の回答割合を合算したものの
 《男性》 = 「主に男性」 + 「どちらかといえば男性」
 《女性》 = 「主に女性」 + 「どちらかといえば女性」

【性別・年齢別／自身の家庭では、次にあげる仕事等は、男女どちらの役割になっているか】

ア 食事のしたく

- ▶ 性別にみると、女性では「主に女性」との回答が60.6%と、男性に比べて11.3ポイント高くなっている
- ▶ 年齢別にみると、40歳以上では《女性》との回答が7割以上と、他の年齢に比べて高くなっている

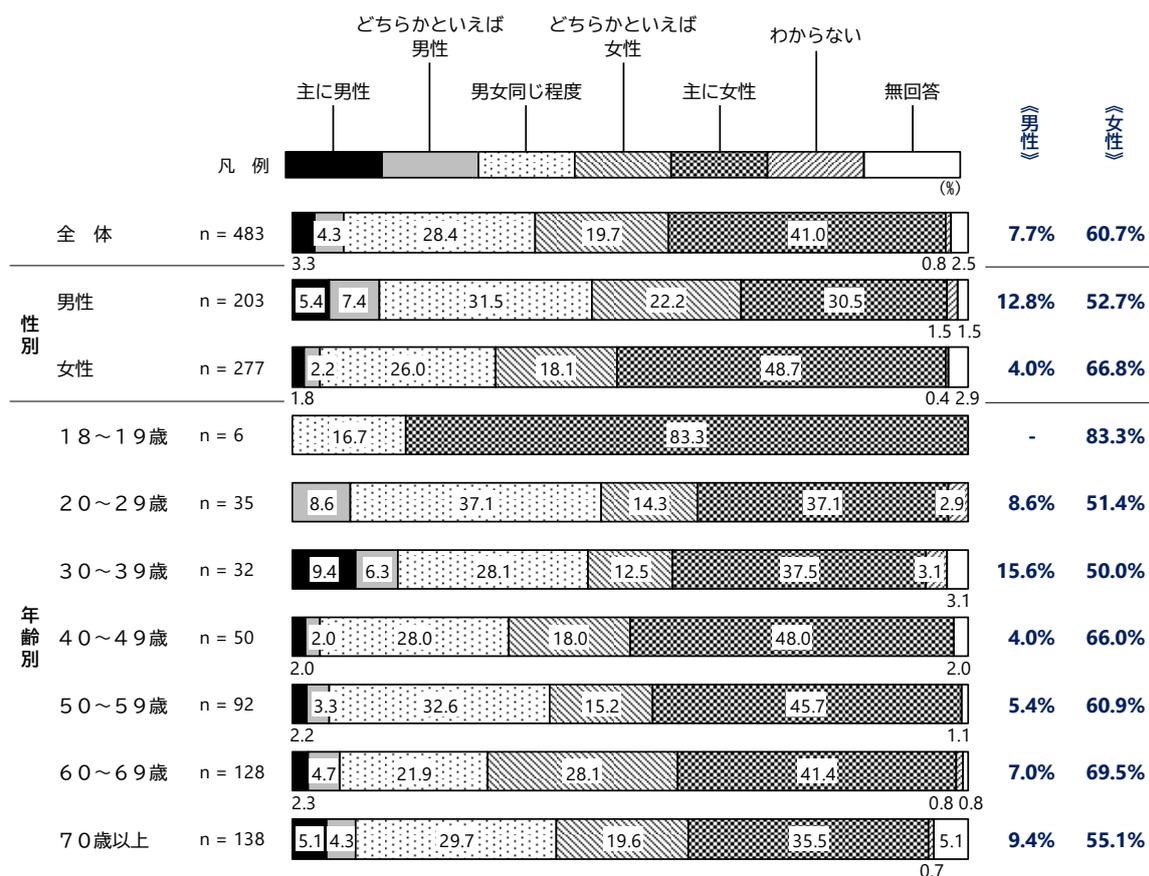


II 調査結果

【性別・年齢別／自身の家庭では、次にあげる仕事等は、男女どちらの役割になっているか】

イ 食事の後片付け

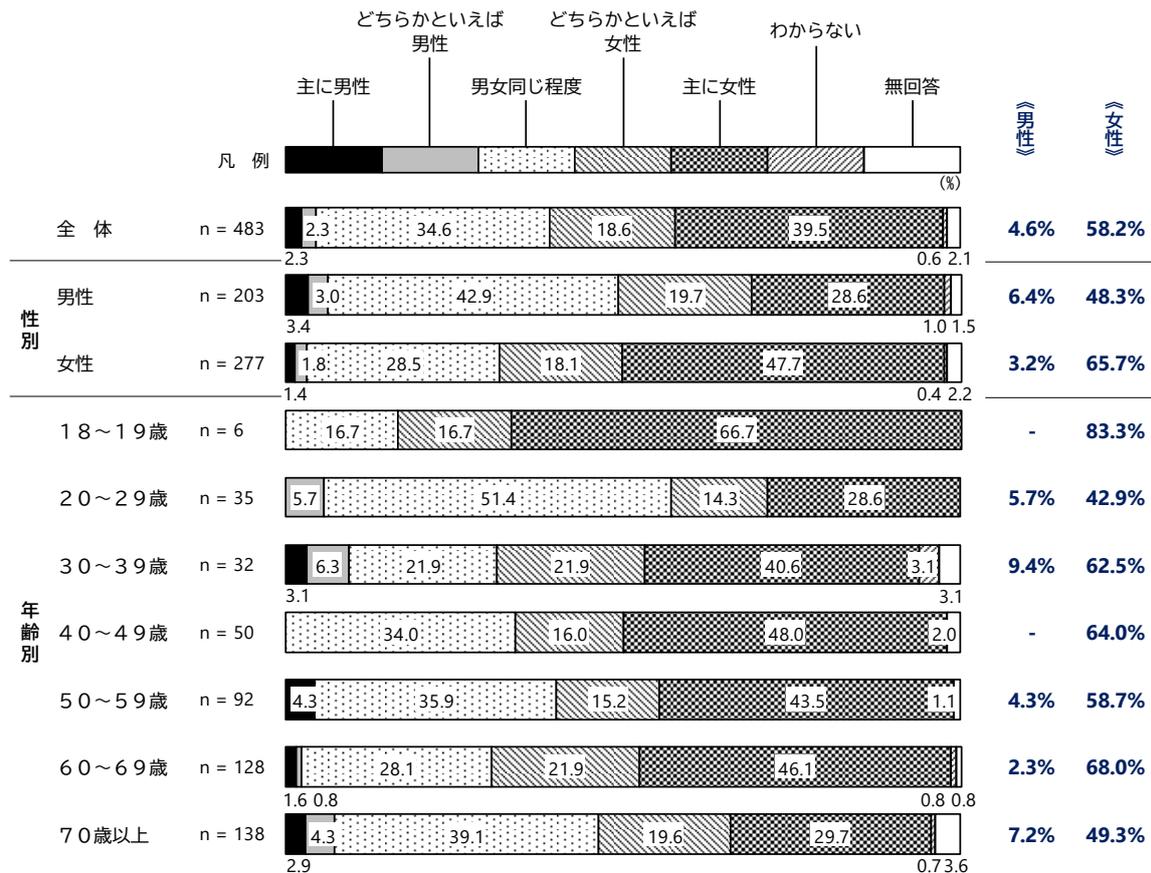
- ▶ 性別にみると、女性では《女性》との回答が66.8%と、男性に比べて14.1ポイント高くなっている
- ▶ 年齢別にみると、20～39歳では《女性》との回答が約5割と、他の年齢に比べてやや低くなっている



【性別・年齢別／自身の家庭では、次にあげる仕事等は、男女どちらの役割になっているか】

ウ 日常の買い物

- ▶ 性別にみると、《女性》との回答が 65.7%と、男性に比べて 17.4 ポイント高くなっている
- ▶ 年齢別にみると、20～29 歳では《女性》との回答が 42.9%と、他の年齢に比べて低くなっている

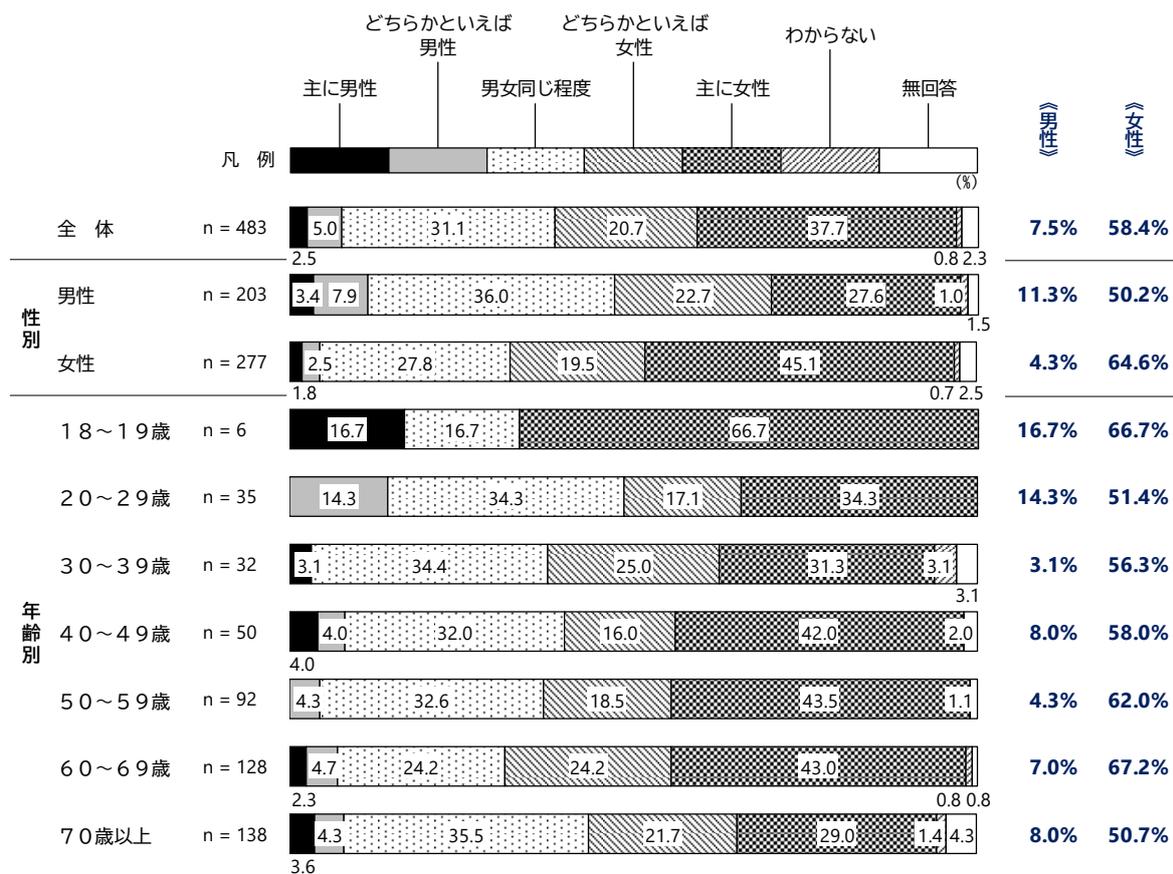


II 調査結果

【性別・年齢別／自身の家庭では、次にあげる仕事等は、男女どちらの役割になっているか】

工 掃除

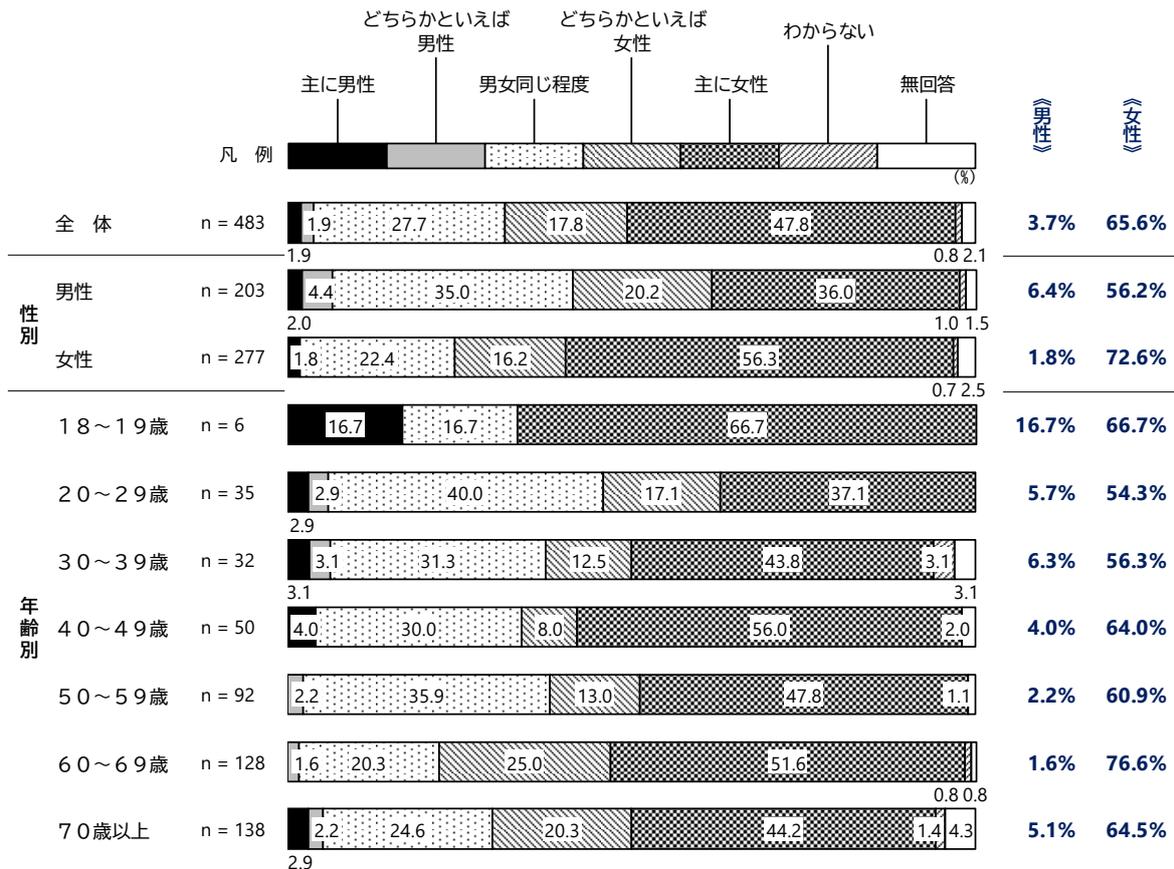
- ▶ 性別にみると、女性では《女性》との回答が64.6%と、男性に比べて14.4ポイント高くなっている
- ▶ 年齢別にみると、各年齢で概ね同様の傾向である



【性別・年齢別／自身の家庭では、次にあげる仕事等は、男女どちらの役割になっているか】

オ 洗濯

- ▶ 性別にみると、女性では《女性》との回答が72.6%と、男性に比べて16.4ポイント高くなっている
- ▶ 年齢別にみると、60歳以上では「男女同じ程度」との回答が2割台と、18～19歳を除き、他の年齢に比べて低くなっている

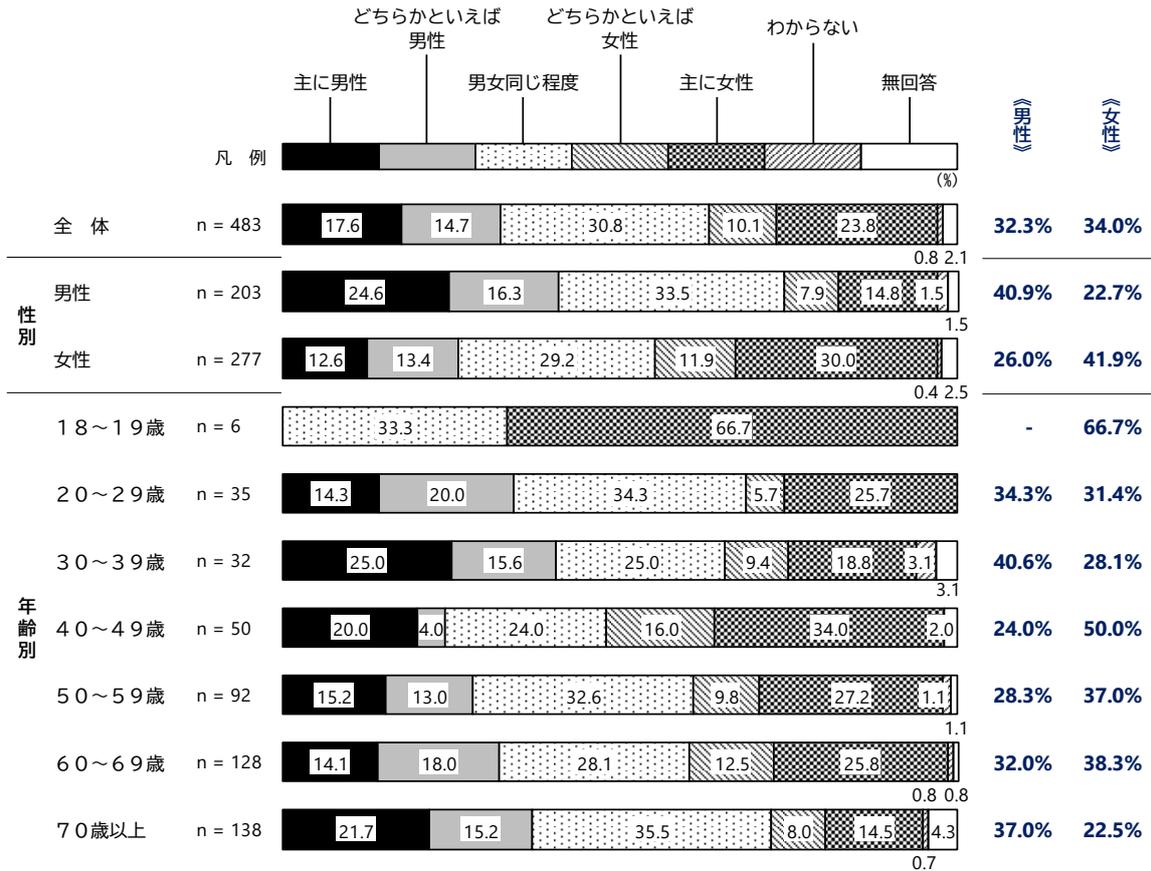


II 調査結果

【性別・年齢別／自身の家庭では、次にあげる仕事等は、男女どちらの役割になっているか】

カ ゴミ出し

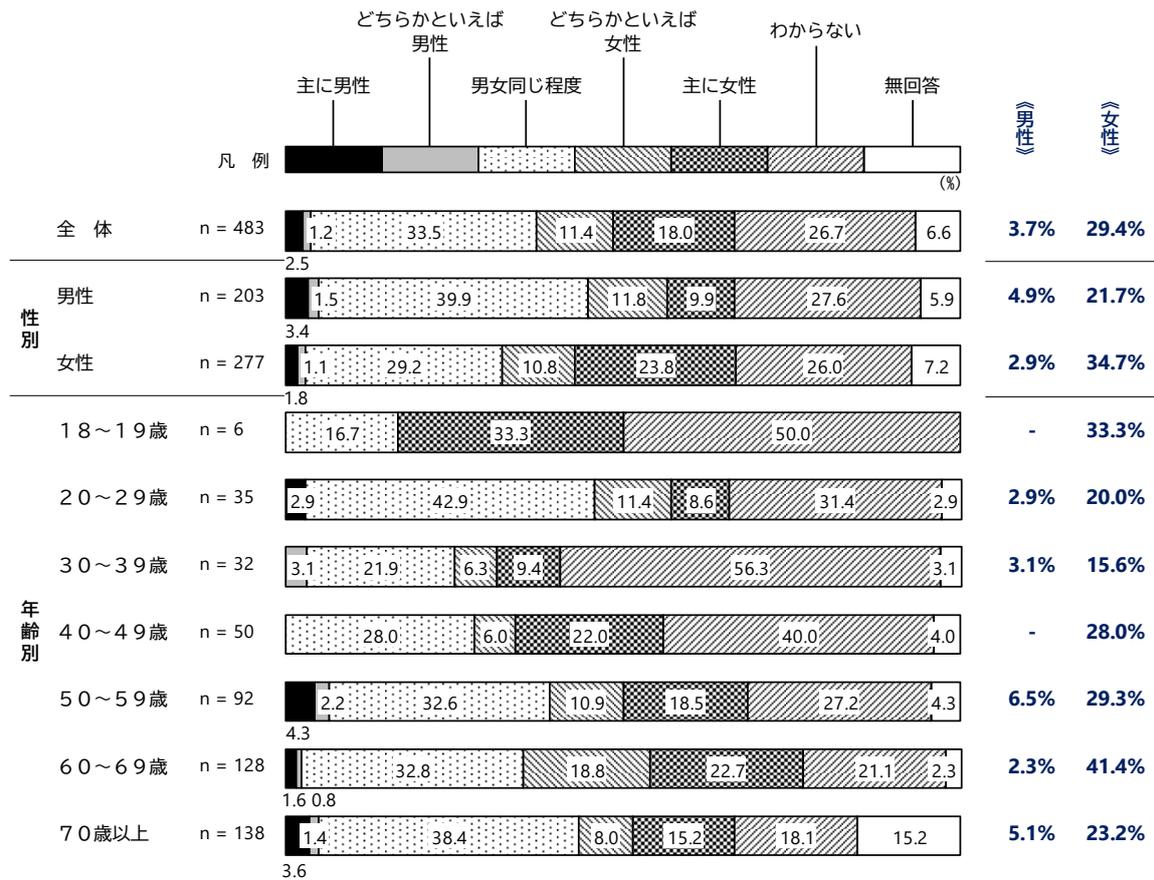
- ▶ 性別にみると、男性では《男性》との回答が40.9%と、女性に比べて14.9ポイント高くなっており、女性では《女性》との回答が男性に比べて19.2ポイント高くなっている
- ▶ 年齢別にみると、概ね同様の傾向であるが、50歳以上では、年齢が上がるにつれて《男性》との回答がやや高くなっている



【性別・年齢別／自身の家庭では、次あげる仕事等は、男女どちらの役割になっているか】

キ 介護

- ▶ 性別にみると、女性では《女性》との回答が34.7%と、男性に比べて13.0ポイント高くなっている
- ▶ 年齢別にみると、49歳以下では「分からない」との回答が3割以上と、他の年齢に比べて高くなっているものの、いずれの年齢でも《女性》が《男性》との回答に比べて高くなっている

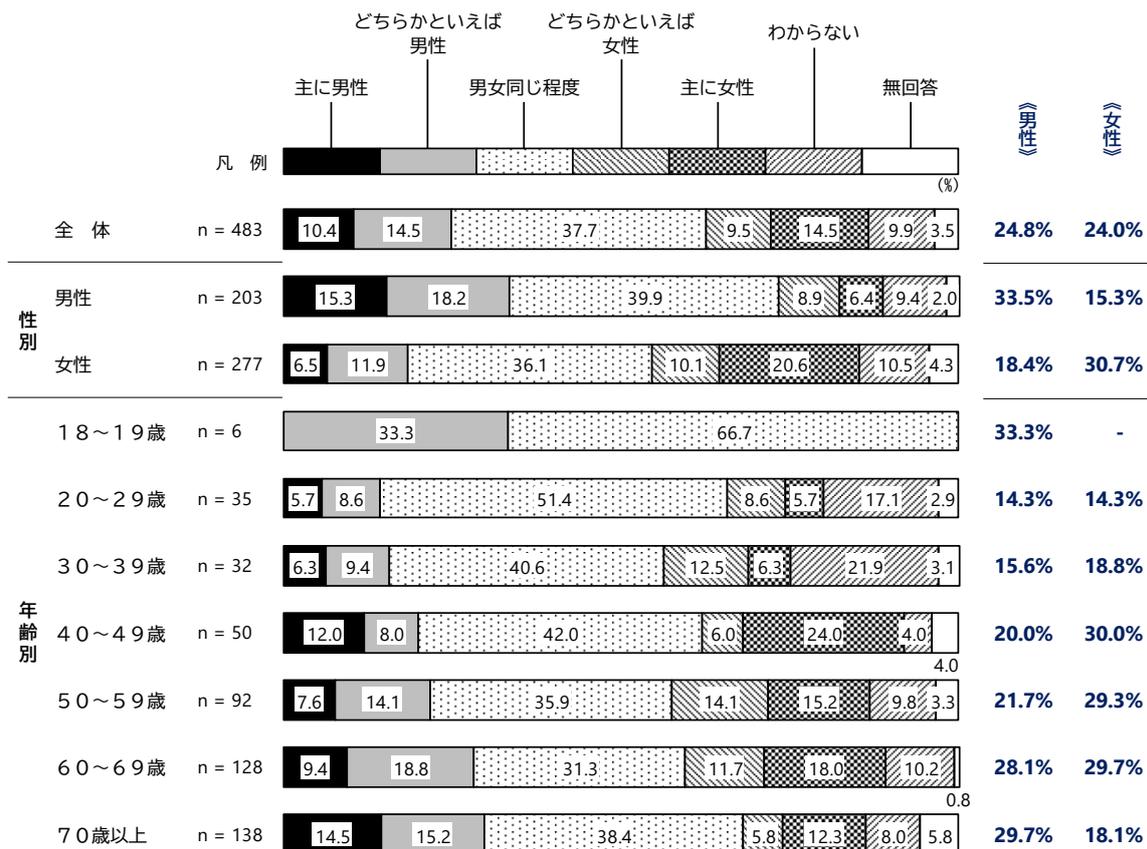


II 調査結果

【性別・年齢別／自身の家庭では、次にあげる仕事等は、男女どちらの役割になっているか】

ク 地域活動への参加

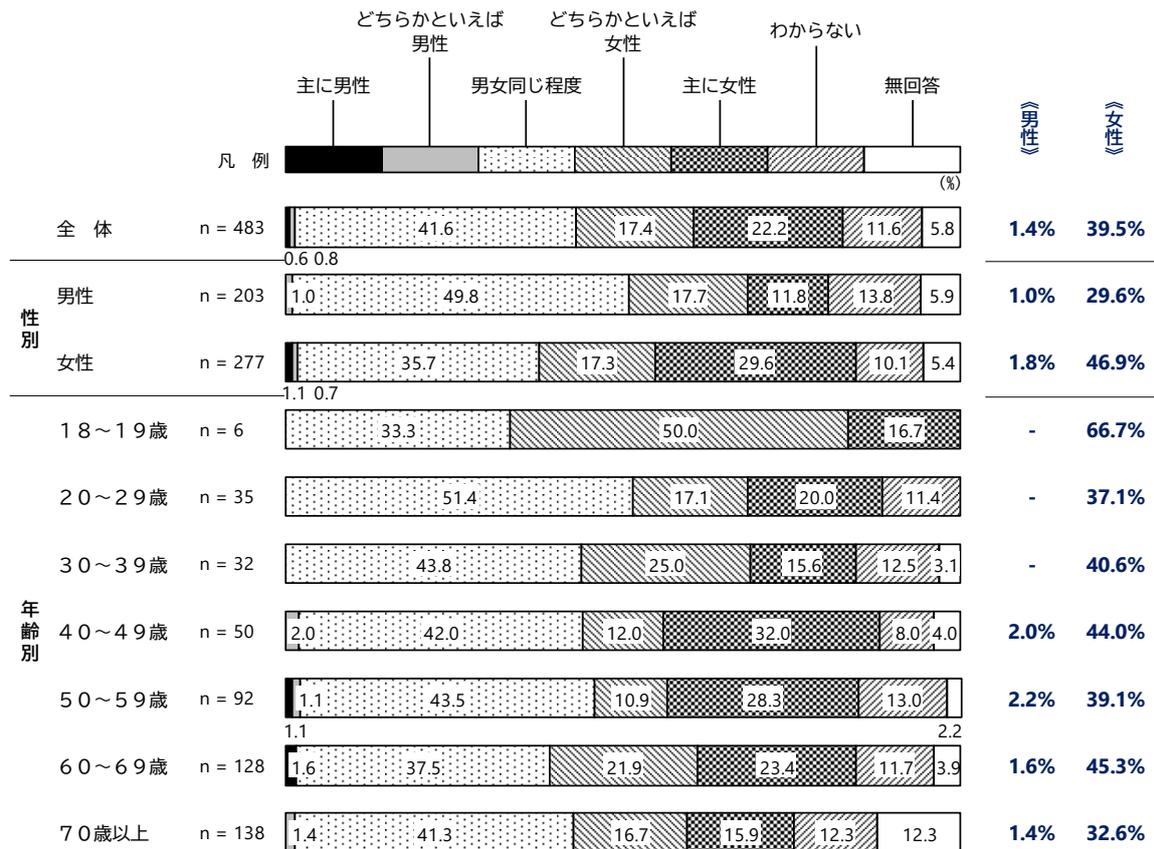
- ▶ 性別にみると、男性では《男性》との回答が33.5%と、女性に比べて15.1ポイント高くなっており、女性では《女性》との回答が30.7%と、男性に比べて15.4ポイント高くなっている
- ▶ 年齢別にみると、年齢が上がるにつれて概ね《男性》および《女性》との回答が高くなり、「男女同じ程度」との回答が低くなる傾向がある



【性別・年齢別／自身の家庭では、次にあげる仕事等は、男女どちらの役割になっているか】

ケ 子どもの教育・学校行事への参加

- ▶ 性別にみると、女性では《女性》との回答が46.9%と、男性に比べて17.3ポイント高くなっている
- ▶ 年齢別にみると、概ね同様の傾向であるが、18～19歳を除き、いずれの年齢でも「男女同じ程度」との回答が約4割～約5割となっており、《女性》との回答が約3割～4割台半ばとなっている

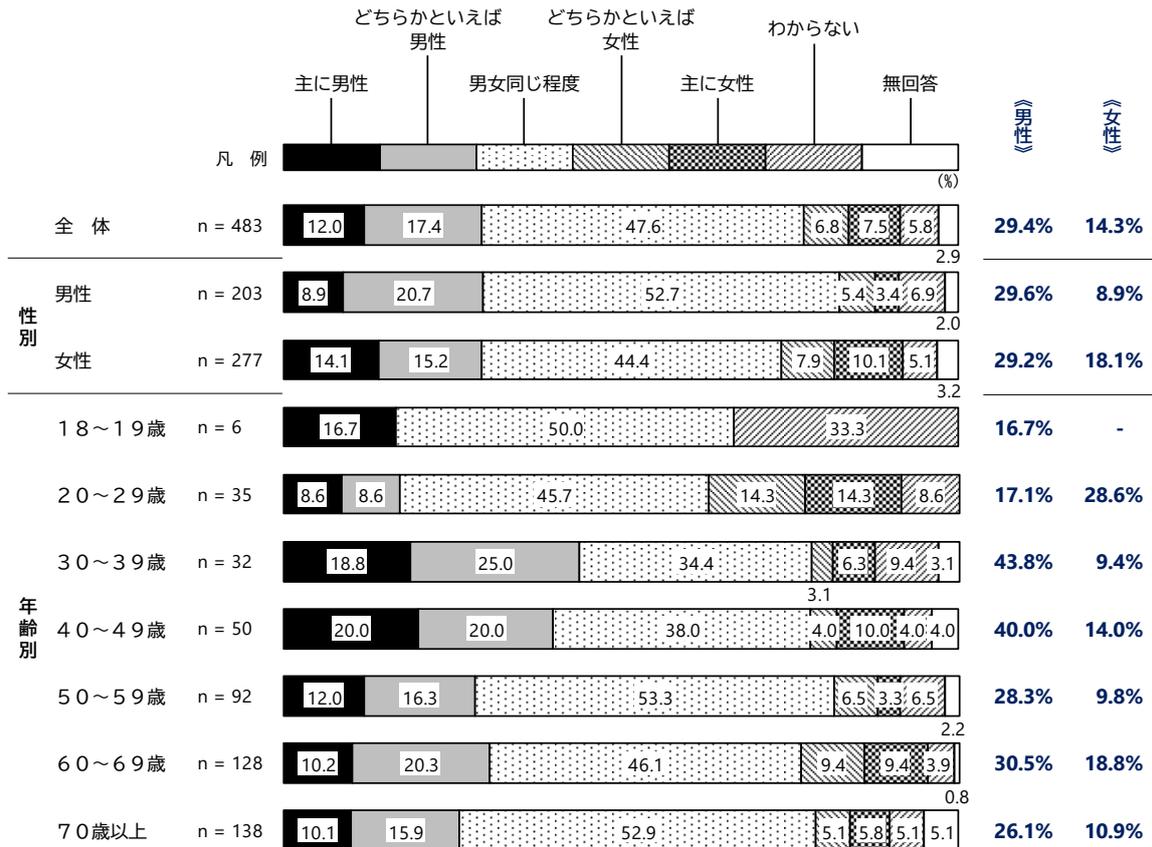


II 調査結果

【性別・年齢別／自身の家庭では、次にあげる仕事等は、男女どちらの役割になっているか】

コ 高額商品等の購入決定

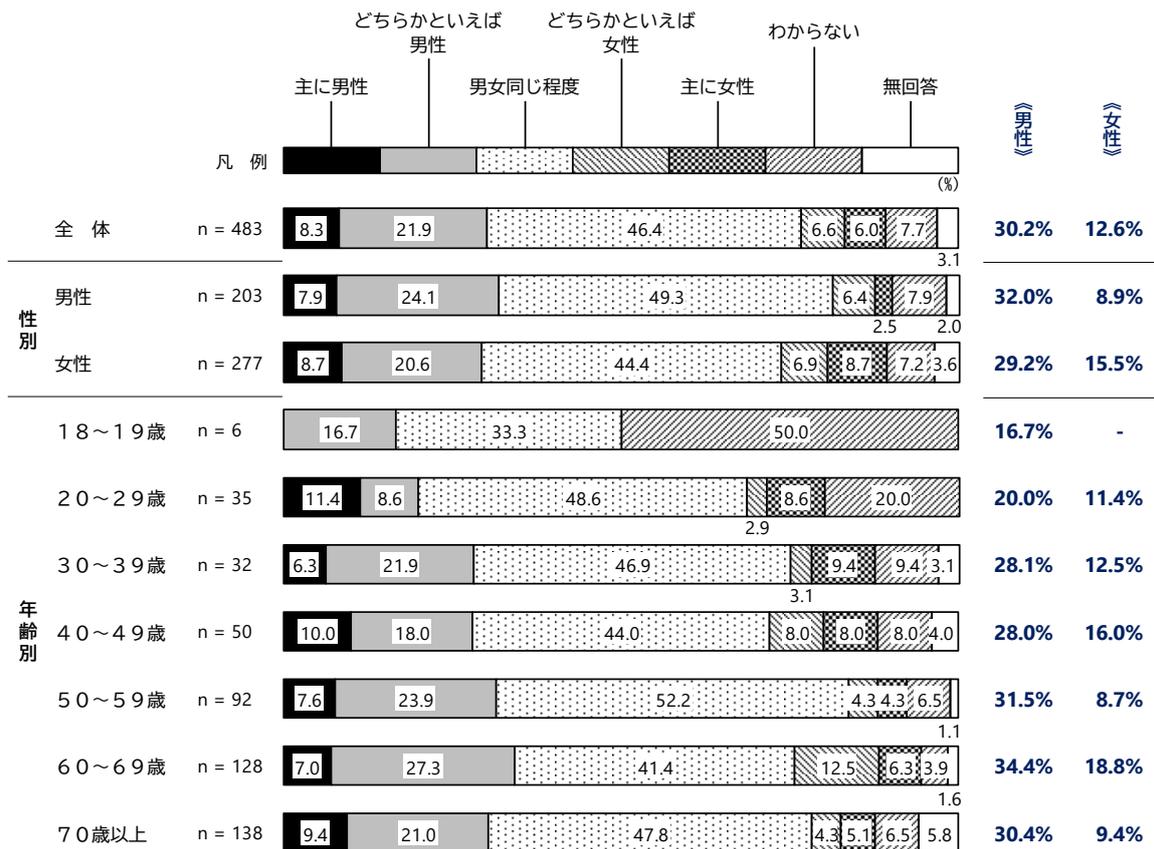
- ▶ 性別にみると、男性では「男女同じ程度」との回答が52.7%と、女性と比べてやや高くなっており、女性では「主に女性」との回答が10.1%と、男性と比べてやや高くなっている
- ▶ 年齢別にみると、30～49歳では《男性》との回答が4割台と、他の年齢に比べて高くなっている。一方、「男女同じ程度」との回答が3割台と低くなっている



【性別・年齢別／自身の家庭では、次にあげる仕事等は、男女どちらの役割になっているか】

サ 家庭問題の最終決定

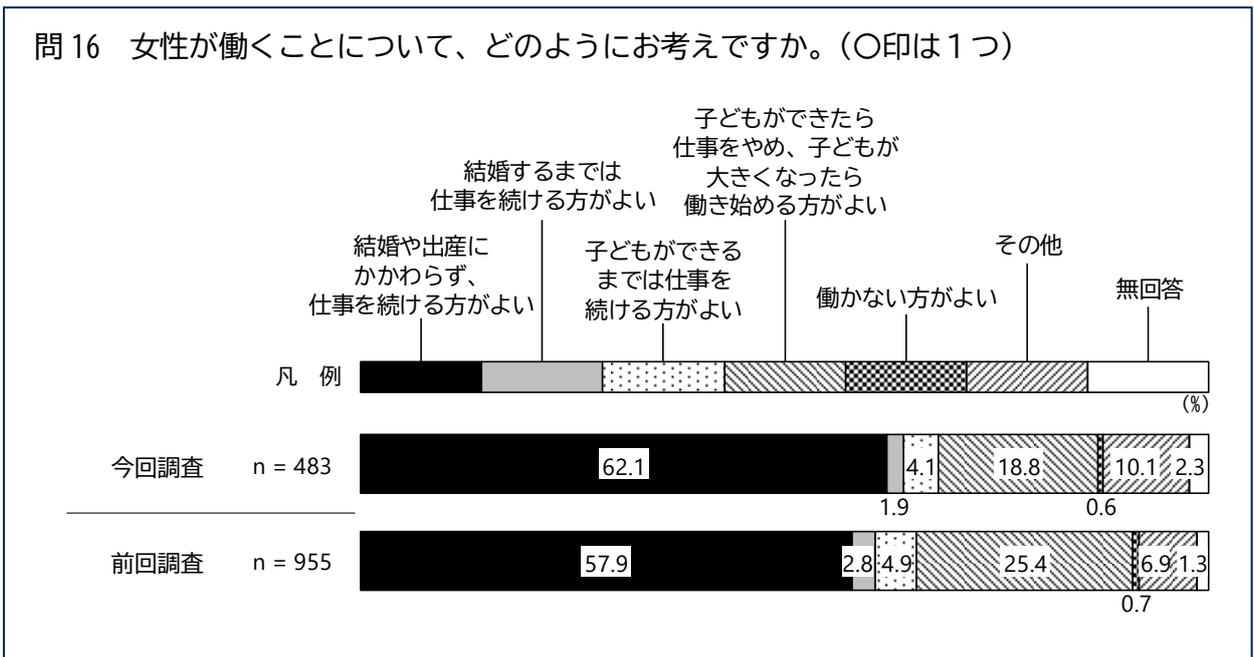
- ▶ 性別にみると、女性では《女性》との回答が15.5%と、男性に比べてやや高くなっている
- ▶ 年齢別にみると、各年齢で概ね同様の傾向である



4 仕事について

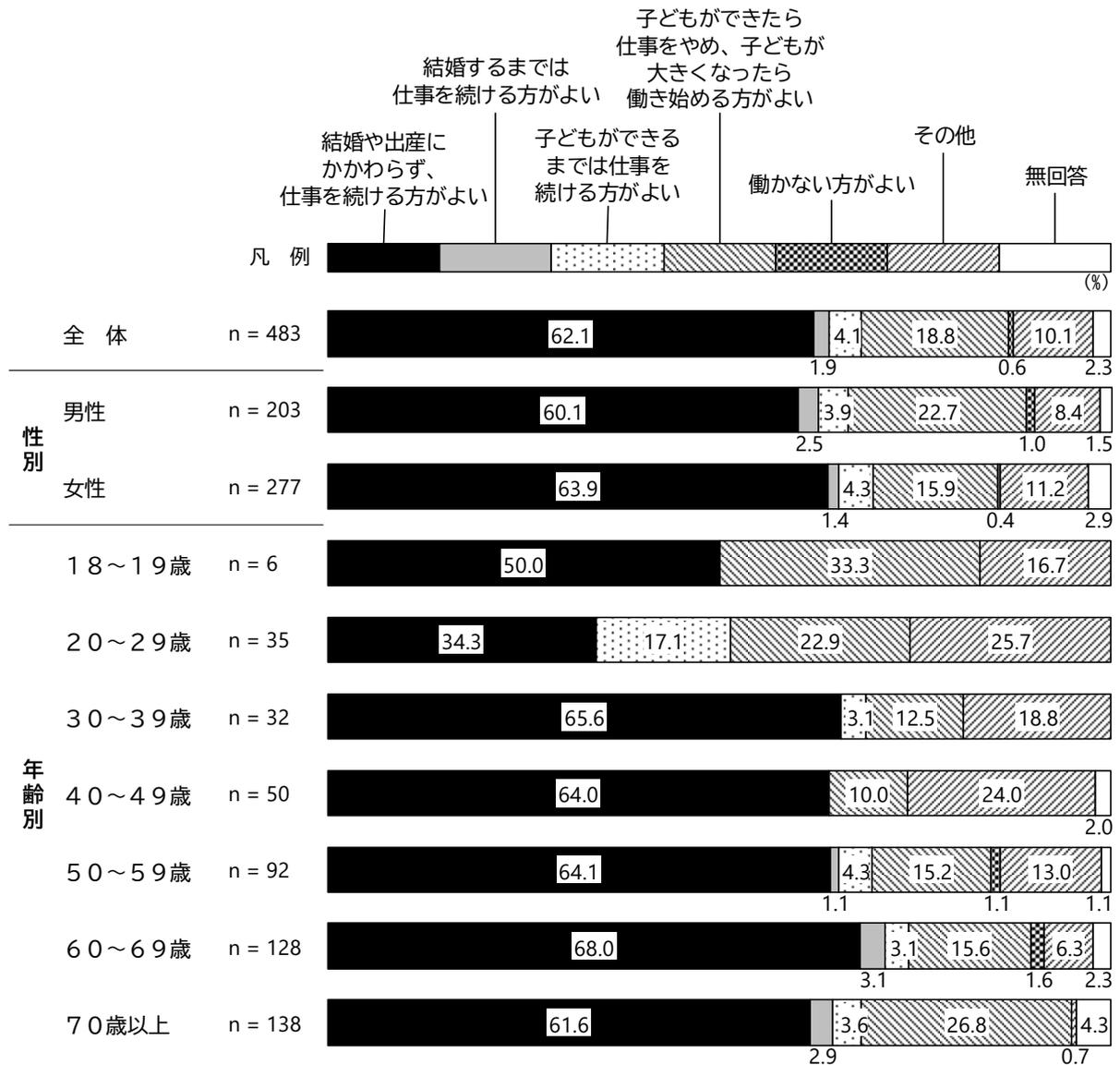
4-1 女性が働くことについてどのように考えているか

- ▶ 「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい」が62.1%と最も高く、次いで、「子どもができれば仕事をやめ、子どもが大きくなったら働き始める方がよい」(18.8%)、「子どもができるまでは仕事を続ける方がよい」(4.1%)となっている
- ▶ 前回調査と比較すると、「子どもができれば仕事をやめ、子どもが大きくなったら働き始める方がよい」がやや下降している



【性別・年齢別／女性が働くことについてどのように考えているか】

- ▶ 性別にみると、男性では「子どもができたら仕事をやめ、子どもが大きくなったら働き始める方がよい」が22.7%と、女性に比べてやや高くなっている
- ▶ 年齢別にみると、20～29歳では「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい」が34.3%と、他の年齢に比べて低くなっており、「子どもができたら仕事をやめ、子どもが大きくなったら働き始める方がよい」などがやや高い傾向がある



II 調査結果

【その他（抜粋）】

「各人の希望や環境によって決めればよい」（25件）

- 働きたい人は働き、やめて育児に集中したい人はすればいいし、それに対して周りが文句を言う習慣が無くなればいいと思う。（その他 10代）
- 男だから、女だからではなく、本人の意見が尊重されるのが良いと思う。（女性 50代）

「家族の協力があればよい」（4件）

- 個人の考えを尊重する。働きたい人は働く。育児などは夫婦で相談し時短で働いたり、退職するなど家庭の事情に合わせて工夫する。（女性 20代）
- 相手の理解と協力がとても必要。（女性 60代）

「経済的に働かなければならないのであれば働けばよい」（2件）

- 所得による。（男性 30代）
- とても世帯差がある問題なのでこれと選べない。働くことが良いとされる環境ならば働くべきだし、働かないで生活が充実するならば働かなくても良い。働きたい人働きたくない人、働かなければならない人働かなくてもいい人、それぞれの問題。（女性 30代）

「女性が働くために出産や子育て、職場復帰の支援が充実すればよい」（1件）

- 職場環境の理解が得られるかで変わると思う。休める余裕のある人数が確保されている職場なのか等。少子化問題もあるので「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい」を推したいが、抜けた穴を埋めるのは経験上ほとんど独身であったため、相互理解が必要だと思う。（女性 60代）

「その他」（10件）

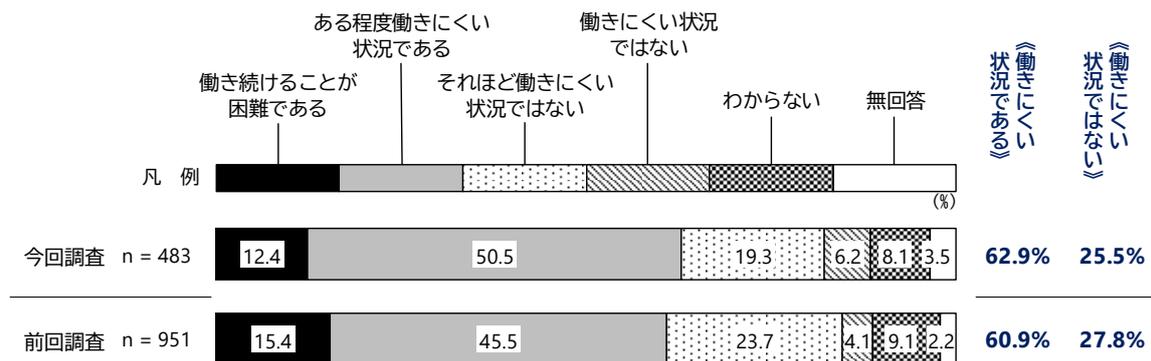
- 働くことが時間的、体力的にも可能であれば働いた方がよい。（女性 20代）
- その人のやりたいようにした方がよいかと。どれと決めつけたくない。（女性 50代）

4-2 男性と比較して、女性にとって働き続けることが難しい社会だと思うか

- ▶ 「働き続けることが困難である」と「ある程度働きにくい状況である」を合算した《働きにくい状況である》が62.9%となっており、「働きにくい状況ではない」と「それほど働きにくい状況ではない」を合算した《働きにくい状況ではない》を大きく上回っている
- ▶ 前回調査と比較すると、概ね同様の傾向である

問 17 男性と比較して、女性にとって働き続けることが難しい社会だと思いますか。

(○印は1つ)



※グラフ右の割合は、以下のとおり二つの選択肢の回答割合を合算したもの

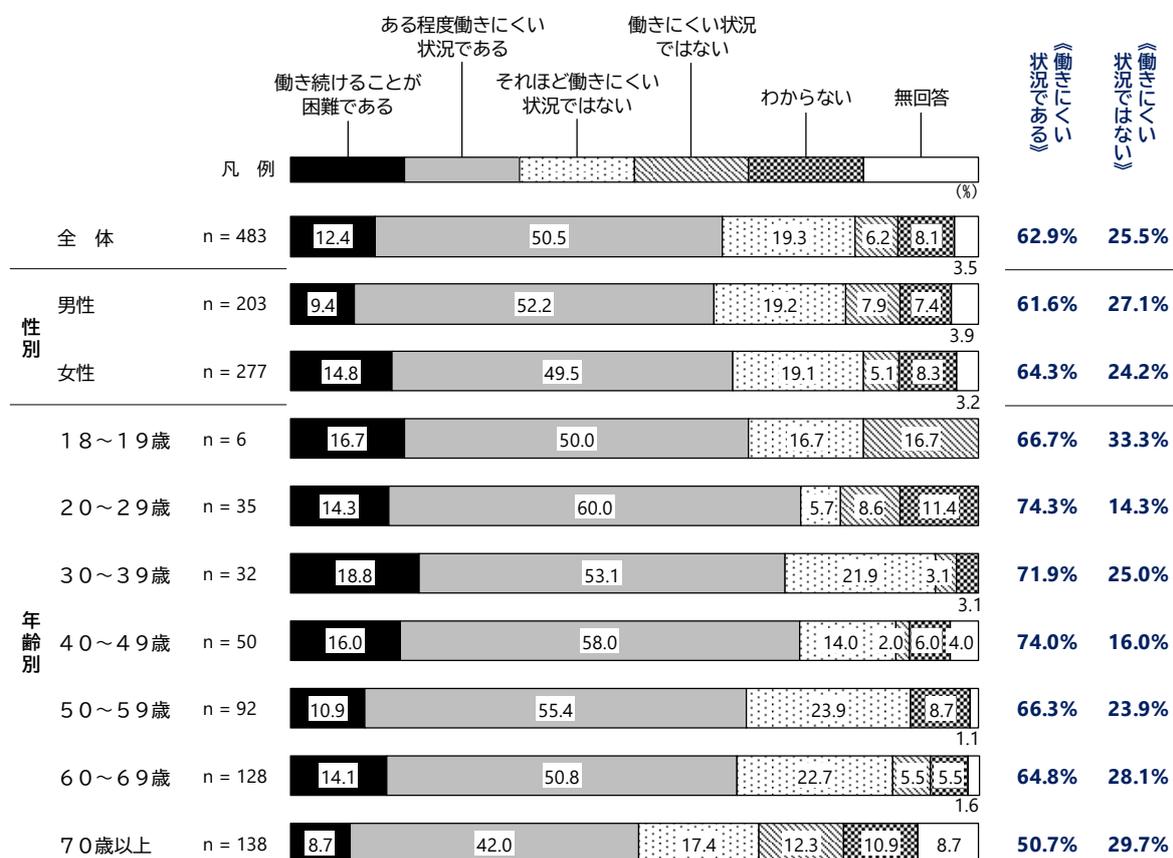
《働きにくい状況である》＝「働き続けることが困難である」＋「ある程度働きにくい状況である」

《働きにくい状況ではない》＝「それほど働きにくい状況ではない」＋「働きにくい状況ではない」

II 調査結果

【性別・年齢別／男性と比較して、女性にとって働き続けることが難しい社会だと思うか】

- ▶ 性別にみると、男女で概ね同様の傾向である
- ▶ 年齢別にみると、20～29歳では《働きにくい状況である》が74.3%と最も高く、以降、年齢が上がるにつれて、概ね低くなる傾向がある

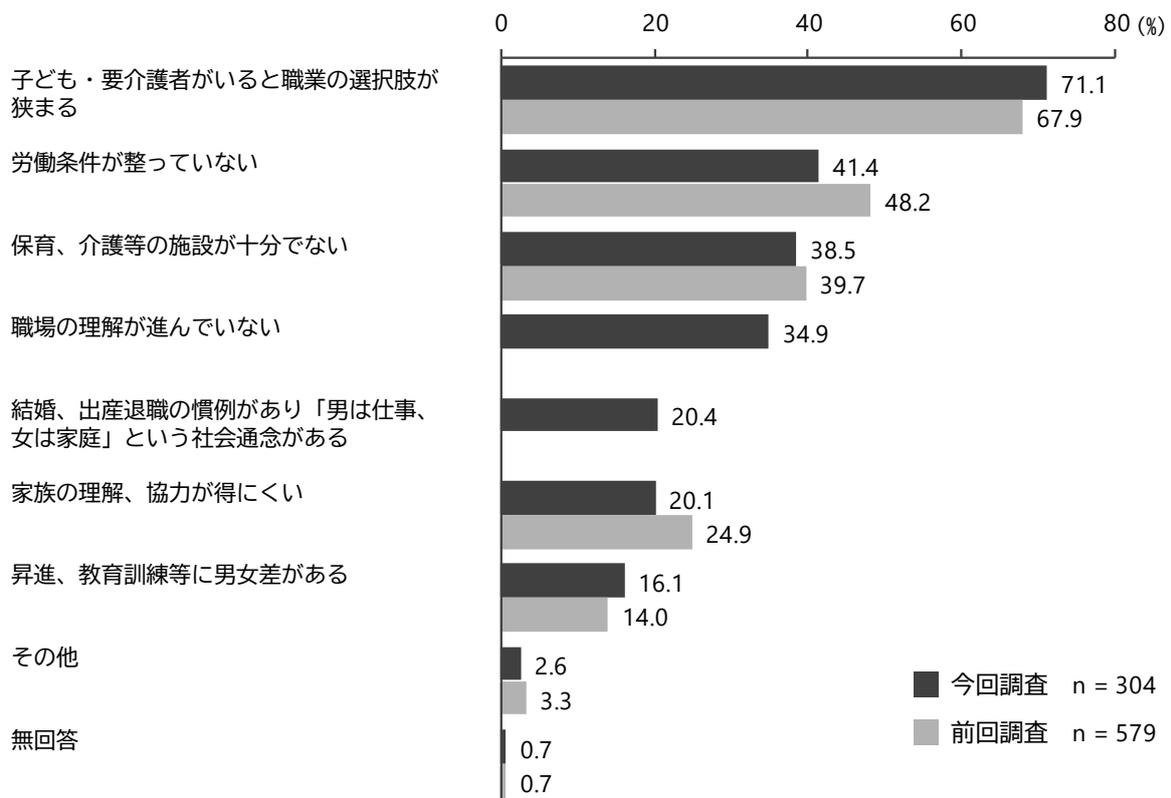


4-3 働きにくい状況になる理由

- ▶ 「子ども・要介護者がいると職業の選択肢が狭まる」が71.1%と最も高く、次いで、「労働条件が整っていない」(41.4%)、「保育、介護等の施設が十分でない」(38.5%)となっている
- ▶ 前回調査と比較すると、概ね同様である

【問17で、「働き続けることが困難である」「ある程度働きにくい状況である」とお答えになった方にお聞きします】

問18 働きにくい状況になるのは何が理由だと思いますか。(○印は3つまで)



※前回調査で聴取していた「能力発揮の場が少ない」は、今回調査では未聴取

※「職場の理解が進んでいない」は、前回調査では未聴取。なお、前回調査では「結婚、出産退職の慣例がある」および「男は仕事、女は家庭」という社会通念がある」をそれぞれ聴取していた

※「子ども・要介護者がいると職業の選択肢が狭まる」は、前回調査の「子どもがいると働く場が限られている」と比較した

※「保育、介護等の施設が十分でない」は、前回調査の「保育所等の育児施設が十分でない」と比較した

II 調査結果

【性別・年齢別／働きにくい状況になる理由】

- ▶ 性別にみると、男性では「結婚、出産退職の慣例があり「男は仕事、女は家庭」という社会通念がある」が28.0%と、女性に比べて13.4ポイント高くなっており、女性では「家族の理解、協力が得にくい」が24.7%と、男性に比べて11.1ポイント高くなっている
- ▶ 年齢別にみると、「保育、介護等の施設が十分でない」について、20～29歳、60～69歳では4割台と、保育や介護を行っていると思われる年齢で高くなっている。「家族の理解、協力が得にくい」について、20～39歳では1割未満と、他の年齢に比べて低くなっている

		n	子ども・要介護者がいると職業の選択肢が狭まる	労働条件が整っていない	保育、介護等の施設が十分でない	職場の理解が進んでいない	結婚、出産退職の慣例があり「男は仕事、女は家庭」という社会通念がある	家族の理解、協力が得にくい	昇進、教育訓練等に男女差がある	その他	無回答
全 体		304	71.1	41.4	38.5	34.9	20.4	20.1	16.1	2.6	0.7
性別	男性	125	68.0	44.8	40.0	39.2	28.0	13.6	12.8	1.6	0.8
	女性	178	73.6	39.3	37.1	32.0	14.6	24.7	18.5	3.4	0.6
年齢別	18～19歳	4	50.0	-	25.0	50.0	50.0	25.0	25.0	-	-
	20～29歳	26	65.4	42.3	42.3	42.3	19.2	7.7	30.8	-	-
	30～39歳	23	73.9	52.2	30.4	26.1	8.7	4.3	17.4	13.0	-
	40～49歳	37	75.7	45.9	32.4	35.1	21.6	27.0	10.8	-	-
	50～59歳	61	75.4	39.3	32.8	29.5	19.7	23.0	21.3	4.9	-
	60～69歳	83	67.5	47.0	48.2	33.7	22.9	14.5	12.0	-	-
	70歳以上	70	71.4	32.9	37.1	40.0	20.0	30.0	12.9	2.9	2.9

【その他（抜粋）】

「職場の理解が足りない」（3件）

- 職場のいじめ。(女性 50 代)
- 派遣では子供が小さいと面接すらしない為。(女性 50 代)
- 職場の状況→慢性的な人手不足で急に「休む」とは言えない環境。(女性 50 代)

「男性の理解が足りない」（1件）

- 男性の女性への理解が足らなすぎる。(女性 30 代)

「その他」（3件）

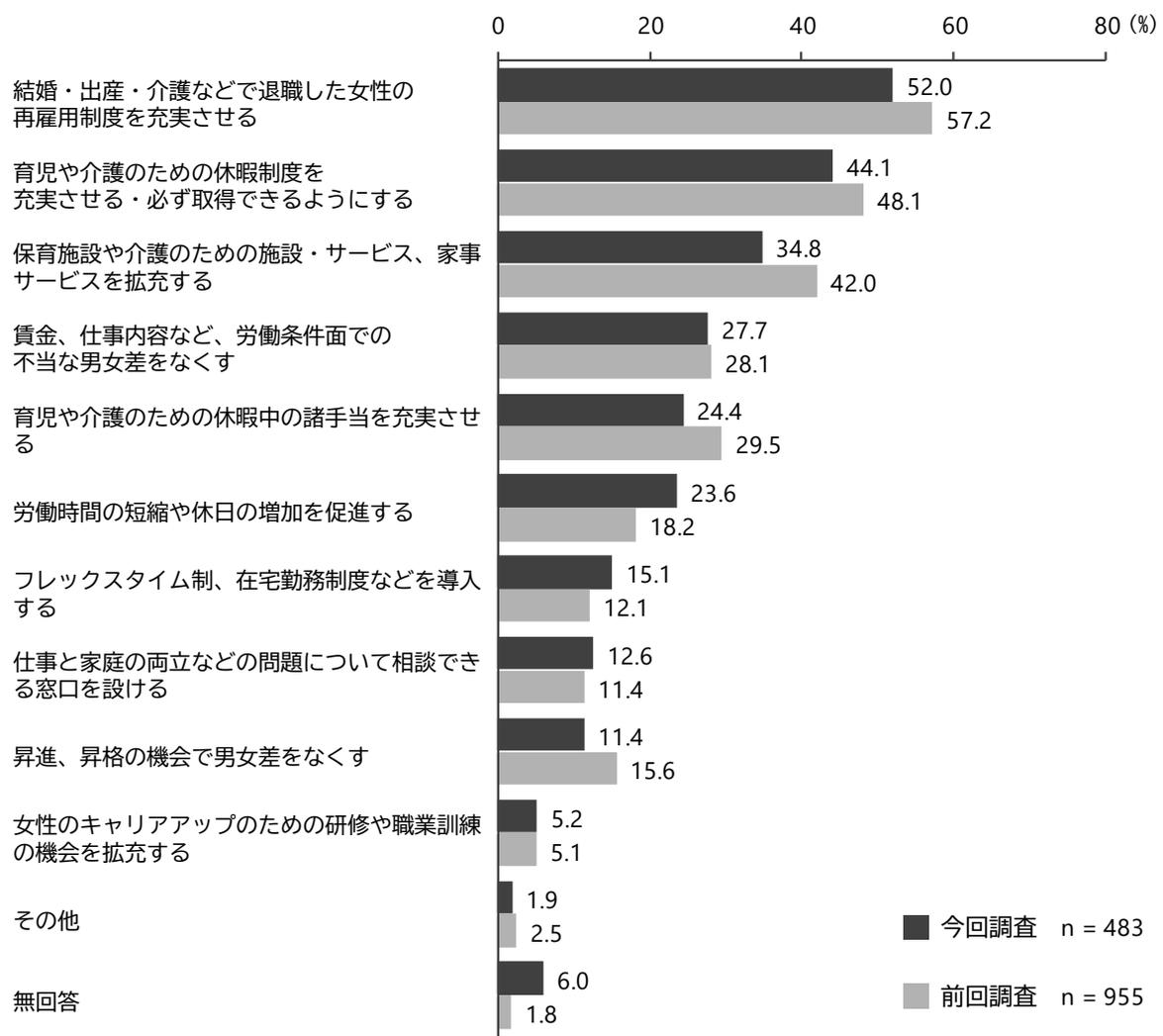
- パートの場合、8時間労働すると税金が上がるのをなくしてほしい。給与。(男性 30 代)
- 月経困難症やPMSなど、女性特有で、かつ、個人差の大きい症状が存在すること。また、それにより職場において、男性からだけではなく、同じ女性からも女性個々人の症状の理解が難しく、職場として公正な対応策を実施するのが困難であること。(男性 30 代)
- 職種にもよる。(女性 70 代以上)

II 調査結果

4-4 女性が働きやすくなるために必要なこと

- ▶ 「結婚・出産・介護などで退職した女性の再雇用制度を充実させる」が52.0%と最も高く、次いで、「育児や介護のための休暇制度を充実させる・必ず取得できるようにする」(44.1%)、「保育施設や介護のための施設・サービス、家事サービスを拡充する」(34.8%)となっている
- ▶ 前回調査と比較すると、「保育施設や介護のための施設・サービス、家事サービスを拡充する」がやや下降している

問19 女性が働きやすくなるために必要なことは、何だと思えますか。(○印は3つまで)



※「育児や介護のための休暇中の諸手当を充実させる」は、前回調査の「国が育児や介護のための休暇中の諸手当を充実させる」と比較した

【性別・年齢別／女性が働きやすくなるために必要なこと】

- ▶ 性別にみると、女性では「育児や介護のための休暇制度を充実させる・必ず取得できるようにする」が49.1%と、男性に比べて11.2ポイント高く、「育児や介護のための休暇中の諸手当を充実させる」が28.5%と、やや高くなっている。一方、男性では「結婚・出産・介護などで退職した女性の再雇用制度を充実させる」が57.1%と、女性に比べてやや高くなっている
- ▶ 年齢別にみると、「育児や介護のための休暇中の諸手当を充実させる」について、20～29歳では40.0%と、他の年齢に比べて高くなっている。「労働時間の短縮や休日の増加を促進する」について、20～39歳では約4割と高くなっている。「フレックスタイム制、在宅勤務制度などを導入する」について、50歳以上では1割台半ば以下と低くなっている

		n	再雇用・結婚・出産・介護などで退職した女性の制度を充実させる	育児や介護のための休暇制度を充実させる・必ず取得できるようにする	保育施設や介護のための施設・サービス、家事サービスを拡充する	賃金、仕事内容など、労働条件面での不当な男女差をなくす	育児や介護のための休暇中の諸手当を充実させる	労働時間の短縮や休日の増加を促進する	フレックスタイム制、在宅勤務制度などを導入する	仕事と家庭の両立などの問題について相談できる窓口を設ける	昇進、昇格の機会などで男女差をなくす	女性のキャリアアップのための研修や職業訓練の機会を拡充する
全体		483	52.0	44.1	34.8	27.7	24.4	23.6	15.1	12.6	11.4	5.2
性別	男性	203	57.1	37.9	36.9	31.0	19.2	22.7	12.8	12.8	13.3	4.4
	女性	277	48.0	49.1	32.9	25.3	28.5	24.2	17.0	12.3	10.1	5.8
年齢別	18～19歳	6	66.7	50.0	33.3	50.0	33.3	16.7	16.7	16.7	16.7	-
	20～29歳	35	51.4	48.6	34.3	14.3	40.0	37.1	20.0	2.9	20.0	5.7
	30～39歳	32	40.6	31.3	31.3	25.0	25.0	40.6	28.1	6.3	21.9	3.1
	40～49歳	50	50.0	48.0	28.0	22.0	18.0	24.0	34.0	2.0	4.0	10.0
	50～59歳	92	55.4	47.8	38.0	26.1	20.7	15.2	15.2	13.0	14.1	8.7
	60～69歳	128	52.3	42.2	41.4	30.5	27.3	24.2	12.5	10.9	8.6	3.1
	70歳以上	138	52.2	44.2	29.7	31.2	22.5	21.7	6.5	21.0	10.1	3.6

II 調査結果

【その他（抜粋）】

「職場での改善」（2件）

- 上司、幹部の意識改革。（女性 20 代）
- 育児介護等欠員補充が必要。助っ人など…。（男性 50 代）

「男性の理解と協力」（2件）

- 男性の女性への理解。（女性 30 代）
- 男性の意識を変えて欲しい。（女性 70 代以上）

「家庭の理解と協力」（1件）

- 女性が家に居ないと家庭内の物事が滞る。男性も家庭内のことに興味を示すべき。家庭内でも働いてほしい。（女性 50 代）

「その他」（1件）

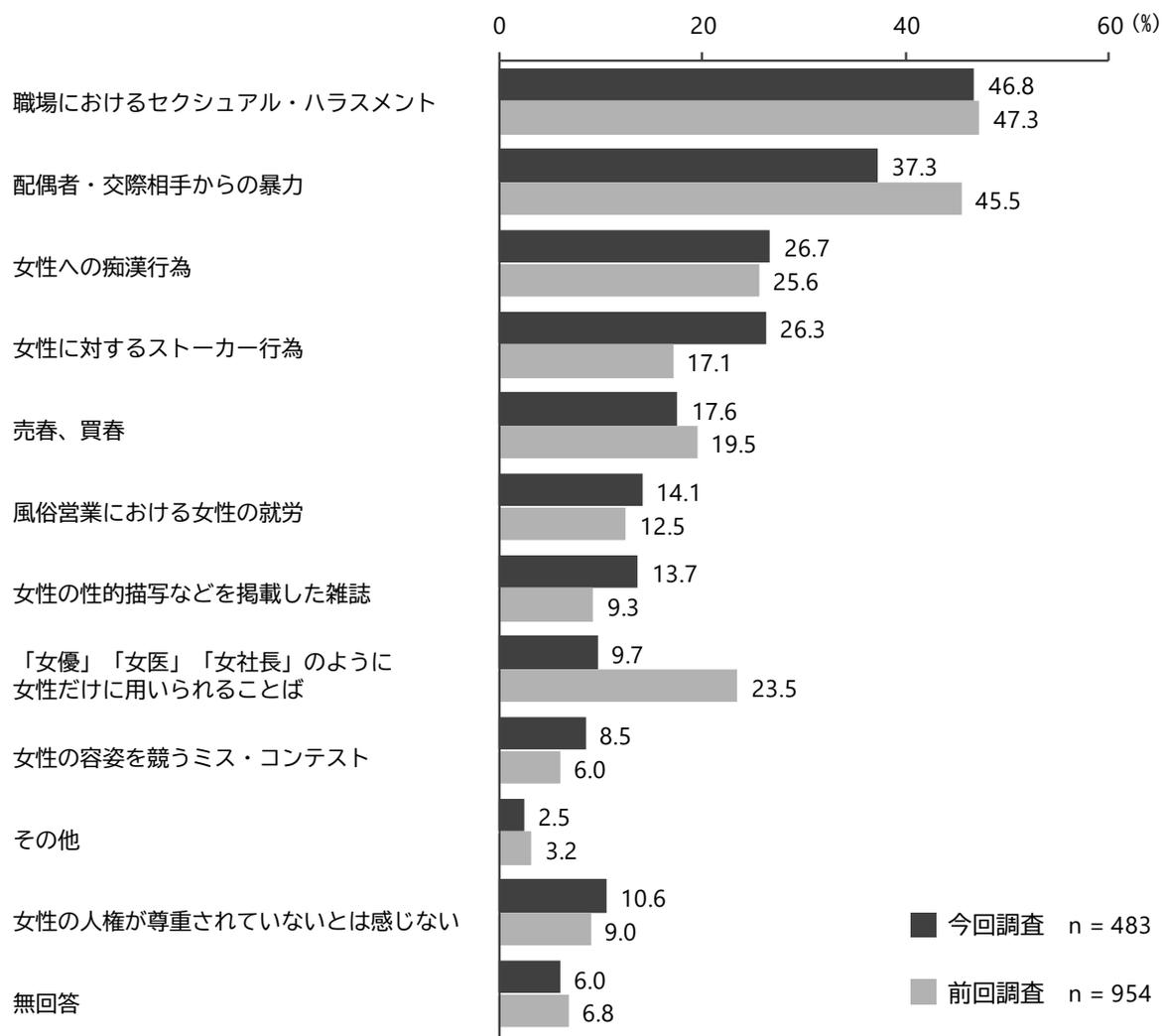
- 義務教育において、ジェンダーだけでなく、セックスの観点からも、男女共同参画について考える機会を設けること。（男性 30 代）

5 人権の尊重について

5-1 女性の人権が尊重されていないと感じるとき

- ▶ 「職場におけるセクシュアル・ハラスメント」が46.8%と最も高く、次いで、「配偶者・交際相手からの暴力」(37.3%)、「女性への痴漢行為」(26.7%)となっている
- ▶ 前回調査と比較すると、「女性に対するストーカー行為」が26.3%とやや上昇し、「配偶者・交際相手からの暴力」が37.3%とやや下降している

問20 あなたが女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなモノ・コトを見たり聞いたりしたときですか。(○印は3つまで)



※ 「「女優」「女医」「女社長」のように女性だけに用いられることば」は、前回調査の「「嫁に出す」「娘が片付く」のように女性だけに用いられることば」と比較した

※ 「配偶者・交際相手からの暴力」は、前回調査の「家庭内での夫から妻への暴力」と比較した

II 調査結果

【性別・年齢別／女性の人権が尊重されていないと感じるとき】

- ▶ 性別にみると、男女で概ね同様の傾向である
- ▶ 年齢別にみると、50歳以上では「配偶者・交際相手からの暴力」が約4割と、他の年齢に比べて高くなっている

		n	職場におけるセクシユアル・ハラスメント	配偶者・交際相手からの暴力	女性への痴漢行為	女性に対するストーカー行為	売春、買春	風俗営業における女性の就労	女性の性的描写などを掲載した雑誌	女性だけに用いられることば 「女優」「女医」「女社長」 のように	女性の容姿を競うミス・コンテスト
全 体		483	46.8	37.3	26.7	26.3	17.6	14.1	13.7	9.7	8.5
性別	男性	203	47.3	34.5	24.6	28.1	16.7	12.8	11.8	12.3	7.9
	女性	277	46.6	39.4	28.2	24.9	18.4	15.2	15.2	7.6	9.0
年齢別	18～19歳	6	33.3	33.3	33.3	16.7	-	16.7	33.3	16.7	16.7
	20～29歳	35	42.9	25.7	34.3	20.0	2.9	2.9	11.4	5.7	14.3
	30～39歳	32	34.4	18.8	15.6	18.8	12.5	9.4	6.3	12.5	12.5
	40～49歳	50	40.0	28.0	30.0	30.0	16.0	4.0	6.0	22.0	10.0
	50～59歳	92	55.4	42.4	25.0	23.9	18.5	15.2	14.1	15.2	13.0
	60～69歳	128	43.8	43.0	34.4	31.3	21.1	20.3	11.7	8.6	5.5
	70歳以上	138	50.7	39.1	20.3	26.1	20.3	15.2	19.6	2.2	5.1

【その他（抜粋）】

「性犯罪等のニュース」（3件）

- レイプへの刑が軽い時。ジェンダーレストイレと言って男性専用、女性専用が排除されている時。（その他 10代）
- 日本において感じることはほとんどないが、海外において、女性へのアシッドアタックや、強姦、児童婚、誘拐婚など、根強い性差別意識が絡んだニュースを聞いたりした時。（男性 30代）
- 性的な被害に関して、あまりにも加害男性の罪が軽い。男性にはバイアグラはすぐに認められた。女性の緊急避妊は、対応が遅れている。（女性 60代）

「職場での対応」（3件）

- 妊娠、出産時、職場での使えない人扱い。（女性 30代）
- 上役、上官は男性が多い。（女性 30代）
- パワハラ（上司が男）。（女性 50代）

「社会的通念」（1件）

- 個人差はあるが古い社会通念・慣習については強くそう思う。（男性 40代）

「その他」（5件）

- 女性を理由に理不尽な扱いを受けたとき。（女性 20代）
- わからない。（女性 30代）

II 調査結果

5-2 配偶者や交際相手の間で次のようなことが行われた場合、暴力だと思いか

- ▶ いずれの項目でも「暴力だと思う」と「暴力の場合とそうでない場合があると思う」を合算した《暴力だと思う》について、8割台半ば～9割台半ばと高くなっている。特に『ア 平手で打つ、足で蹴る』、『イ 身体を傷つける可能性がある物等で殴る』、『ウ 殴るふりをして脅かす、刃物等を突き付けて脅かす』、『サ 相手が嫌がっているのに性的な行為を強要する』では、「暴力だと思う」が8割以上と高くなっている
- ▶ 一方、『エ 大声でどなる』、『オ 何を言っても長時間無視し続ける』、『ク 友人・近所付き合いなどの交流を制限する』では「暴力の場合とそうでない場合があると思う」が3割台半ば～約4割と他の項目に比べて高くなっている
- ▶ 前回調査と比較すると、《暴力だと思う》に大きな変化はみられないが、「暴力だと思う」について、『キ 交友関係や電話・メール・SNS等を細かく監視する』が22.4ポイント上昇し、『エ 大声でどなる』が19.1ポイント下降している

問 21 配偶者や交際相手の間での身体的・心理的暴力などのDV被害が問題となっています。あなたは配偶者や交際相手の間で次のようなことが行われた場合、暴力だと思いますか。(ア～シそれぞれについてあてはまるもの1つに○印)

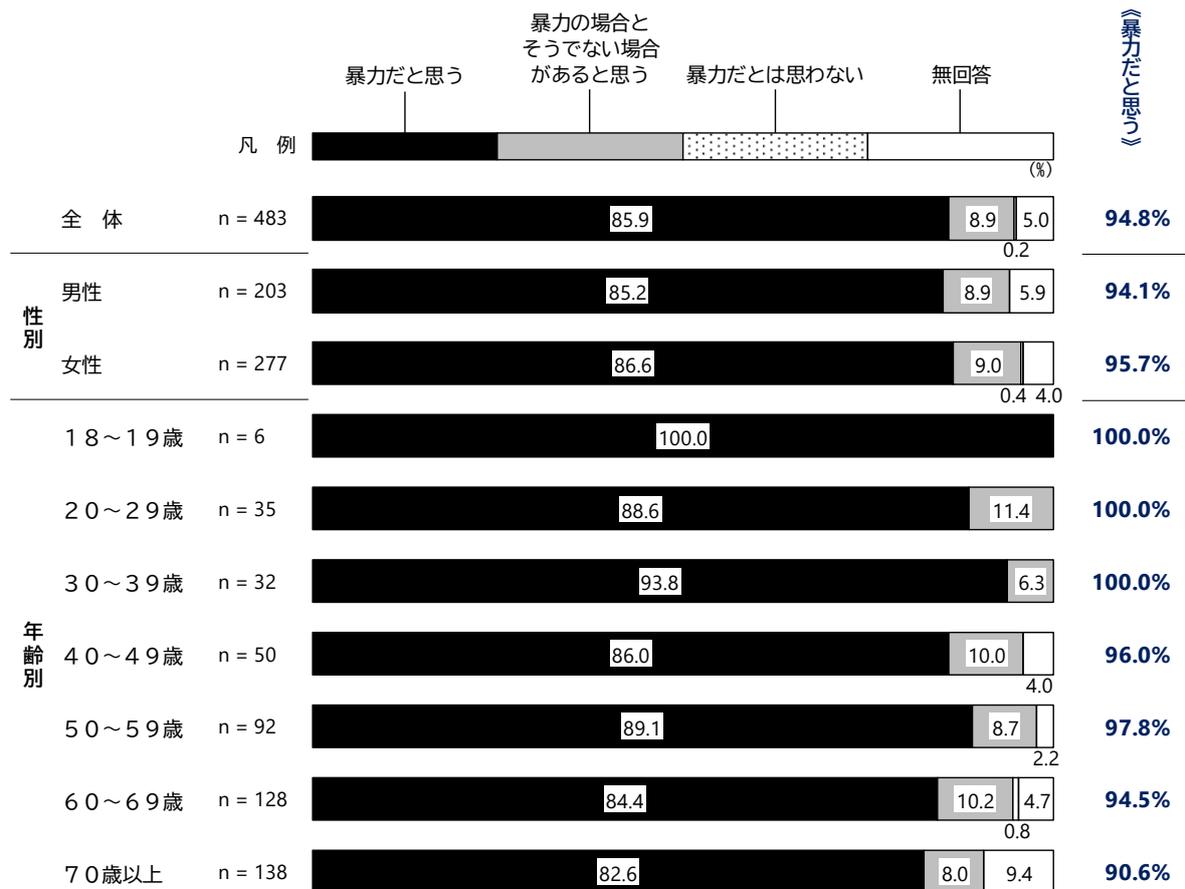


※グラフ右の割合は、以下のとおり二つの選択肢の回答割合を合算したもの
《暴力だと思う》＝「暴力だと思う」＋「暴力の場合とそうでない場合があると思う」

【性別・年齢別／配偶者や交際相手の中で次のようなことが行われた場合、暴力だと思うか】

ア 平手で打つ、足で蹴る

- ▶ 性別にみると、男女で概ね同様の傾向である
- ▶ 年齢別にみても、概ね同様の傾向であり、いずれの年齢でも《暴力だと思う》が9割以上を占めている

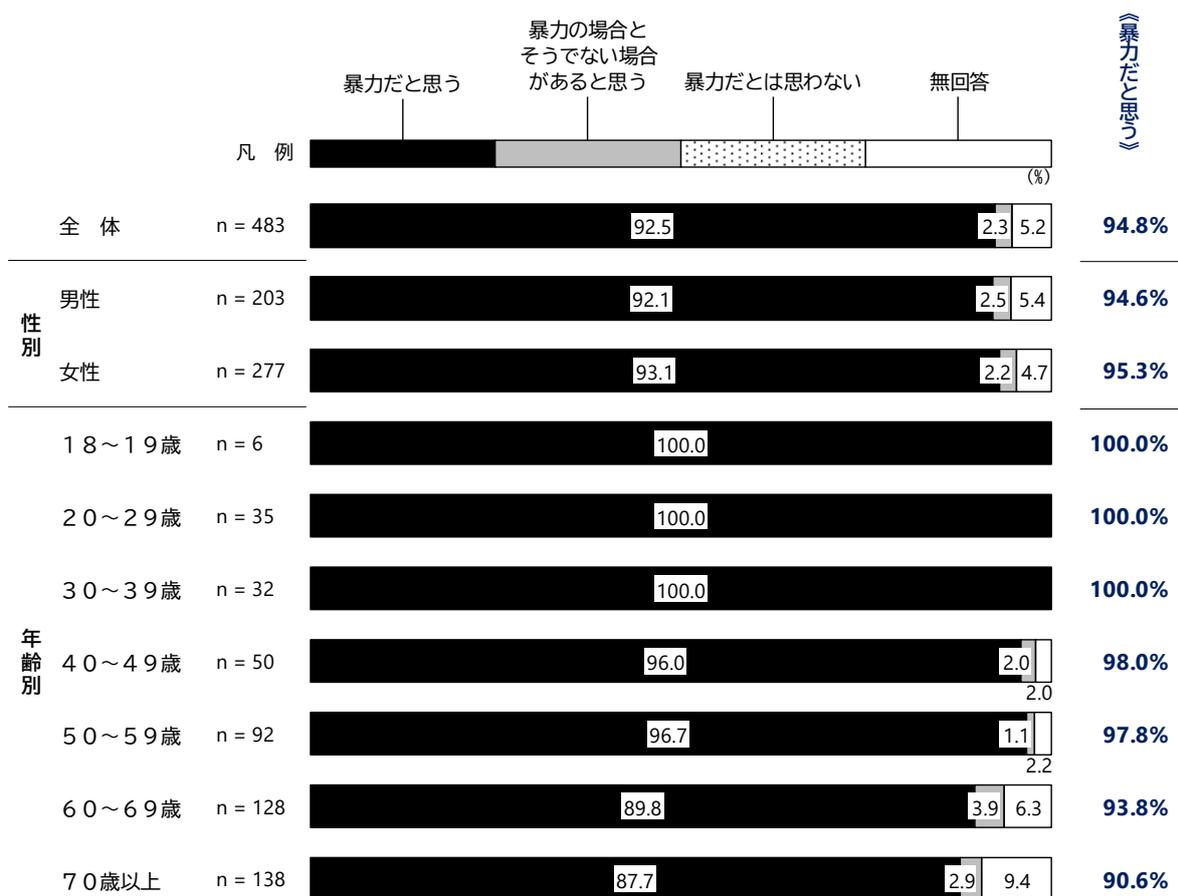


II 調査結果

【性別・年齢別／配偶者や交際相手の中で次のようなことが行われた場合、暴力だと思うか】

イ 身体を傷つける可能性がある物等で殴る

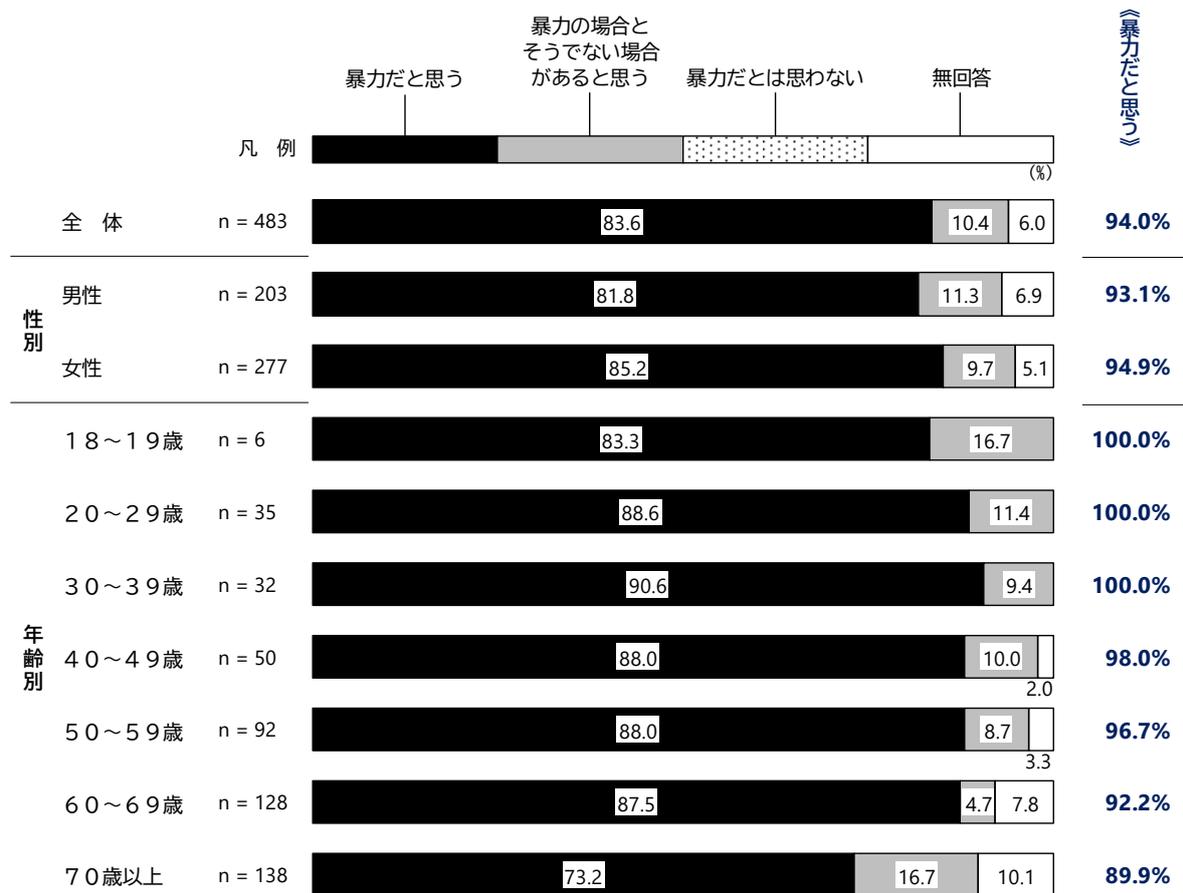
- ▶ 性別にみると、男女で概ね同様の傾向である
- ▶ 年齢別にみても、概ね同様の傾向であるが、《暴力だと思う》について、年齢が上がるにつれて、低くなっている



【性別・年齢別／配偶者や交際相手の間で次のようなことが行われた場合、暴力だと思うか】

ウ 殴るふりをして脅かす、刃物等を突き付けて脅かす

- ▶ 性別にみると、男女で概ね同様の傾向である
- ▶ 年齢別にみても、概ね同様の傾向であるが、《暴力だと思う》について、年齢が上がるにつれて、低くなっている

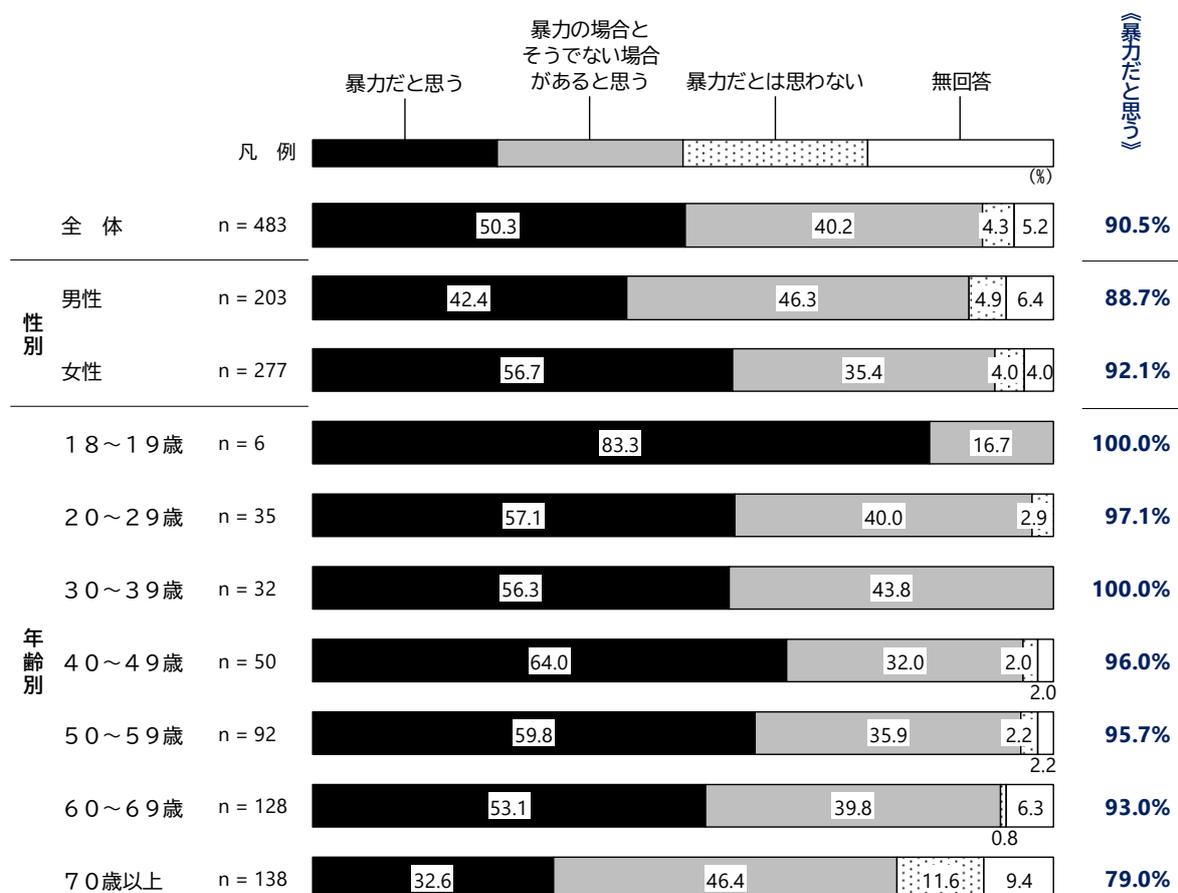


II 調査結果

【性別・年齢別／配偶者や交際相手の中で次のようなことが行われた場合、暴力だと思うか】

エ 大声でどなる

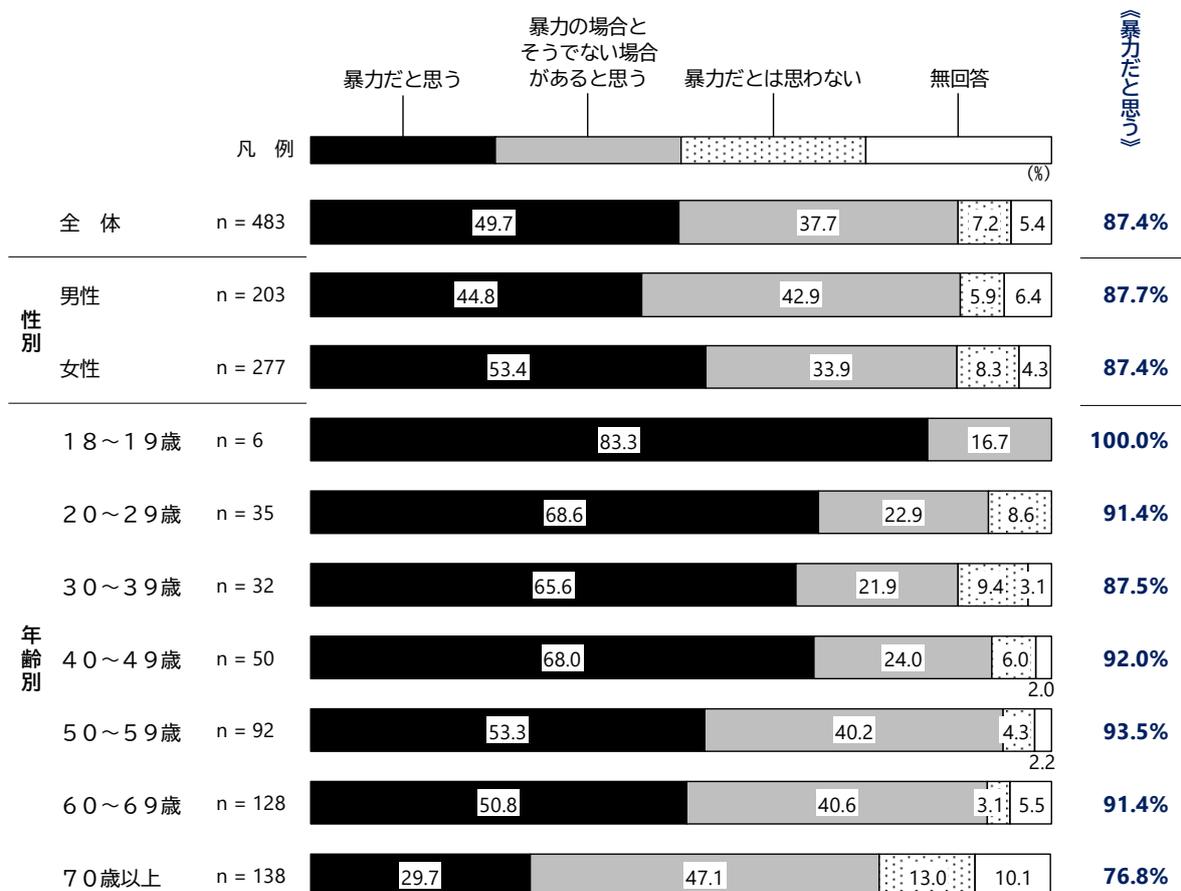
- ▶ 性別にみると、女性では「暴力だと思う」が56.7%と、男性に比べて14.3ポイント高くなっており、男性では「暴力の場合とそうでない場合があると思う」が46.3%と、女性に比べて10.9ポイント高くなっている
- ▶ 年齢別にみると、70歳以上では《暴力だと思う》が79.0%と、他の年齢に比べて低くなっている



【性別・年齢別／配偶者や交際相手の間で次のようなことが行われた場合、暴力だと思うか】

オ 何を言っても長時間無視し続ける

- ▶ 性別にみると、男性では「暴力の場合とそうでない場合があると思う」が42.9%と、女性に比べてやや高くなっており、女性では「暴力だと思う」が53.4%と、男性に比べてやや高くなっている
- ▶ 年齢別にみると、70歳以上では《暴力だと思う》が76.8%と、他の年齢に比べて低くなっている。「暴力だと思う」について、20～49歳では6割台後半、50～59歳では5割台、70歳以上では29.7%となっており、年齢が上がるにつれて、概ね低くなる傾向がある

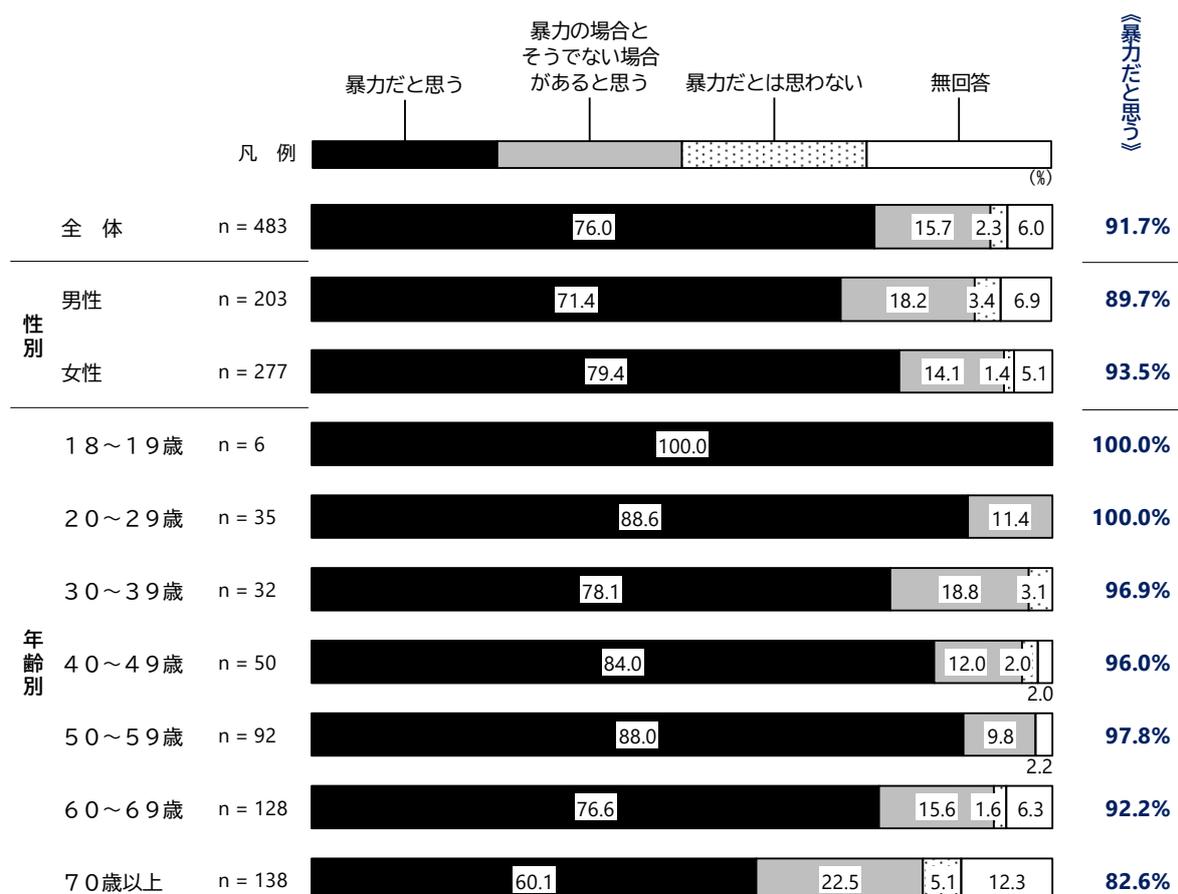


II 調査結果

【性別・年齢別／配偶者や交際相手の中で次のようなことが行われた場合、暴力だと思うか】

カ 「誰のおかげで生活できているんだ」とか「役立たず」等という

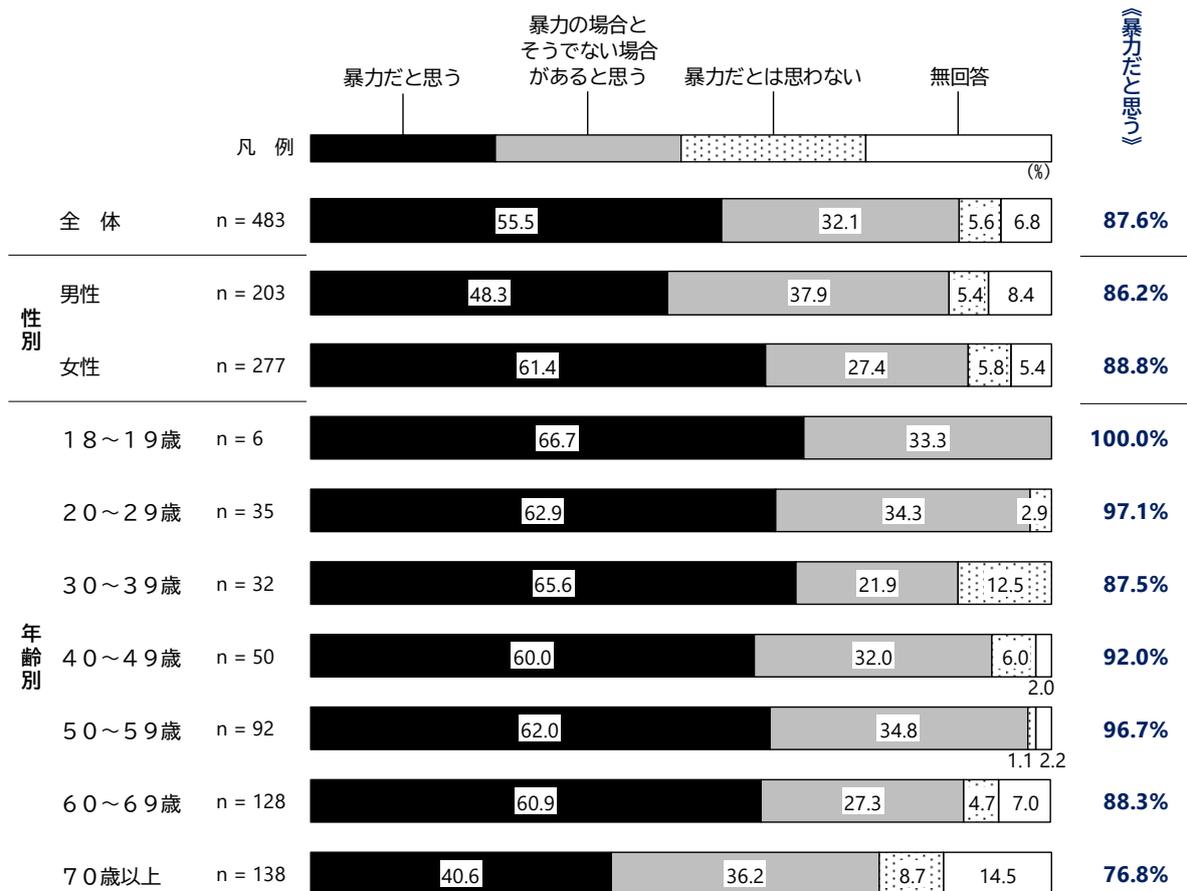
- ▶ 性別にみると、女性では「暴力だと思う」が79.4%と、男性に比べてやや高くなっている
- ▶ 年齢別にみると、「暴力だと思う」について、年齢が上がるにつれて、概ね低くなる傾向がある。特に70歳以上では「暴力だと思う」が60.1%と、他の年齢に比べて低くなっている



【性別・年齢別／配偶者や交際相手の間で次のようなことが行われた場合、暴力だと思うか】

キ 交友関係や電話・メール・SNS等を細かく監視する

- ▶ 性別にみると、女性では「暴力だと思う」が61.4%と、男性に比べて13.1ポイント高くなっており、男性では「暴力の場合とそうでない場合があると思う」が37.9%と、女性に比べて10.5ポイント高くなっている
- ▶ 年齢別にみると、70歳以上では《暴力だと思う》が76.8%と、他の年齢に比べて低くなっている

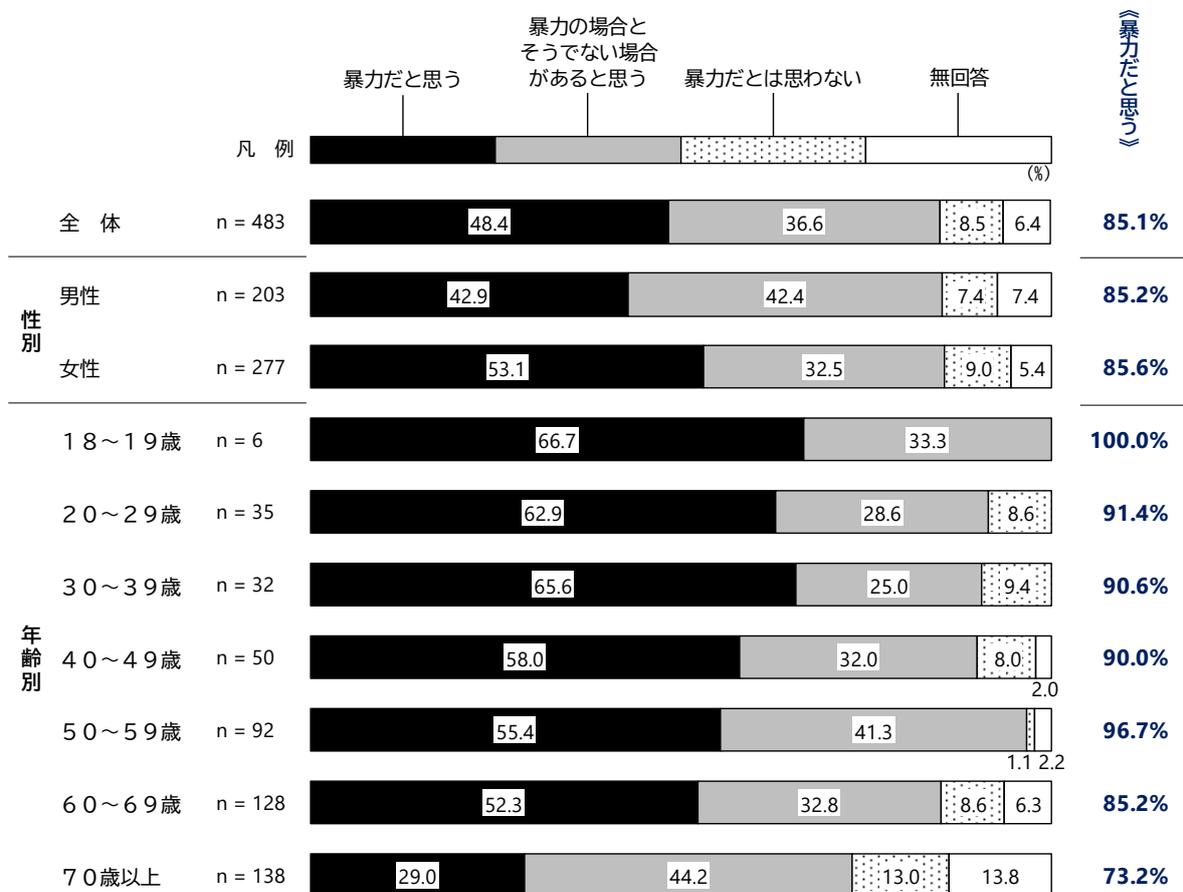


II 調査結果

【性別・年齢別／配偶者や交際相手の間で次のようなことが行われた場合、暴力だと思うか】

ク 友人・近所付き合いなどの交流を制限する

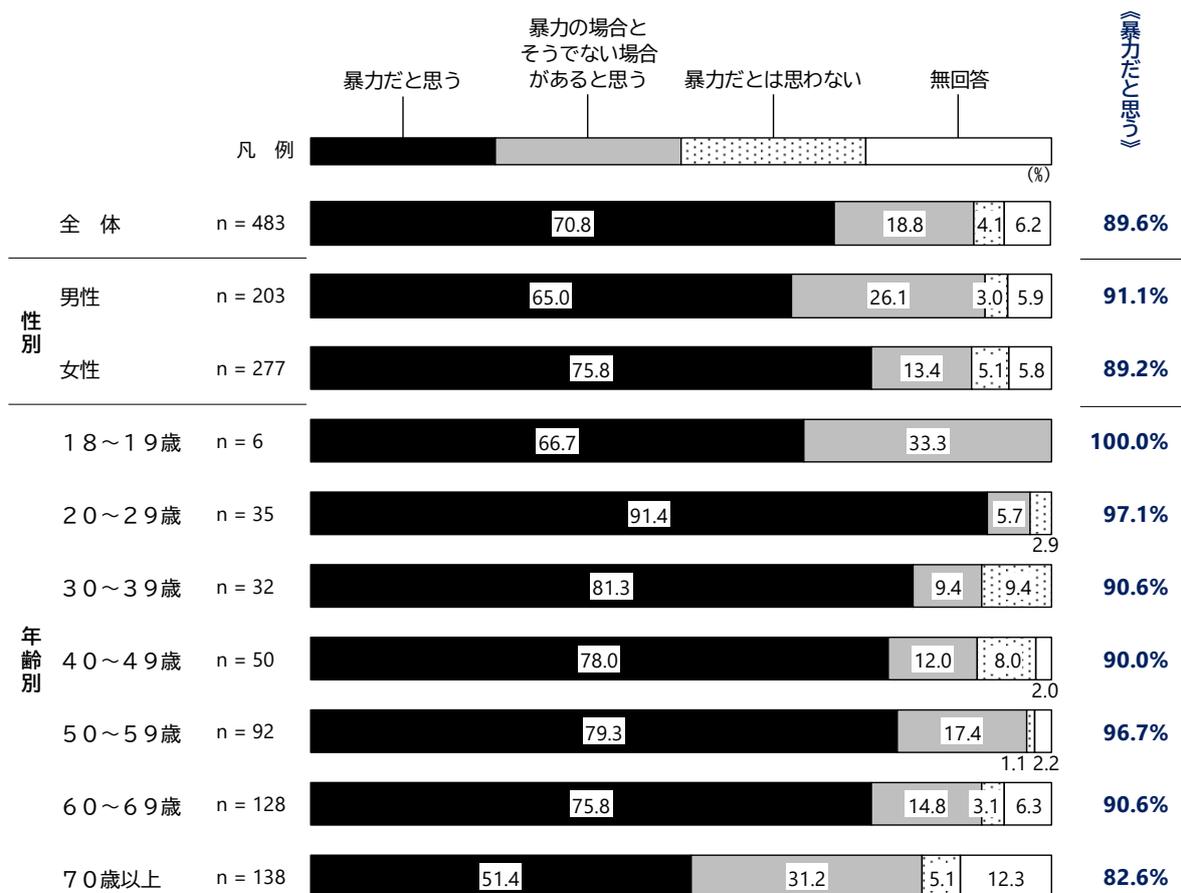
- ▶ 性別にみると、女性では「暴力だと思う」が53.1%と、男性に比べて10.2ポイント高くなっており、男性では「暴力の場合とそうでない場合があると思う」が42.4%と、女性に比べてやや高くなっている
- ▶ 年齢別にみると、60歳以上では《暴力だと思う》が9割を下回っており、他の年齢に比べて低くなっている。「暴力だと思う」について、年齢が上がるにつれて概ね低くなる傾向にあり、特に70歳以上では29.0%と低くなっている



【性別・年齢別／配偶者や交際相手の間で次のようなことが行われた場合、暴力だと思うか】

ケ 家計に必要な生活費を渡さない

- ▶ 性別にみると、男性では「暴力の場合とそうでない場合があると思う」が26.1%と、女性に比べて12.7ポイント高くなっており、女性では「暴力だと思う」が75.8%と、男性に比べて10.8ポイント高くなっている
- ▶ 年齢別にみると、「暴力だと思う」について、20～29歳では91.4%と最も高く、以降、年齢が上がるにつれて、概ね低くなる傾向がある。特に70歳以上では51.4%と、他の年齢に比べて低くなっている

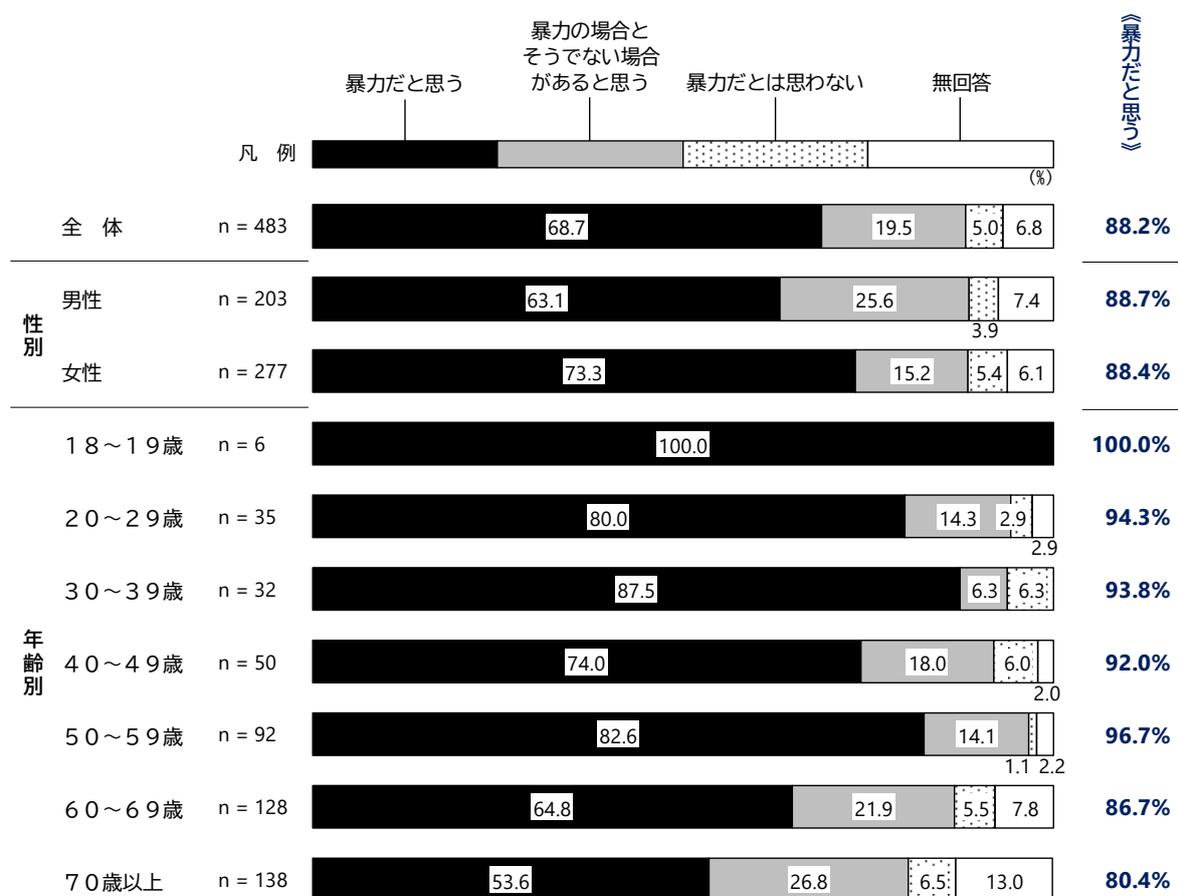


II 調査結果

【性別・年齢別／配偶者や交際相手の間で次のようなことが行われた場合、暴力だと思うか】

コ 見たくないのに性的な動画や性描写のある雑誌をみせつける

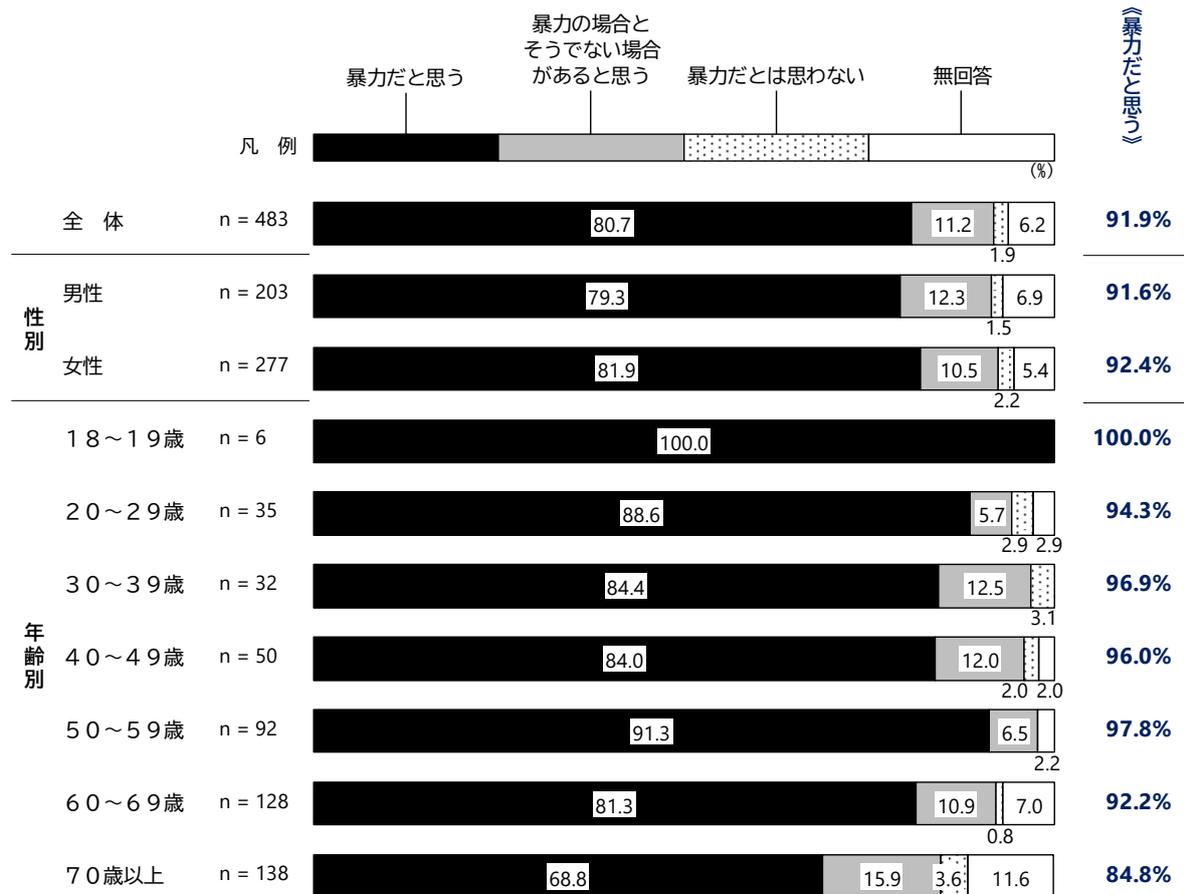
- ▶ 性別にみると、男性では「暴力の場合とそうでない場合があると思う」が25.6%と、女性に比べて10.4ポイント高くなっており、女性では「暴力だと思う」が73.3%と、男性に比べて10.2ポイント高くなっている
- ▶ 年齢別にみると、「暴力だと思う」について、年齢が上がるにつれて、概ね低くなる傾向がある。60歳以上では「暴力の場合とそうでない場合があると思う」が2割台と、他の年齢に比べて高くなっている



【性別・年齢別／配偶者や交際相手の中で次のようなことが行われた場合、暴力だと思うか】

サ 相手が嫌がっているのに性的な行為を強要する

- ▶ 性別にみると、男女で概ね同様の傾向である
- ▶ 年齢別にみると、70歳以上では「暴力だと思う」が68.8%と、他の年齢に比べて低くなっている

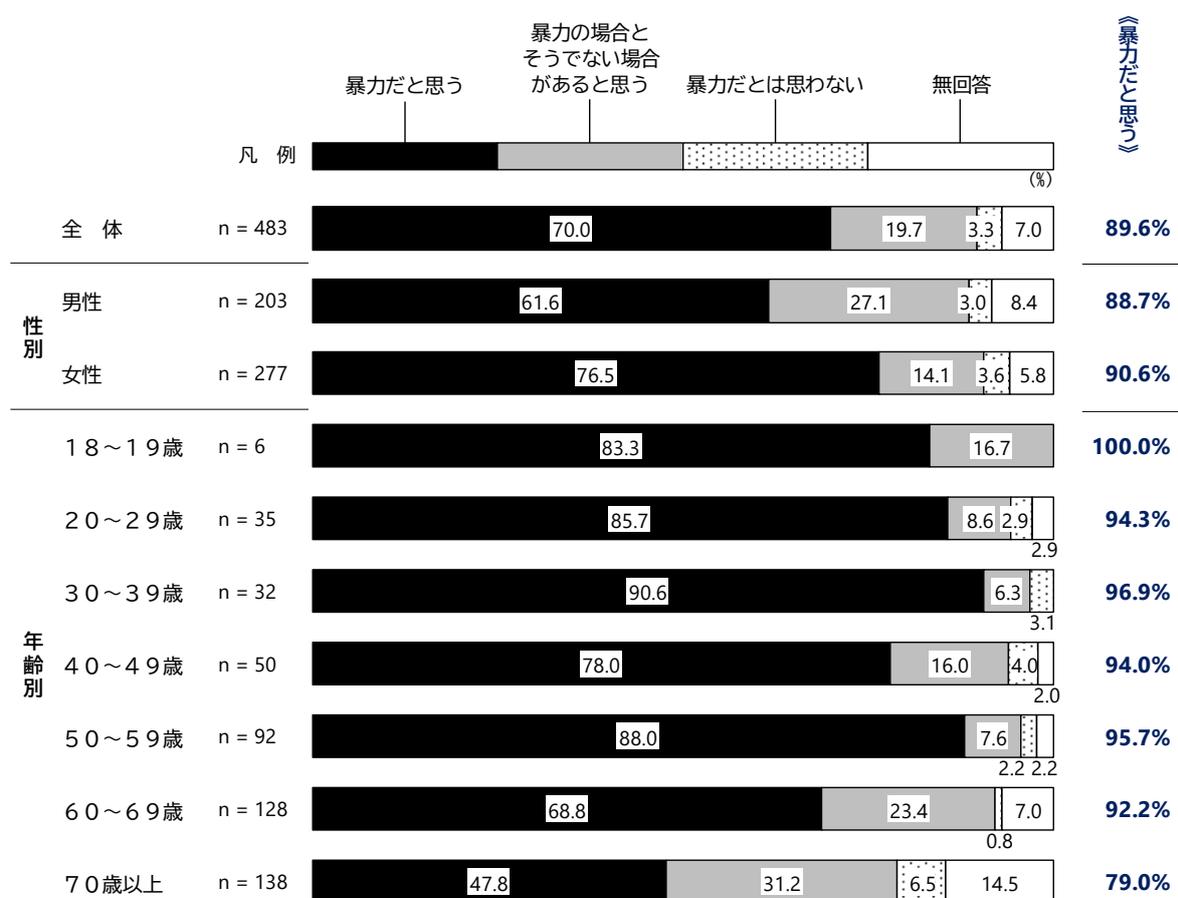


II 調査結果

【性別・年齢別／配偶者や交際相手の間で次のようなことが行われた場合、暴力だと思うか】

シ 避妊に協力しない

- ▶ 性別にみると、女性では「暴力だと思う」が76.5%と、男性に比べて14.9ポイント高くなっており、男性では「暴力の場合とそうでない場合があると思う」が27.1%と、女性に比べて13.0ポイント高くなっている
- ▶ 年齢別にみると、70歳以上では《暴力だと思う》が79.0%と、他の年齢に比べて低くなっている。60歳以上では「暴力の場合とそうでない場合があると思う」が2割台～約3割と高くなっている

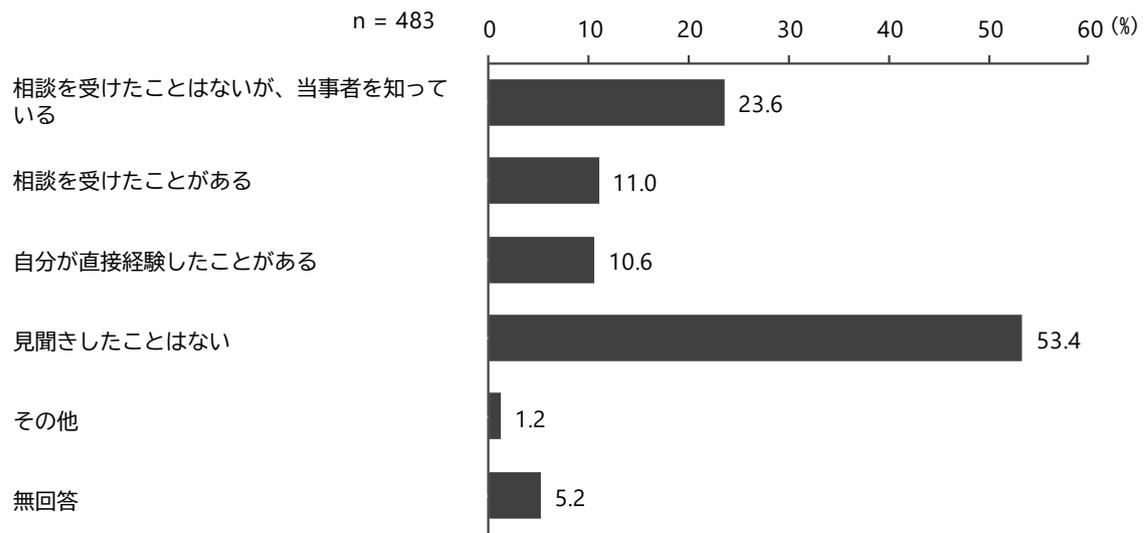


5-3 これまで身の回りでDVを経験したり、見聞きしたことがあるか

- ▶ 「相談を受けたことはないが、当事者を知っている」が23.6%と最も高く、次いで「相談を受けたことがある」(11.0%)、「自分が直接経験したことがある」(10.6%)となっている。なお、「見聞きしたことはない」は53.4%となっており、4割以上の回答者がDVを経験したり見聞きしたことがあると回答している

問22 あなたはこれまで身のまわりでDVを経験したり、見聞きしたことがありますか。

(あてはまるものすべてに○印)



II 調査結果

【性別・年齢別／これまで身の回りでDVを経験したり、見聞きしたことがあるか】

- ▶ 性別にみると、男性では「見聞きしたことはない」が61.1%と、女性に比べて13.4ポイント高くなっており、女性では「自分が直接経験したことがある」、「相談を受けたことがある」がともに14.4%と、男性に比べてやや高くなっている
- ▶ 年齢別にみると、30～39歳では「見聞きしたことはない」が43.8%と、他の年齢に比べて低く、5割以上の方がDVを経験したり見聞きしたことがあると回答している

(%)

		n	て相談を受けたことはないが、当事者を知っている	相談を受けたことがある	自分が直接経験したことがある	見聞きしたことはない	その他	無回答
全 体		483	23.6	11.0	10.6	53.4	1.2	5.2
性別	男性	203	21.2	6.4	5.4	61.1	1.5	6.9
	女性	277	25.6	14.4	14.4	47.7	1.1	3.6
年齢別	18～19歳	6	16.7	-	16.7	66.7	-	-
	20～29歳	35	22.9	14.3	14.3	51.4	2.9	-
	30～39歳	32	25.0	18.8	15.6	43.8	-	-
	40～49歳	50	30.0	8.0	14.0	52.0	-	2.0
	50～59歳	92	27.2	15.2	9.8	50.0	2.2	1.1
	60～69歳	128	21.1	10.9	10.9	57.0	1.6	4.7
	70歳以上	138	21.7	7.2	7.2	55.1	0.7	11.6

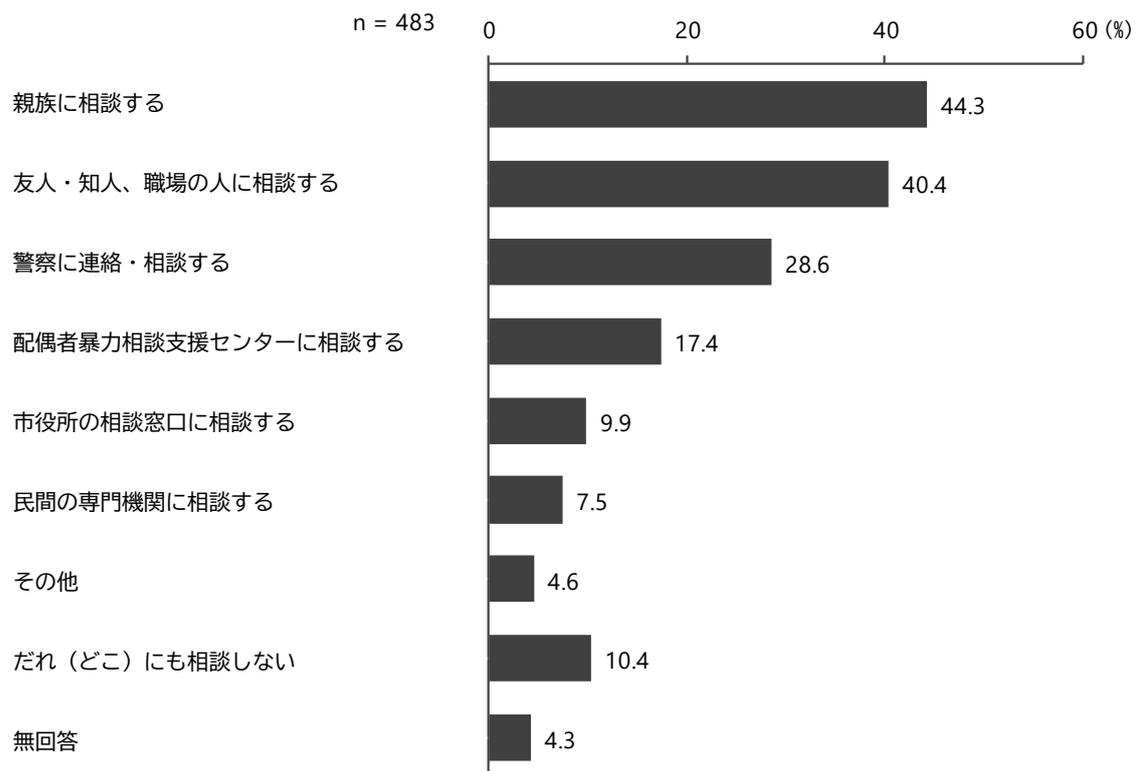
【その他（抜粋）】

- 仕事上（女性20代）
- 感じる側の思いだと思います。嫌だと感じればDV。誰しも感じたこと有ると思います。（男性50代）

5-4 配偶者や交際相手から暴力を受けた場合、誰かに打ち明けたり、相談したりするか

- ▶ 「親族に相談する」が44.3%と最も高く、次いで、「友人・知人、職場の人に相談する」(40.4%)、「警察に連絡・相談する」(28.6%)となっている。一方、「だれ(どこ)にも相談しない」との回答も10.4%と1割以上みられる

問23 あなたは配偶者や交際相手から暴力を受けた場合、誰かに打ち明けたり、相談したりしますか。(あてはまるものすべてに○印)



II 調査結果

【性別・年齢別／配偶者や交際相手から暴力を受けた場合、誰かに打ち明けたり、相談したりしたか】

- ▶ 性別にみると、女性では「親族に相談する」が51.3%と、男性に比べて15.8ポイント高くなっている
- ▶ 年齢別にみると、20～29歳では「親族に相談する」が62.9%と、他の年齢に比べて高くなっている。30～39歳では「友人・知人、職場の人に相談する」が68.8%と高くなっている

		n	親族に相談する	友人・知人、職場の人に相談する	警察に連絡・相談する	配偶者暴力相談支援センターに相談する	市役所の相談窓口相談する	民間の専門機関に相談する	その他	だれ（どこ）にも相談しない	無回答
全体		483	44.3	40.4	28.6	17.4	9.9	7.5	4.6	10.4	4.3
性別	男性	203	35.5	38.9	29.6	17.7	7.9	6.4	5.4	13.3	5.4
	女性	277	51.3	41.5	28.2	17.0	11.2	8.3	4.0	7.9	3.6
年齢別	18～19歳	6	16.7	83.3	33.3	16.7	-	16.7	-	-	-
	20～29歳	35	62.9	45.7	25.7	14.3	-	-	2.9	8.6	-
	30～39歳	32	43.8	68.8	31.3	21.9	6.3	15.6	3.1	9.4	-
	40～49歳	50	38.0	38.0	30.0	22.0	8.0	4.0	6.0	14.0	4.0
	50～59歳	92	47.8	44.6	33.7	19.6	9.8	8.7	9.8	6.5	1.1
	60～69歳	128	43.8	38.3	26.6	14.1	14.1	9.4	3.9	11.7	3.9
	70歳以上	138	42.0	31.2	26.8	16.7	10.1	5.8	2.2	10.9	9.4

【その他（抜粋）】

「家族に話す（大人）」（2件）

- 大人になった子供に話す。(女性 40 代)
- 姉妹に相談するかもしれないし、しないかもしれない。(女性 40 代)

「時と場合による」(2件)

- どの程度かによって変わる、と思う。(男性 50 代)
- 時と場合による。(女性 50 代)

「やり返す」(1件)

- やり返す。(男性 30 代)

「その他」(5件)

- そんなことはあるはずがない。(男性 60 代)
- 経験が無い。(男性 70 代以上)

「わからない」(6件)

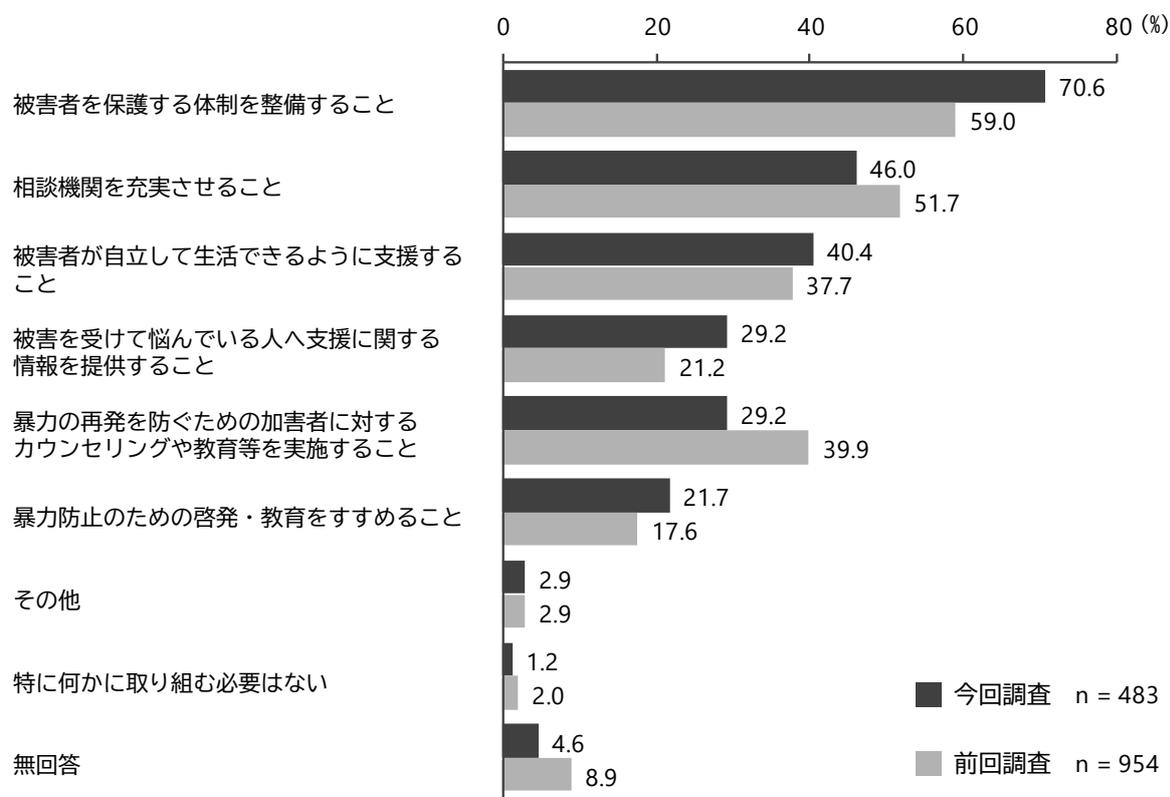
- 暴力を受けた場合の問は、推測出来ません。(男性 70 代以上)
- わからない。(男性 50 代)

II 調査結果

5-5 配偶者や交際相手からの暴力に対する取組として必要なこと

- ▶ 「被害者を保護する体制を整備すること」が70.6%と最も高く、次いで、「相談機関を充実させること」(46.0%)、「被害者が自立して生活できるように支援すること」(40.4%)となっている
- ▶ 前回調査と比較すると、「被害者を保護する体制を整備すること」が11.6ポイント上昇し、「被害を受けて悩んでいる人へ支援に関する情報を提供すること」がやや上昇している。また、前回調査から聴取時の内容に変更があり、直接的な比較ができないことに留意が必要だが、「暴力の再発を防ぐための加害者に対するカウンセリングや教育等を実施すること」が10.7ポイント下降している

問24 あなたは配偶者や交際相手からの暴力に対する取組として、どのようなことが必要だと思いますか。(○印は3つまで)



※「被害を受けて悩んでいる人へ支援に関する情報を提供すること」は、前回調査の「被害を受けて悩んでいる人へ情報を提供すること」と比較した

※「暴力の再発を防ぐための加害者に対するカウンセリングや教育等を実施すること」は、前回調査の「暴力を振るう加害者への対策をすすめること」と比較した

【性別・年齢別／配偶者や交際相手からの暴力に対する取組として必要なこと】

- ▶ 性別にみると、女性では「被害者が自立して生活できるように支援すること」が45.8%と、男性に比べて12.8ポイント高くなっており、男性では「相談機関を充実させること」が51.2%と、女性に比べてやや高くなっている
- ▶ 年齢別にみると、30～39歳では「被害者を保護する体制を整備すること」が84.4%と、他の年齢に比べて高くなっている。20～29歳では「相談機関を充実させること」が28.6%と低くなっている

		n	被害者を保護する体制を整備すること	相談機関を充実させること	被害者が自立して生活できるように支援すること	被害者を受けて悩んでいる人へ支援に関する情報を提供すること	暴力の再発を防ぐための加害者に対するカウンセリングや教育等を実施すること	暴力防止のための啓発・教育をすすめること	その他	特に何かに取り組み必要はない	無回答
全 体		483	70.6	46.0	40.4	29.2	29.2	21.7	2.9	1.2	4.6
性別	男性	203	70.4	51.2	33.0	27.1	26.6	20.7	3.4	1.5	4.9
	女性	277	70.8	41.9	45.8	31.0	31.4	22.7	2.2	1.1	4.3
年齢別	18～19歳	6	83.3	50.0	33.3	16.7	50.0	33.3	16.7	-	-
	20～29歳	35	62.9	28.6	42.9	28.6	28.6	25.7	2.9	5.7	-
	30～39歳	32	84.4	40.6	31.3	21.9	31.3	31.3	9.4	-	-
	40～49歳	50	74.0	48.0	34.0	22.0	34.0	26.0	4.0	-	2.0
	50～59歳	92	73.9	56.5	42.4	26.1	30.4	18.5	5.4	-	1.1
	60～69歳	128	74.2	44.5	43.8	39.8	27.3	18.0	1.6	-	4.7
	70歳以上	138	62.3	44.2	39.9	26.8	27.5	22.5	-	2.9	10.1

II 調査結果

【その他（抜粋）】

「警察が介入する等、法権力の強化」（5件）

- 加害者に対する処罰の厳罰化。（男性 30 代）
- 加害者と簡単に縁が切れる法律を作る。（女性 40 代）

「加害者をつくり出さないよう、考え方・家庭環境等の改善」（2件）

- 暴力の定義を婚姻届けの時わたす。（女性 40 代）
- 幼少期の教育も必要だと思います。（女性 60 代）

「相談機会や相談環境の改善」（2件）

- そういうセンターの存在自体知らない人の方が多い。（女性 50 代）
- 相談出来る風土、仕組みを先ず先に作る。（男性 50 代）

「被害者にならないようにするための取組」（1件）

- 暴力に負けない力を女性もつける。（男性 30 代）

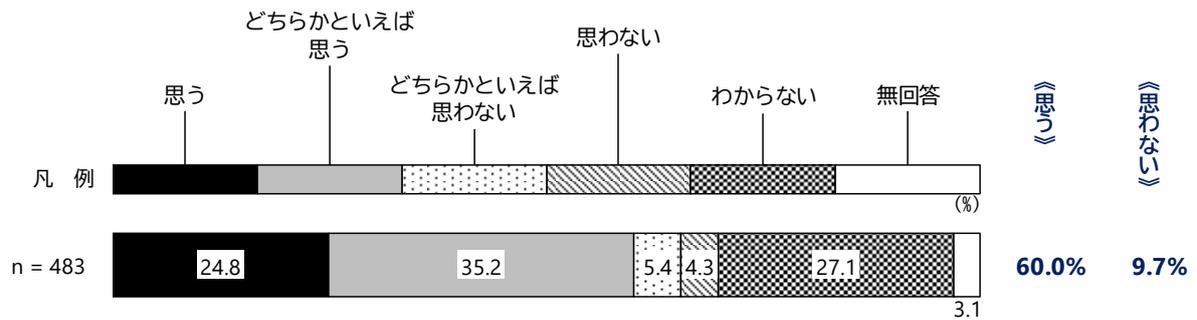
「その他」（4件）

- 経済格差を無くす。（男性 30 代）
- 被害者にDVである事を気づかせる事。（女性 50 代）

5-6 性的マイノリティの方にとって生活しづらい社会だと思うか

- ▶ 「思う」と「どちらかといえば思う」を合算した《思う》が60.0%を占め、「思わない」と「どちらかといえば思わない」を合算した《思わない》は9.7%と1割を下回っている

問25 現在、性的マイノリティ（同性に恋愛感情をもつ人、自分の性に違和がある人）の方にとって偏見や差別により生活しづらい社会だと思いますか。（○印は1つ）

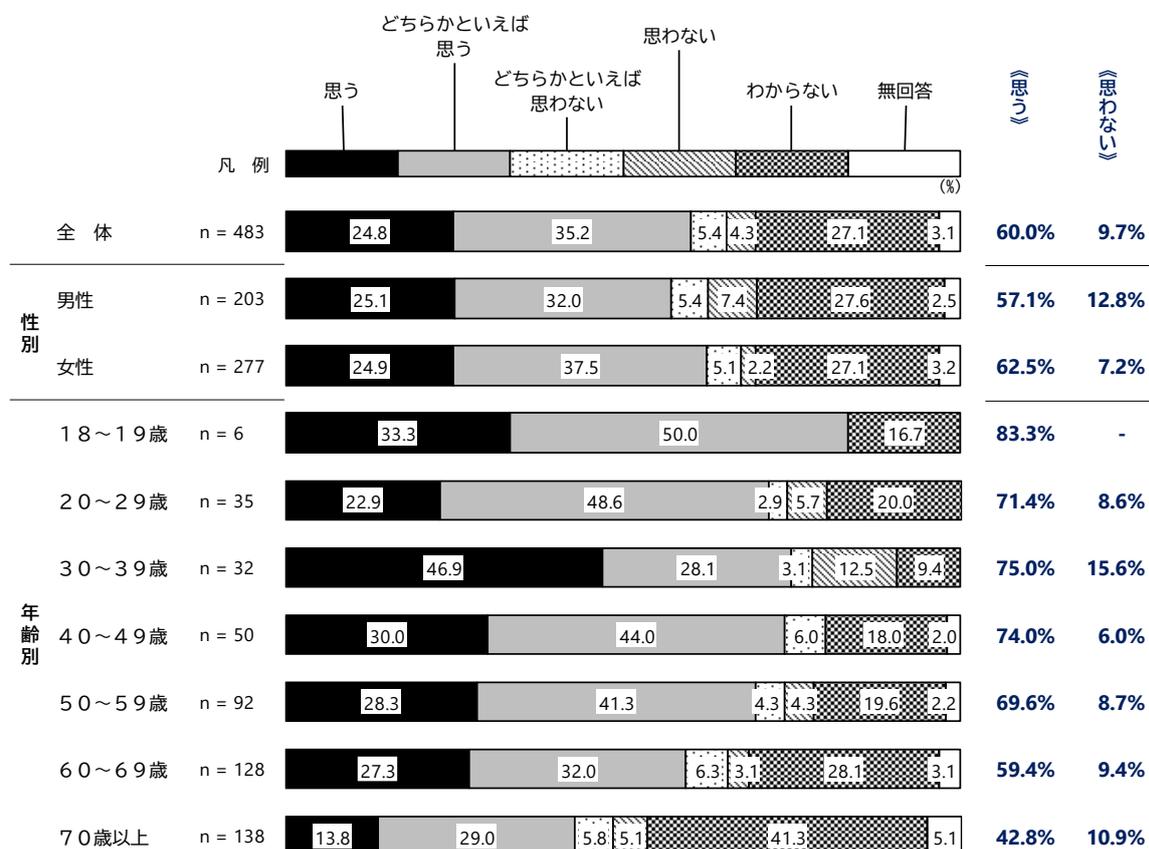


※グラフ右の割合は、以下のとおり二つの選択肢の回答割合を合算したものの
 《思う》 = 「思う」 + 「どちらかといえば思う」
 《思わない》 = 「思わない」 + 「どちらかといえば思わない」

II 調査結果

【性別・年齢別／性的マイノリティの方にとって生活しやすい社会だと思うか】

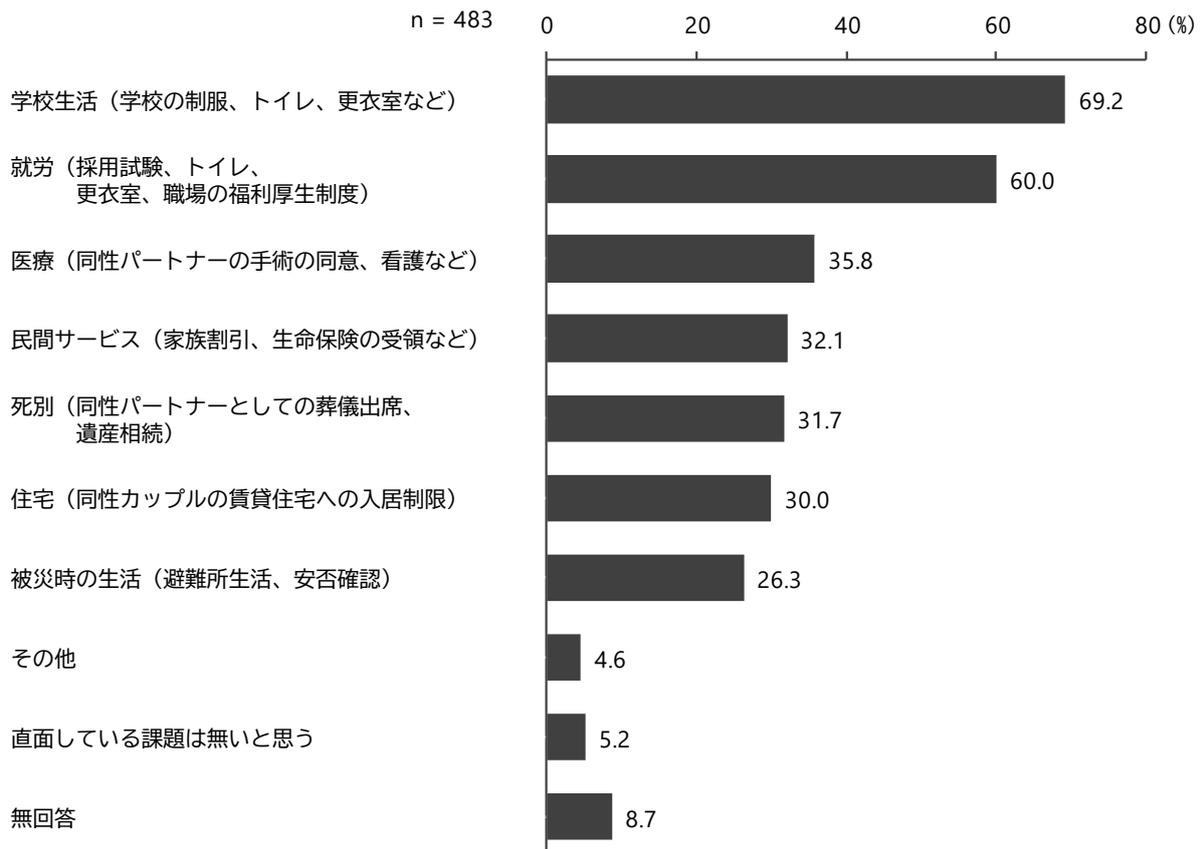
- ▶ 性別にみると、男女で概ね同様の傾向である
- ▶ 年齢別にみると、60歳以上では《思う》が約4割～約6割と、他の年齢に比べて低くなっている。一方、「わからない」が約3割～約4割と高くなっている



5-7 性的マイノリティの方が日常生活を営む上で、どのような課題に直面していると思うか

- ▶ 「学校生活（学校の制服、トイレ、更衣室など）」が69.2%と最も高く、次いで、「就労（採用試験、トイレ、更衣室、職場の福利厚生制度）」（60.0%）、「医療（同性パートナーの手術の同意、看護など）」（35.8%）となっている

問26 あなたは性的マイノリティの方が日常生活を営む上で、どのような課題に直面していると思いますか。（あてはまるものすべてに○印）



II 調査結果

【性別・年齢別／性的マイノリティの方が日常生活を営む上で、どのような課題に直面していると思うか】

- ▶ 性別にみると、女性では「学校生活（学校の制服、トイレ、更衣室など）」（74.0%）、「就労（採用試験、トイレ、更衣室、職場の福利厚生制度）」（65.3%）、「医療（同性パートナーの手術の同意、看護など）」（41.2%）が男性に比べて10ポイント以上高くなっている
- ▶ 年齢別にみると、いずれの項目でも概ね20～29歳がやや低い一方で、30～59歳がやや高く、以降、年齢が上がるにつれて、低くなる傾向がある

		n	学校生活 （学校の制服、 トイレ、更衣室など）	就労 （採用試験、 トイレ、更衣室、 職場の福利厚生制度）	医療 （同性パートナーの手術の同意、 看護など）	民間サービス （家族割引、 生命保険の受領など）	死別 （同性パートナーとしての葬儀出席、 遺産相続）	住宅 （同性カップルの賃貸住宅への入居制限）	被災時の生活（避難所生活、 安否確認）	その他	直面している課題は無いと思う	無回答
全体		483	69.2	60.0	35.8	32.1	31.7	30.0	26.3	4.6	5.2	8.7
性別	男性	203	62.6	53.2	29.1	29.1	26.6	27.6	23.6	5.9	5.4	10.8
	女性	277	74.0	65.3	41.2	34.7	35.7	32.1	28.5	3.6	5.1	6.9
年齢別	18～19歳	6	83.3	66.7	16.7	33.3	16.7	33.3	33.3	-	-	-
	20～29歳	35	68.6	45.7	31.4	22.9	28.6	37.1	17.1	8.6	5.7	-
	30～39歳	32	93.8	65.6	43.8	46.9	37.5	31.3	34.4	6.3	3.1	-
	40～49歳	50	70.0	58.0	42.0	48.0	44.0	26.0	30.0	2.0	2.0	8.0
	50～59歳	92	83.7	73.9	47.8	38.0	38.0	30.4	28.3	4.3	1.1	4.3
	60～69歳	128	74.2	65.6	37.5	31.3	32.8	33.6	25.8	3.9	4.7	5.5
	70歳以上	138	48.6	48.6	24.6	22.5	22.5	26.1	24.6	5.1	10.1	18.8

【その他（抜粋）】

「全て」（2件）

- 全部だと思う。本当にLGBTの人？みたいな人がお風呂とかトイレに入って問題になってる話とかもよくきくので、そういうところも課題だと思う。（女性 20代）
- 全て、寄り添う意識が必要。（男性 50代）

「理解が進まないこと」（1件）

- マジョリティの理解が進まないこと。（男性 60代）

「その他」（2件）

- 社会生活。（男性 30代）
- 昔と違い理解されているから、住みやすいと思う。あとは、当人達の生活の仕方でしょう。（女性 70代以上）

「わからない」（15件）

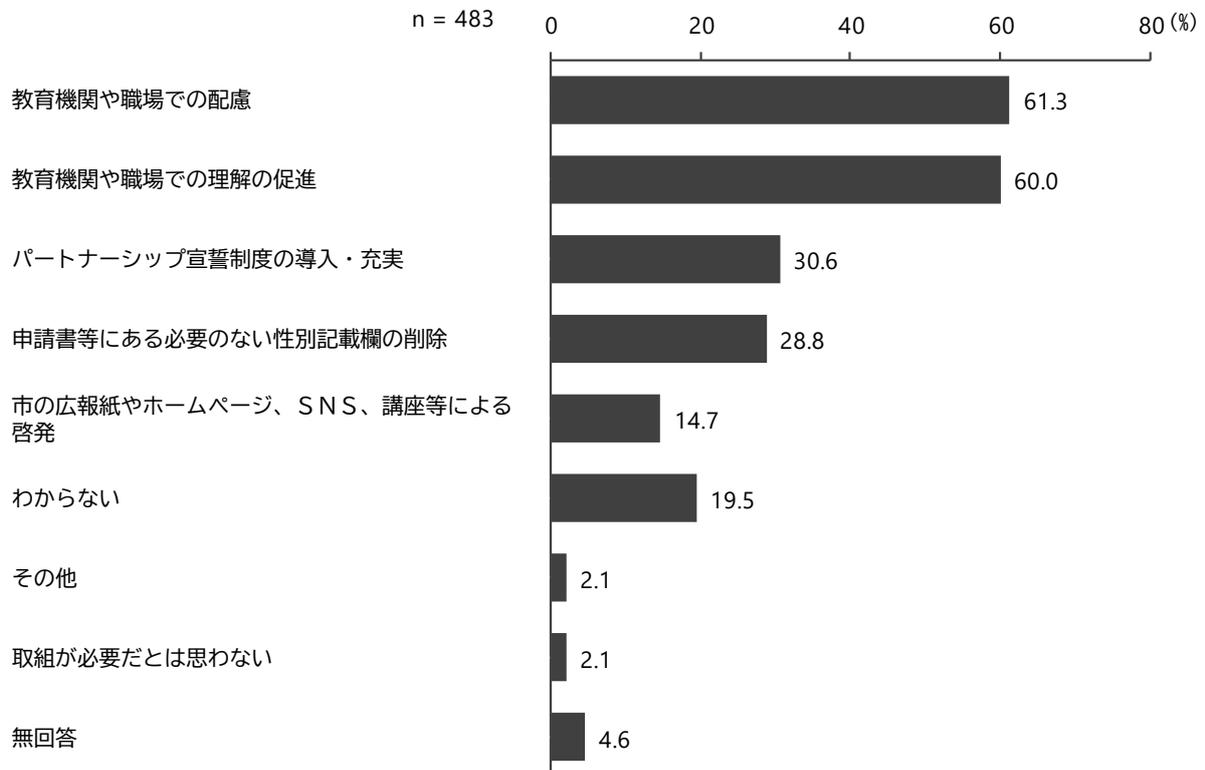
- 性的マイノリティ生活の課題は、わかりません。（男性 60代）
- 近辺にそのような方がいないので良くわからない。（女性 70代以上）

II 調査結果

5-8 性的マイノリティの方が安心・安全な生活を送るための必要な取組

- ▶ 「教育機関や職場での配慮」が61.3%と最も高く、次いで、「教育機関や職場での理解の促進」(60.0%)、「パートナーシップ宣誓制度の導入・充実」(30.6%)となっている

問 27 性的マイノリティの方が安心・安全な生活を送るためには、どのような取組が必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○印)



【性別・年齢別／性的マイノリティの方が安心・安全な生活を送るための必要な取組】

- ▶ 性別にみると、女性では「教育機関や職場での配慮」が64.3%、「教育機関や職場での理解の促進」が63.2%と、男性に比べてやや高くなっている
- ▶ 年齢別にみると、「教育機関や職場での配慮」および「教育機関や職場での理解の促進」について、20～29歳、70歳以上では4割台半ば～約5割と、他の年齢に比べて低くなっている。「パートナーシップ宣誓制度の導入・充実」について、30～39歳では40.6%と最も高く、以降、年齢が上がるにつれて、低くなっている

		n	教育機関や職場での配慮	教育機関や職場での理解の促進	パートナーシップ宣誓制度の導入・充実	申請書等にある必要のない性別記載欄の削除	市の広報紙やホームページ、SNS、講座等による啓発	わからない	その他	取組が必要だとは思わない	無回答
全体		483	61.3	60.0	30.6	28.8	14.7	19.5	2.1	2.1	4.6
性別	男性	203	57.1	56.2	28.1	28.6	15.8	19.2	3.0	2.5	4.4
	女性	277	64.3	63.2	32.9	28.9	14.1	19.5	1.4	1.8	4.7
年齢別	18～19歳	6	83.3	83.3	50.0	16.7	16.7	-	-	-	-
	20～29歳	35	51.4	48.6	37.1	25.7	11.4	17.1	5.7	2.9	-
	30～39歳	32	71.9	68.8	40.6	31.3	18.8	15.6	3.1	3.1	-
	40～49歳	50	60.0	64.0	36.0	36.0	16.0	16.0	-	-	2.0
	50～59歳	92	75.0	75.0	33.7	28.3	12.0	7.6	6.5	3.3	3.3
	60～69歳	128	69.5	61.7	30.5	32.0	15.6	18.8	0.8	0.8	3.1
	70歳以上	138	44.2	47.1	22.5	23.9	15.2	31.2	-	2.9	10.1

【その他（抜粋）】

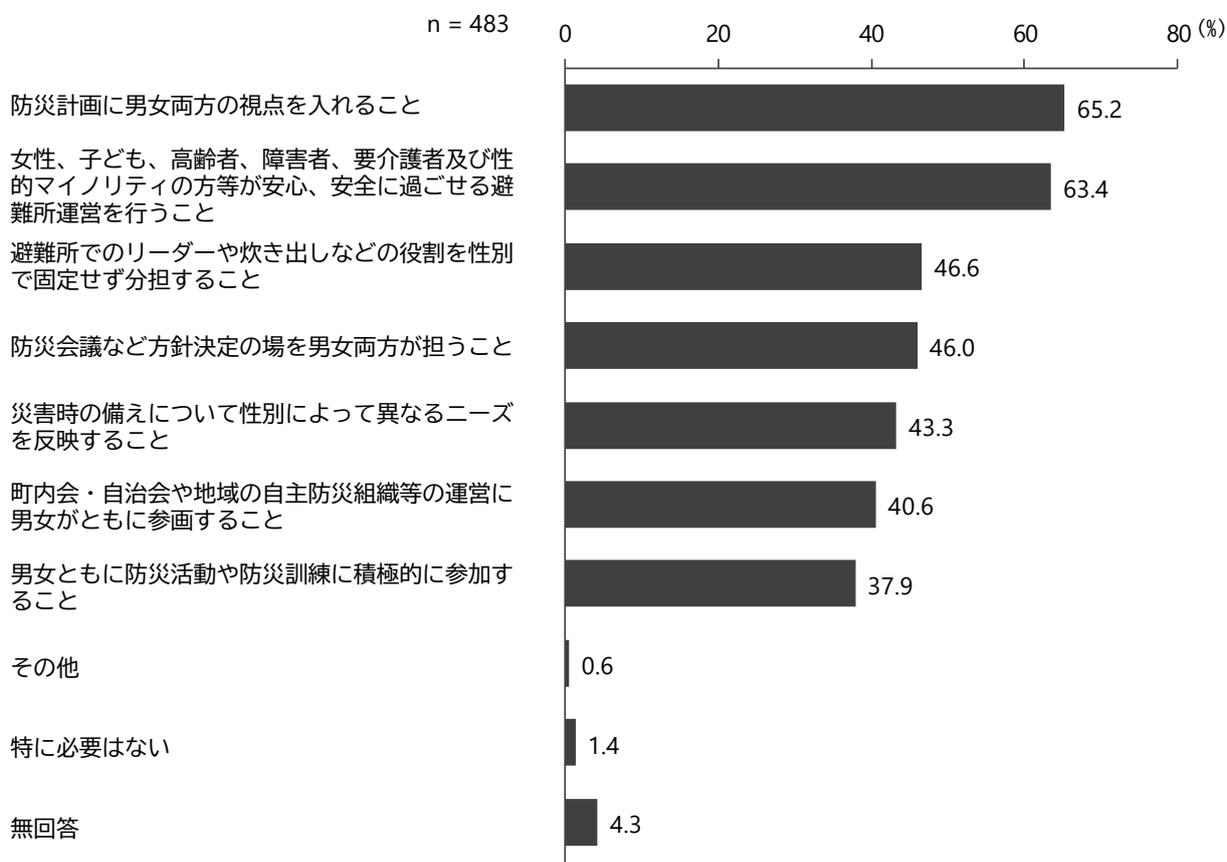
- あえて性的マイノリティだから配慮というのではなく、全ての人に配慮をする方が良いと思う。(女性 20代)
- 「多目的」というみんなが使える設備の充実。(女性 20代)
- 全て、認めてあげる雰囲気。(男性 50代)
- 法改正 同性婚。(女性 50代)
- 自分が性的マイノリティではなく、そういう人と話をした事もないので回答できない。(男性 50代)
- 長い歴史。(男性 50代)

6 地域防災について

6-1 防災分野で男女共同参画の視点を活かすための必要な取組

- ▶ 「防災計画に男女両方の視点を入れること」が65.2%と最も高く、次いで、「女性、子ども、高齢者、障害者、要介護者及び性的マイノリティの方等が安心、安全に過ごせる避難所運営を行うこと」(63.4%)、「避難所でのリーダーや炊き出しなどの役割を性別で固定せず分担すること」(46.6%)となっている

問 28 防災活動や災害発生時の対応にも男女共同参画の視点が必要だといわれています。今後、防災分野で男女共同参画の視点を活かすためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○印)



【性別・年齢別／防災分野で男女共同参画の視点を活かすための必要な取組】

- ▶ 性別にみると、女性では「女性、子ども、高齢者、障害者、要介護者及び性的マイノリティの方等が安心、安全に過ごせる避難所運営を行うこと」が69.3%と、男性に比べて14.1ポイント高くなっており、男性では「男女ともに防災活動や防災訓練に積極的に参加すること」が44.3%と、女性に比べて11.1ポイント高くなっている
- ▶ 年齢別にみると、「防災計画に男女両方の視点を入れること」について、30～59歳では7割台～8割台と、他の年齢に比べて高くなっている。「町内会・自治会や地域の自主防災組織等の運営に男女がともに参画すること」について、20～29歳では20.0%と最も低く、以降、年齢が上がるにつれて、高くなっている

		n	防災計画に男女両方の視点を入れること	女性、子ども、高齢者、障害者、要介護者及び性的マイノリティの方等が安心、安全に過ごせる避難所運営を行うこと	避難所でのリーダーや炊き出しなどの役割を性別で固定せず分担すること	防災会議など方針決定の場を男女両方が担うこと	災害時の備えについて性別によって異なるニーズを反映すること	町内会・自治会や地域の自主防災組織等の運営に男女がともに参画すること	男女ともに防災活動や防災訓練に積極的に参加すること	その他	特に必要はない	無回答
全体		483	65.2	63.4	46.6	46.0	43.3	40.6	37.9	0.6	1.4	4.3
性別	男性	203	70.0	55.2	46.8	50.7	46.3	43.8	44.3	-	1.0	3.0
	女性	277	61.7	69.3	46.6	42.6	40.8	38.6	33.2	1.1	1.8	5.4
年齢別	18～19歳	6	100.0	66.7	50.0	33.3	66.7	33.3	50.0	-	-	-
	20～29歳	35	51.4	54.3	28.6	45.7	51.4	20.0	45.7	2.9	5.7	-
	30～39歳	32	71.9	75.0	59.4	43.8	53.1	25.0	34.4	-	3.1	-
	40～49歳	50	74.0	62.0	26.0	44.0	48.0	30.0	30.0	-	-	2.0
	50～59歳	92	80.4	66.3	48.9	55.4	53.3	39.1	30.4	1.1	-	4.3
	60～69歳	128	60.2	62.5	47.7	42.2	36.7	40.6	38.3	0.8	2.3	4.7
	70歳以上	138	57.2	61.6	52.9	44.9	35.5	55.1	43.5	-	0.7	7.2

【その他（抜粋）】

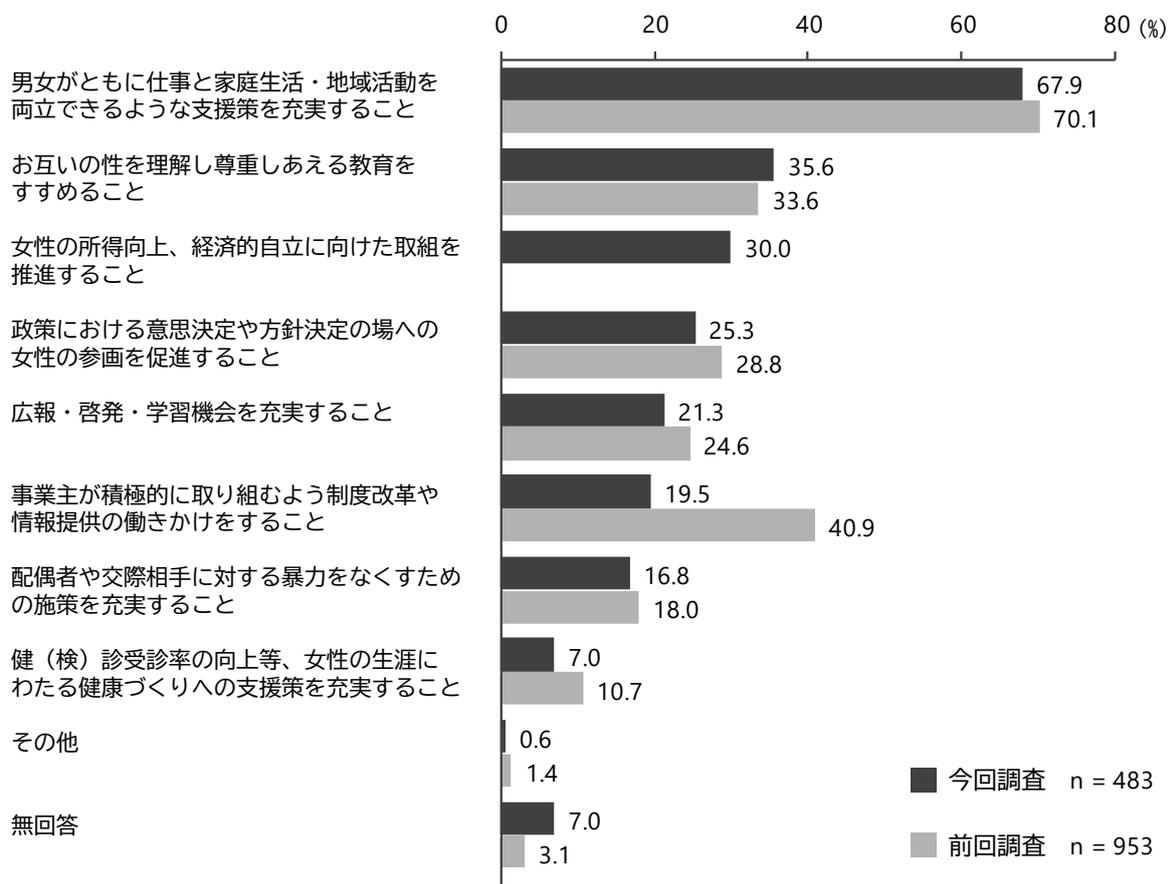
- わからない。(女性 20代)
- 飼い犬、飼い猫 etc の避難所も必要。(女性 50代)
- 考えた事がない。(女性 60代)

7 男女共同参画に関する施策について

7-1 男女共同参画社会を実現していくために、国や自治体が特に力を入れて取り組むべきこと

- ▶ 「男女がともに仕事と家庭生活・地域活動を両立できるような支援策を充実すること」が67.9%と最も高く、次いで、「お互いの性を理解し尊重しあえる教育をすすめること」(35.6%)、「女性の所得向上、経済的自立に向けた取組を推進すること」(30.0%)となっている
- ▶ 前回調査と比較すると、前回調査から聴取時の内容に変更があり、直接的な比較ができないことに留意が必要だが、「事業主が積極的に取り組むよう制度改革や情報提供の働きかけをすること」が21.4ポイント下降している

問 29 あなたは男女共同参画社会を実現していくために、国や自治体が特に力を入れて取り組むべきことはどのようなことだと思いますか。(○印は3つまで)



※ 前回調査では、「女性の所得向上、経済的自立に向けた取組を推進すること」は未聴取

※ 「事業主が積極的に取り組むよう制度改革や情報提供の働きかけをすること」は、前回調査の「企業が積極的に取り組むよう制度改革や情報提供の働きかけをすること」と比較した

【性別・年齢別／男女共同参画社会を実現していくために、国や自治体が特に力を入れて取り組むべきこと】

- ▶ 性別にみると、男女で概ね同様の傾向である
- ▶ 年齢別にみると、「お互いの性を理解し尊重しあえる教育をすすめること」について、20～29歳では48.6%と高く、以降、年齢が上がるにつれて、低くなっている。「女性の所得向上、経済的自立に向けた取組を推進すること」について、40～59歳では約4割と、他の年齢に比べて高くなっている

		n	両立できるような仕事と家庭生活・地域活動を充実すること	お互いの性を理解し尊重しあえる教育をすすめること	女性の所得向上、経済的自立に向けた取組を推進すること	政策における意思決定や方針決定の場への女性の参画を促進すること	広報・啓発・学習機会を充実すること	事業主が積極的に取り組むよう制度改革や情報提供の働きかけをすること	配偶者や交際相手に対する暴力をなくすための施策を充実すること	健康（検）診受診率の向上等、女性の生涯にわたる健康づくりへの支援策を充実すること	その他	無回答
全体		483	67.9	35.6	30.0	25.3	21.3	19.5	16.8	7.0	0.6	7.0
性別	男性	203	68.0	33.5	28.6	29.1	22.7	22.7	15.8	5.9	-	7.9
	女性	277	68.2	37.5	31.4	22.7	20.6	17.3	17.7	7.9	1.1	5.8
年齢別	18～19歳	6	100.0	66.7	16.7	-	-	33.3	50.0	-	-	-
	20～29歳	35	68.6	48.6	22.9	17.1	17.1	17.1	28.6	8.6	2.9	-
	30～39歳	32	84.4	40.6	21.9	15.6	18.8	18.8	9.4	3.1	-	3.1
	40～49歳	50	64.0	38.0	40.0	22.0	24.0	6.0	22.0	8.0	-	2.0
	50～59歳	92	60.9	37.0	41.3	28.3	20.7	17.4	19.6	6.5	-	6.5
	60～69歳	128	74.2	34.4	28.1	30.5	20.3	24.2	13.3	4.7	1.6	4.7
	70歳以上	138	63.8	29.7	25.4	25.4	24.6	21.7	13.8	10.1	-	13.0

【その他（抜粋）】

- わからない。（女性 60代）

7-2 宮古市が男女共同参画社会をすすめるうえでの意見・要望

問 30 宮古市が男女共同参画に関する施策をすすめるうえで、市へのご意見・ご要望がありましたらご記入ください。

【自由意見・抜粋】

「市・国の施策について」（8件）

- 全国各地の自治体が行っている施策にアンテナを張り、たくさんの良いモデルケースを参考にして、宮古市に落とし込んでほしい。特に、学習機会の提供に力を入れて、若い世代から年寄り世代まで、広く男女共同参画について啓発してほしい。（男性 30 代）
- 幅広い層の女性の意見を聞いて施策に反映してもらいたいです。（男性 40 代）
- 女性が社会進出する為に、各サービスを拡充するのも良い事だと思います。国の施策である 103 万円の壁をどうするのか、市として 103 万を超えた人には損にならない様、手立てを考え、又、男性の家庭における意識を変える方法が必要かと思います。（男性 60 代）

「目指すべき宮古市の姿について」（6件）

- 私は、ホテル業に長年勤めております。ここ数年は、海外（インドネシア）の方々に人員不足分を、サポートしてもらってます。宮古市民はもちろん、外人の方も含めて、ワンチームで力を合わせて観光客を、大切にしている毎日です。宮古の為に頑張っている姿を見るたび、大切に見守っていきたいと思います。宮古市も今後の宮古に生活しやすい環境を、備えて欲しいものです。大事に長くをモットーに、宜しく願い致します。（男性 50 代）
- 男女に関わらず、労働に対する対価（給与）が圧倒的に低い。日々の生活に多少でも余裕が持てる程度の労働対価を、当たり前労働者が貰える様な労働環境整備を、市が最優先で取り組むべき。精神的に余裕が無ければ、共同参画等の諸問題に取り組む様な、新たな気持ちは生まれるべきもない。（男性 50 代）
- 男女平等になるには男も女も経済力をつけるべきだと思うが宮古市だと働く場所もなければ、60 過ぎると選択肢もなく経済的に余裕のある人とない人の差がかなりあると思う。金銭的にも心にも余裕がなければ男女共同参画まで考える余裕がない。うるおいのある市になって宮古市に住んでよかった、宮古市に住んでみたいという宮古市になってほしい。（女性 60 代）

「男女性差はあるため、何もかも同じは無理でありお互いに理解が必要である」（5件）

- レディファーストはありがたいが、そもそもそう考える事自体が男女平等でないと思う。力の差、体のちがいは事実なのだから受け入れることは大事だと思うし、子どもを産むのは女性で体調を戻すための休養や、仕事復帰もまわりの協力が必要だと思う。（女性 30 代）
- 性差は、ある。女性は男性ほど、力がない等（筋肉量の差）細やかな気配りは、女性の方が得意だろう。体に差がある以上、なにもかも「同じ」というのは無理だと思う。お互いを尊重する関係が構築されれば良いと思う。しかし、社会制度は、まだまだ、男性優位と感じる事が多い。「啓発」に社会制度が追いついていないと思う。まずは、社会制度の改善が第一ではないだろうか。（女性 60 代）
- 体力面で考案すれば、性別の判断は必須と考えます。災害時等における、活動（役割）は、男性主動とすることにより、スムーズな、動きになると思います。この様な状況において、男子たる者の役目と信じています。（男性 60 代）

「家庭や学校で子どもの頃から男女平等の教育をすることが必要である」(5件)

- 妊婦体験、陣痛体験を父親や中高生等の学生もできると良い。(女性 30代)
- 幼少期からの正しい性教育をしてほしい。人権の尊重のため、性差の知識が必要に思う。(女性 30代)
- 男、女というより、一人の人間として、見てもらえたら何の問題もなくなっていくと思う。男も女も、それぞれ、いろんな場面で頼り頼られで、しかたないけど、協力の仕方を子供のころから、知っていれば、どうにかなるのでは?と思う。(女性 50代)

「男女平等とはどのような姿なのかを示す、改めて考えるべきである」(4件)

- これまでは女性や性的マイノリティの方の地位向上が主で様々な取り組みがなされてきたと思いますが、男性や従来までの伝統的価値観も多様性の一つであるということが軽視されているように思います。SNS等の影響もあってこれまで保たれてきたジェンダー意識のバランスが崩れてきているように感じます。行き過ぎた取り組みは却って逆効果を生み出すような気もします。取り組みは大いに結構なことです、慎重な議論をお願いしたいです。(男性 40代)
- 職業、業種等により、男女平等が不可能な場合、又は、平等を推奨するあまり、女性に負担が生じる場合等あると思われます。平等が大切なのではなく、女性を尊重することが大切なのではないのでしょうか。(男性 50代)
- 「男女共同参画」という表現自体が、不平等が根底にあると意識されている。誰もが、(全ての人々が) 平等であるために表現に留意して広報してほしい。(男性 50代)

「本アンケートについて」(4件)

- このアンケートからは、女性の地位向上や女性が困っていることの解決にのみ偏り過ぎていてと感じてしまう。(男性 60代)
- 男女共同参画とマイノリティの調査が一緒と言うのはちょっと違うかなと思いました。(女性 70代以上)
- 質問の内容が理解できない所があった。夫婦で答えた所もあった。(男性 70代以上)

「相談環境について」(3件)

- 必要以上に反応せず、相手を思いやり、寄りそい、認める。相談出来る環境があれば良いと思います。(男性 50代)
- 何事に対しても、自分で見聞きする事が一番大事だと思いますが、その窓口をいつでも開けていただき、私達も一歩中に、踏み込む勇気を持ちたいものです。何かが見えてくると思います。(女性 70代以上)
- 相談できるような窓口があれば助かると思う。(女性 70代以上)

「企業が考えを改め、社会制度を充実させなければならない」(2件)

- 男女の分け隔てなく生活できる、働けるように。(私は普通の人とは違う特性がありますが、そんな人達のことでも考えてほしい。)(男性 20代)
- 非正規の職員として働いていますが、長く勤めていても、賞与や退職金制度がありません。希望したい職種があっても、子供の行事や部活等の事を考えると中々転職できず、キャリアアップも望めません。女性は出産があり、仕事はやはり制限されると思います。どんな仕事についていたとしても、賞与、退職金制度は就労しているすべての人に与えてほしいと思います。(女性 40代)

II 調査結果

「女性の登用や、役職や職員等の男女同率を目指してほしい」（2件）

- 女性消防団員の募集は一所懸命に行っているようだが、「女のくせに」「女はお飾りでしかない」と直接言われることもあると聞くので、地域のために休日返上で動いてくれる人の意識を変えるべきであると思う。宮古市議会の女性議員の少なさにこそ、宮古市特有の男尊女卑の気質が露呈していると感じる。女性がキラキラと輝ける施策ができることを期待します。（男性 30 代）
- クォータ制の導入。（女性 60 代）

「その他」（16 件）

- 学童に子どもをいれて働くことも考えたが、学童が荒れているので安心して預けようという気持ちになれません。働く女性が安心して子どもを預けられる仕組みをもっと整えていただけるといいのではないのでしょうか。（女性 30 代）
- 学校制服を新たに決める際は、「ジェンダーレス」とかの用語を使用せずに「自由な選択」とする等にすべき。そもそも、男女分けずに平等社会への取組とすべきでは？（男性 30 代）
- 力を合わせて一緒に仕事をし、同じ資格で結びついたり同じ条件でかかわり合う為の施策。ゆずり合う、自分の主張をおさえる・優しさであたたかい気持ちを保ち、行動出来たならと考えます。素直に他から学ぼうとする行動。笑顔で、元気良くあいさつをする様心掛ける。ゆううつな時も、空元気で良い・常に明るくと願う。有り難うございます・お陰様でしたを家族にも言う。（男性 70 代以上）

資料編

1 使用した調査票

男女共同参画に関する市民意識調査

日頃より、市政にご理解・ご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

宮古市では、誰もが等しく個人として尊重され、支え合い、個性と能力をいかせる社会の実現を目指して、「宮古市男女共同参画基本計画」を策定し、体系的に関係施策を展開しています。

本調査は、令和8年度からの同計画の見直しを控え、今後の男女共同参画施策を検討するための基礎資料を得ることを目的として、無作為抽出した18歳以上の市民1,400人の方を対象に実施いたします。

調査は無記名で行い、お答えいただいた内容は、すべて統計的に処理しますので、個々のご回答やプライバシーに関わる内容が公表されることは、一切ありません。

本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

令和6年9月

宮古市

ご回答にあたってのお願い

- 回答はすべて、封筒のあて名のご本人がお答えください。
- 回答は、設問ごとに決められた数だけ、あてはまる項目の番号に○印をつけてください。
- 回答していただく方が限られる設問もありますので、設問の指定に沿ってお答えください。特段指定がない設問については全員がお答えください。
- 「その他」にあてはまる場合は、()内になるべく具体的にご記入ください。

回答方法

- 『紙の調査票』または『WEB』の2種類あります。
- 『紙の調査票』で回答される方は、記入した調査票を同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずにポストへ投函してください。
- 『WEB』で回答される方は、下のURLまたは二次元コードからアクセスしていただきご回答ください。
- 回答期限は **令和6年10月15日(火)** です。 ※当日消印有効

URL : <https://logoform.jp/form/4cHy/708788>



この調査に関するお問い合わせ先

宮古市市民生活部生活課 男女参画・協働推進係 TEL : 0193-68-9080

あなたご自身とあなたの身のまわりのことについてお聞かせください。

問1 あなたの性別を教えてください。(○印は1つ)

- 1 男性 2 女性 3 その他(心と体の性が一致しない等)

問2 あなたの年齢は何歳ですか。(○印は1つ)

- 1 18～19歳 3 30～39歳 5 50～59歳 7 70歳以上
2 20～29歳 4 40～49歳 6 60～69歳

問3 あなたのお住いの地区はどこですか。(○印は1つ)

- 1 宮古地区 3 花輪地区 5 重茂地区 7 新里地区
2 崎山地区 4 津軽石地区 6 田老地区 8 川井地区

問4 あなたの主な職業は次のどれにあたりますか。(○印は1つ)

- | | | | |
|-----------------|--------|---------------------------|--------|
| 1 農林漁業含む自営業 | } →問5△ | 6 家事専従 | } →問6△ |
| 2 正規の会社員・団体職員等 | | 7 学生 | |
| 3 非正規の会社員・団体職員等 | | 8 無職 | |
| 4 企業・団体役員 | | 9 その他() | |
| 5 パート・アルバイト | | | |

【問4で、「1」～「5」と答えた方にお聞きします】

問5 1週間あたりの労働時間(残業時間も含む)は、だいたいどれくらいですか。

(○印は1つ)

- 1 週29時間以下 3 週40～49時間 5 週60時間以上
2 週30～39時間 4 週50～59時間

【ふたたび、全員にお聞きします】

問6 あなたの世帯構成は次のどれにあたりますか。(○印は1つ)

- 1 ひとり暮らし 2 同居する人がいる

問7 あなたは現在、結婚（事実婚や別居中も含む）していますか。（○印は1つ）

- | | | | |
|------|------|---------|--------|
| 1 既婚 | →問8へ | 2 離別・死別 | } →問9へ |
| 3 未婚 | | | |

【問7で、「1」とお答えになった方にお聞きます】

問8 あなたとあなたの配偶者・パートナーの働き方は、どれにあたりますか。（○印は1つ）

- | | |
|------------------|--------------------|
| 1 共働き（パート・内職を含む） | 3 配偶者・パートナーのみ働いている |
| 2 自分のみ働いている | 4 2人とも働いていない |

【ふたたび、全員にお聞きます】

問9 あなたは次の「ことば」を知っていますか。

（ア～ケそれぞれについてあてはまるもの1つに○印）

	知 よ く つ て い る	あ る 聞 い た こ と が	知 ら な か つ た
※記入例	1	2	3
ア ジェンダー（社会的・文化的に作られた性差）	1	2	3
イ ワーク・ライフ・バランス （仕事と生活の調和のこと）	1	2	3
ウ アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）	1	2	3
エ DV （配偶者等の親密なパートナー関係の中で起こる暴力のこと）	1	2	3
オ デートDV （交際中のカップル間で起こる暴力のこと）	1	2	3
カ ダイバーシティ （性別や国籍、年齢などに関わりなく、多様な個性が力を発揮し、共存できる社会のこと）	1	2	3
キ LGBTQ（性のあり方の多様性として性的マイノリティ※を表すことばの一つ）	1	2	3
ク アウティング （LGBTQの性自認・性的指向を、本人の承諾を得ることなく勝手に他人に暴露する行為）	1	2	3
ケ パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度 （性的マイノリティなどのカップルが、互いに人生のパートナーとして継続的に協力し合うことを約束した関係であることを宣誓し、自治体はその宣誓書を受け取ったことを公に証明する制度）	1	2	3

※性的マイノリティ：同性に恋愛感情をもつ人や、自分の性に違和がある人

男女平等に関する意識について

問 10 あなたは男女平等や、性別にとらわれた役割意識の解消について、どの程度関心がありますか。（○印は1つ）

- | | | |
|-------------|------------|---------|
| 1 関心がある | 3 あまり関心がない | 5 わからない |
| 2 ある程度関心がある | 4 関心がない | |

問 11 「男は仕事、女は家庭」という考え方を、あなたはどのように思いますか。（○印は1つ）

- | | | |
|--------------|--------------|---------|
| 1 賛成 | 3 どちらかといえば反対 | 5 わからない |
| 2 どちらかといえば賛成 | 4 反対 | |

問 12 あなたは次の各分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

（ア～キそれぞれについてあてはまるもの1つに○印）

	女性が優遇されている	女性の方がやや優遇されている	平等になっている	男性の方がやや優遇されている	男性が優遇されている	わからない
※記入例	1	2	3	4	5	6
ア 家庭生活	1	2	3	4	5	6
イ 地域活動	1	2	3	4	5	6
ウ 社会通念やしきたり	1	2	3	4	5	6
エ 学校教育・進学	1	2	3	4	5	6
オ 職場・職種	1	2	3	4	5	6
カ 政治・経済界	1	2	3	4	5	6
キ 法律や制度上	1	2	3	4	5	6

問 15 あなたの家庭では、次にあげる仕事等は、男女どちらの役割になっていますか。一人暮らしの方は、どちらの役割がふさわしいと思いますか。

(ア～サそれぞれについてあてはまるもの1つに○印)

	主に男性	どちらかといえば男性	男女 同じ程度	どちらかといえば女性	主に女性	わからない
※記入例	1	2	3	4	5	6
ア 食事のしたく	1	2	3	4	5	6
イ 食事の後片付け	1	2	3	4	5	6
ウ 日常の買い物(食料品・日用品)	1	2	3	4	5	6
エ 掃除	1	2	3	4	5	6
オ 洗濯	1	2	3	4	5	6
カ ゴミ出し	1	2	3	4	5	6
キ 介護	1	2	3	4	5	6
ク 地域活動への参加	1	2	3	4	5	6
ケ 子どもの教育・学校行事への参加	1	2	3	4	5	6
コ 高額商品等の購入決定	1	2	3	4	5	6
サ 家庭問題の最終決定	1	2	3	4	5	6

仕事について

問 16 女性が働くことについて、どのようにお考えですか。(○印は1つ)

- 1 結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい
- 2 結婚するまでは仕事を続ける方がよい
- 3 子どもができるまでは仕事を続ける方がよい
- 4 子どもができたら仕事をやめ、子どもが大きくなったら働き始める方がよい
- 5 働かない方がよい
- 6 その他 ()

問 17 男性と比較して、女性にとって働き続けることが難しい社会だと思いますか。

(○印は1つ)

- | | | |
|-------------------|---|---------|
| 1 働き続けることが困難である | } | →問 18 へ |
| 2 ある程度働きにくい状況である | | |
| 3 それほど働きにくい状況ではない | } | →問 19 へ |
| 4 働きにくい状況ではない | | |
| 5 わからない | | |

【問 17 で、「1」～「2」とお答えになった方にお聞きます】

問 18 働きにくい状況になるのは何が理由だと思いますか。(○印は3つまで)

- 1 子ども・要介護者がいると職業の選択肢が狭まる
- 2 労働条件が整っていない
- 3 保育、介護等の施設が十分でない
- 4 昇進、教育訓練等に男女差がある
- 5 職場の理解が進んでいない
- 6 家族の理解、協力が得にくい
- 7 結婚、出産退職の慣例があり「男は仕事、女は家庭」という社会通念がある
- 8 その他 ()

【ふたたび、全員にお聞きます】

問 19 女性が働きやすくなるために必要なことは、何だと思いますか。(○印は3つまで)

- 1 結婚・出産・介護などで退職した女性の再雇用制度を充実させる
- 2 保育施設や介護のための施設・サービス、家事サービスを拡充する
- 3 育児や介護のための休暇制度を充実させる・必ず取得できるようにする
- 4 労働時間の短縮や休日の増加を促進する
- 5 フレックスタイム制、在宅勤務制度などを導入する
- 6 賃金、仕事内容など、労働条件面での不当な男女差をなくす
- 7 育児や介護のための休暇中の諸手当を充実させる
- 8 仕事と家庭の両立などの問題について相談できる窓口を設ける
- 9 昇進、昇格の機会を男女差をなくす
- 10 女性のキャリアアップのための研修や職業訓練の機会を拡充する
- 11 その他 ()

問 22 あなたはこれまで身のまわりでDVを経験したり、見聞きしたことがありますか。
(あてはまるものすべてに○印)

- 1 自分が直接経験したことがある
- 2 相談を受けたことがある
- 3 相談を受けたことはないが、当事者を知っている
- 4 見聞きしたことはない
- 5 その他 ()

問 23 あなたは配偶者や交際相手から暴力を受けた場合、誰かに打ち明けたり、相談したりしますか。(あてはまるものすべてに○印)

- 1 警察に連絡・相談する
- 2 配偶者暴力相談支援センター(男女共同参画センター等)に相談する
- 3 市役所の相談窓口相談する
- 4 民間の専門機関に相談する
- 5 親族に相談する
- 6 友人・知人、職場の人に相談する
- 7 その他 ()
- 8 だれ(どこ)にも相談しない

問 24 あなたは配偶者や交際相手からの暴力に対する取組として、どのようなことが必要だと思いますか。(○印は3つまで)

- 1 相談機関を充実させること(配偶者暴力相談支援センター等)
- 2 被害者が自立して生活できるように支援すること
- 3 被害者を保護する体制を整備すること
- 4 被害を受けて悩んでいる人へ支援に関する情報を提供すること
- 5 暴力の再発を防ぐための加害者に対するカウンセリングや教育等を実施すること
- 6 暴力防止のための啓発・教育をすすめること
- 7 その他 ()
- 8 特に何かに取り組む必要はない

問 25 現在、性的マイノリティ（同性に恋愛感情をもつ人、自分の性に違和がある人）の方にとって偏見や差別により生活しづらい社会だと思いますか。（○印は1つ）

- | | | |
|--------------|----------------|---------|
| 1 思う | 3 どちらかといえば思わない | 5 わからない |
| 2 どちらかといえば思う | 4 思わない | |

問 26 あなたは性的マイノリティの方が日常生活を営む上で、どのような課題に直面していると思いますか。（あてはまるものすべてに○印）

- | |
|---------------------------------------|
| 1 学校生活（学校の制服、宿泊行事、トイレ、更衣室、プール） |
| 2 就労（採用試験、更衣室、トイレ、結婚休暇や介護休暇などの福利厚生制度） |
| 3 住宅（同性カップルの賃貸住宅への入居制限） |
| 4 医療（同性パートナーの手術の同意、安否情報の提供、看護） |
| 5 民間サービス（家族と同等のサービス提供、家族割引、生命保険の受取など） |
| 6 死別（同性パートナーとしての葬儀への出席、遺産相続） |
| 7 被災時の生活（避難所生活、安否確認） |
| 8 その他（ <input type="checkbox"/> ） |
| 9 直面している課題は無いと思う |

問 27 性的マイノリティの方が安心・安全な生活を送るためには、どのような取組が必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○印）

- | |
|-----------------------------------|
| 1 教育機関や職場での配慮（制服や更衣室・トイレの配慮など） |
| 2 教育機関や職場での理解の促進 |
| 3 パートナーシップ宣誓制度の導入・充実 |
| 4 市の広報紙やホームページ、SNS、講座等による啓発 |
| 5 申請書等にある必要のない性別記載欄の削除 |
| 6 わからない |
| 7 その他（ <input type="checkbox"/> ） |
| 8 取組が必要とは思わない |

宮古市
男女共同参画に関する市民意識調査
－調査結果報告書－

発行年月：令和6年12月

発行：宮古市 市民生活部 生活課

〒027-8501 岩手県宮古市宮町一丁目1番30号

電話 0193-62-2111

FAX 0193-63-9110

調査委託：株式会社サーベイリサーチセンター